

# 第2章

## 神川町の現状

## 第2章 神川町の現状

本町が抱えるまちづくりの課題を整理するため、人口動向や土地利用、公共交通、都市機能等について、町全域での現状の把握・分析を行いました。

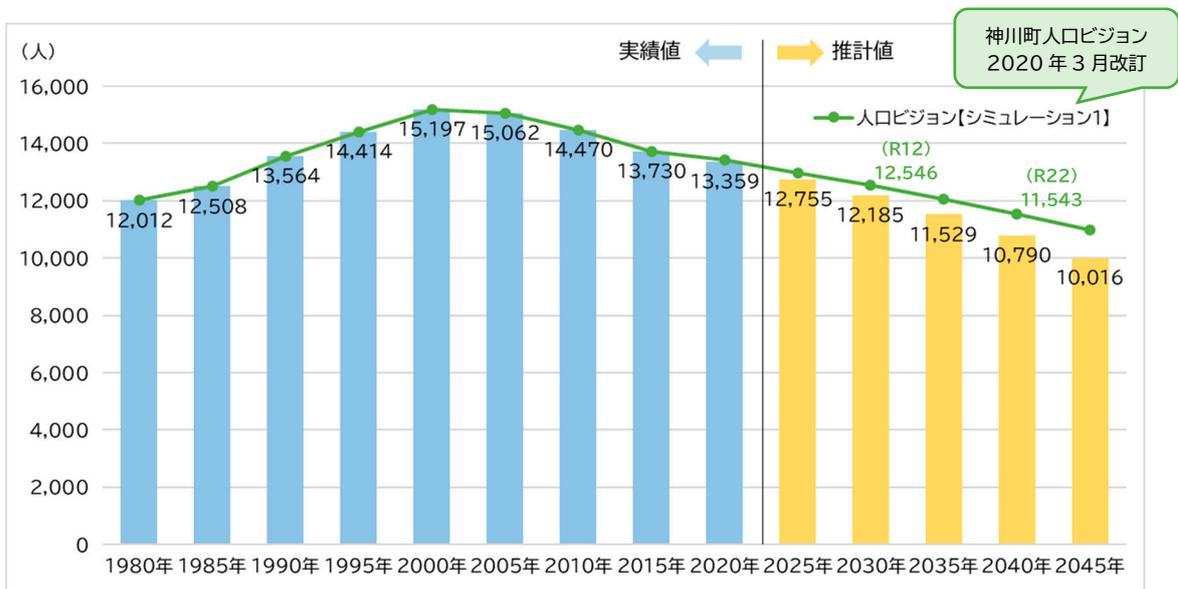
### 1. 現況整理

#### (1) 人口動向

総人口、高齢化の推移等について整理を行いました。なお、本町には人口集中地区(DID)はありません。

##### ① 人口動向

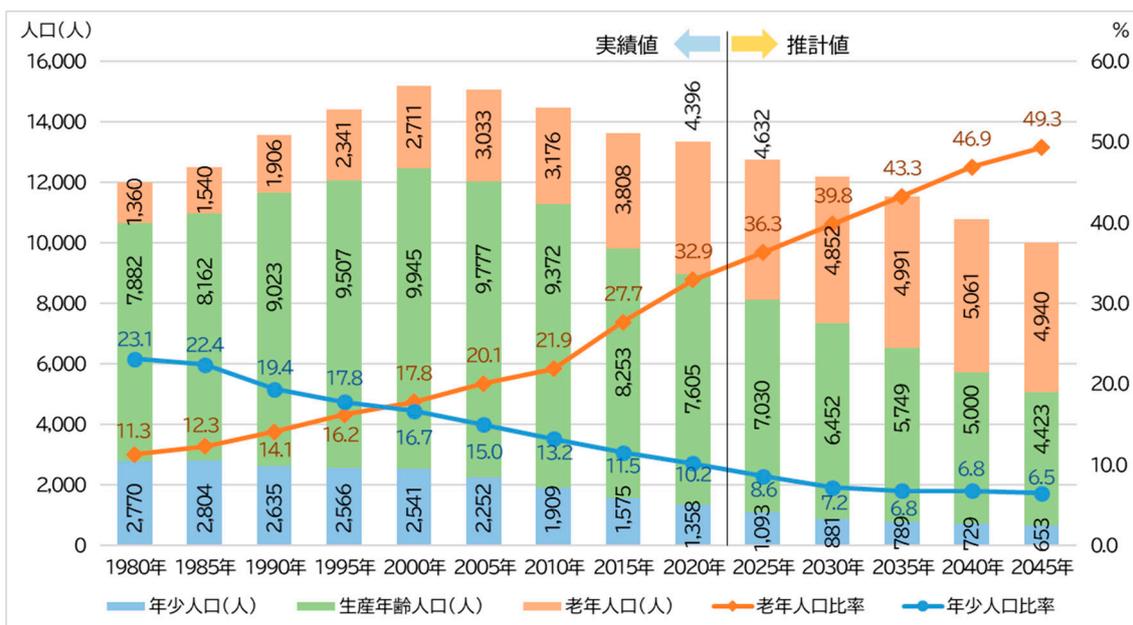
- ・本町の令和2(2020)年の人口は13,359人です。平成12(2000)年の15,197人までは人口増加傾向が続きましたが、平成17(2005)年には減少に転じ、その後減少が続いています。
- ・国立社会保障・人口問題研究所の推計では、令和27(2045)年の人口は、10,016人と推計され、令和2(2020)年よりも25.0%減少する見通しとなっています。さらに、5年後の令和32(2050)年には、人口は1万人を切る推計となっています。



■人口の推移と将来推計

出典:実績値:国勢調査/推計値:国立社会保障・人口問題研究所による令和5年推計値、神川町人口ビジョン

- ・年齢階級別人口は、65歳以上の老年人口比率の上昇傾向が続き、令和2（2020）年には32.9%となっており、年少人口比率10.2%の約3倍となっています。
- ・国立社会保障・人口問題研究所の推計では、今後も少子高齢化の傾向は続いており、令和22（2040）年まで老年人口が増加し、その後の令和27（2045）年には減少をはじめますが、老年人口比率は49.3%と町の人口の約半分を占める見通しとなっています。



■年齢階級別人口の推移と比率

出典：実績値：国勢調査／推計値：国立社会保障・人口問題研究所による令和5年推計値

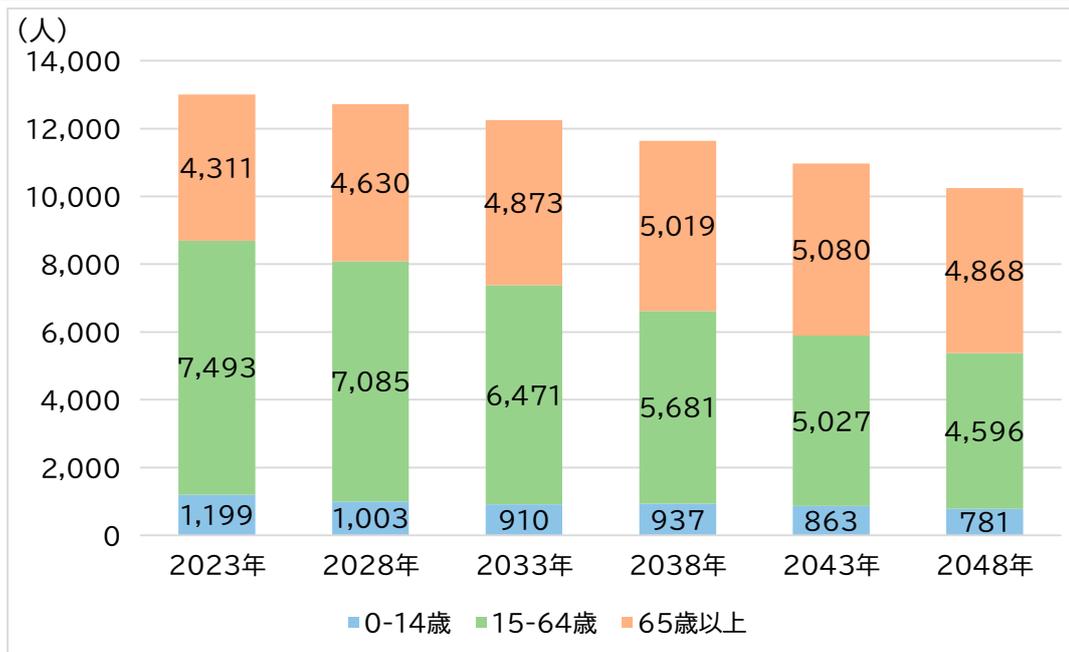
## ② 人口推計（住民基本台帳ベース）

令和5（2023）年の住民基本台帳から、25年後の令和30（2048）年の推計人口を算出しました。

- ・人口推計の結果、令和5（2023）年の13,003人から、令和30（2048）年までの25年間で2,758人減少し、10,245人となる見通しです。国立社会保障・人口問題研究所の推計では、令和27（2045）年で10,016人となっており、推計値のほうが減少人口は少ないですが、概ね結果に相違はないといえます。
- ・本町における年齢構造の推移の特徴としては、0～14歳の人口割合が令和5（2023）年から令和30（2048）年の25年間で1.6ポイント減少し781人、15～64歳の人口割合は12.7ポイント減少し、4,596人となりました。
- ・一方で、65歳以上の人口割合は33.2%から14.3ポイント増加し、令和30（2048）年の高齢化率は47.5%と町民の約半数が高齢者となる見通しです。人口数は、令和25（2043）年までは増加を続け5,080人に達したあと、令和30（2048）年には減少し4,868人となりますが、令和5（2023）年時点と比較すると557人増加しています。

■年齢3区分別人口推計結果

年	総人口	年齢3区分別人口			年齢3区分別人口割合		
		0-14歳	15-64歳	65歳以上	0-14歳	15-64歳	65歳以上
2023	13,003	1,199	7,493	4,311	9.2%	57.6%	33.2%
2028	12,718	1,003	7,085	4,630	7.9%	55.7%	36.4%
2033	12,254	910	6,471	4,873	7.4%	52.8%	39.8%
2038	11,637	937	5,681	5,019	8.1%	48.8%	43.1%
2043	10,970	863	5,027	5,080	7.9%	45.8%	46.3%
2048	10,245	781	4,596	4,868	7.6%	44.9%	47.5%

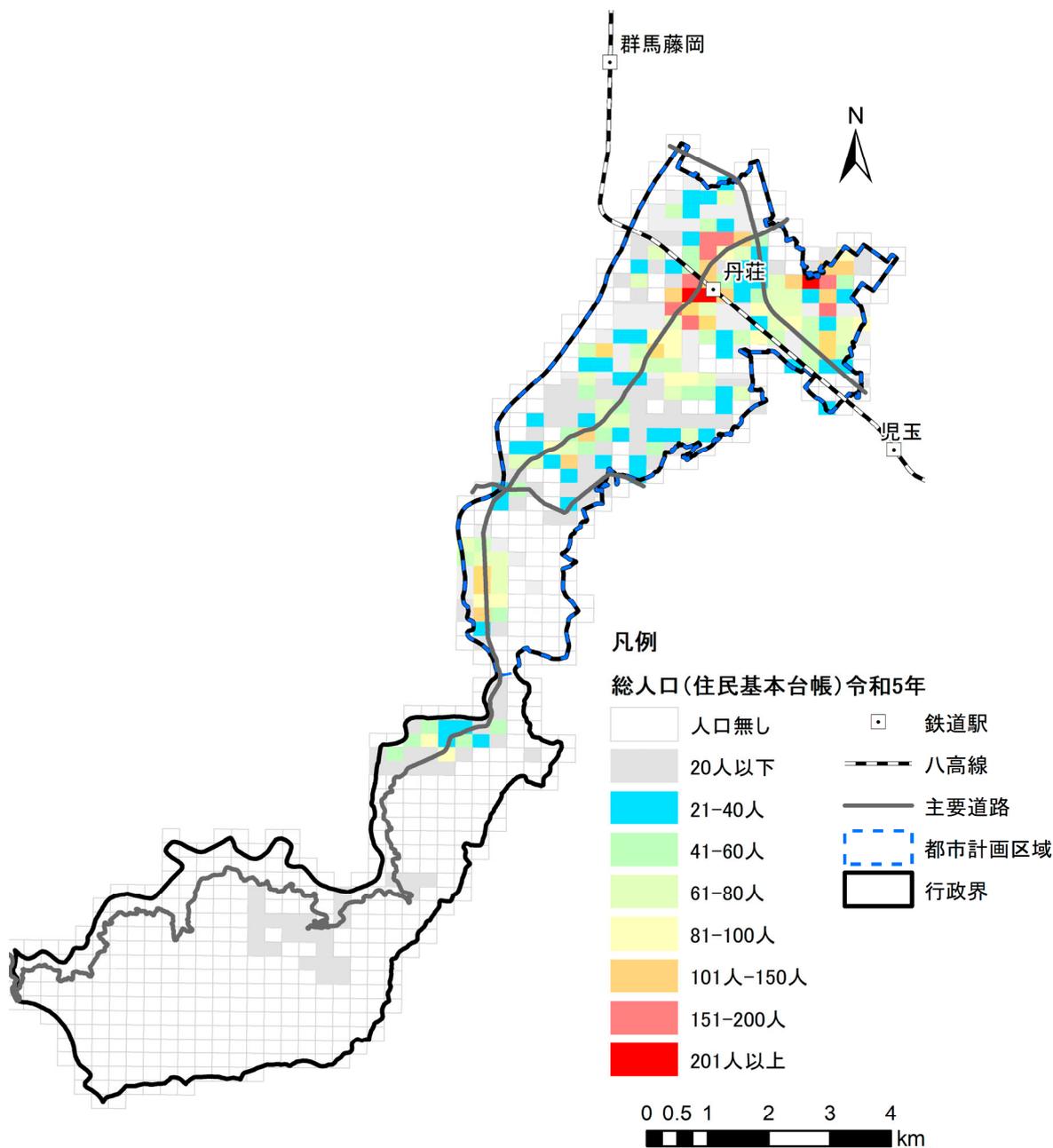


■年齢3区分別人口推計結果

出典：住民基本台帳

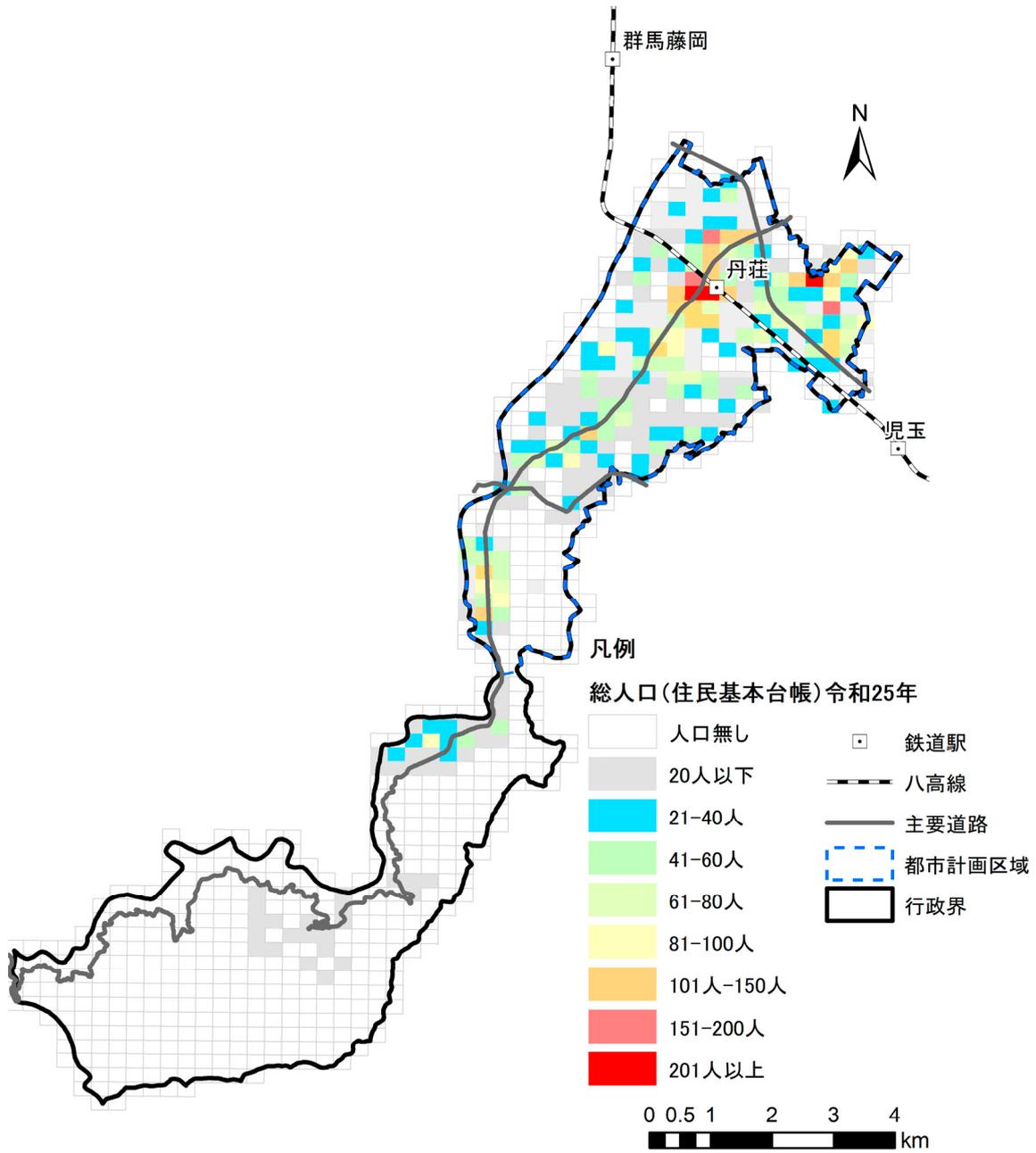
### ③ 地区別人口密度の状況と見通し（住民基本台帳ベース、250m メッシュ）

- ・住民基本台帳を基にした総人口を見ると、令和5（2023）年には、丹荘駅周辺、児玉工業団地周辺、渡瀬地区に人口101人以上のメッシュが見られ、その中でも丹荘駅周辺、児玉工業団地周辺には201人以上のメッシュも見られ、人口が集積しています。令和25（2043）年には、全体的に人口が減少しており、渡瀬地区では人口101人以上のメッシュは減少し、丹荘駅周辺や児玉工業団地周辺には101人以上のメッシュが集中しています。
- ・総人口増減を見ると、一部を除いて町全体で人口が減少しており、1～19人減少している地区がほとんどで、神泉総合支所の周辺で人口減少が最も多く見られます。



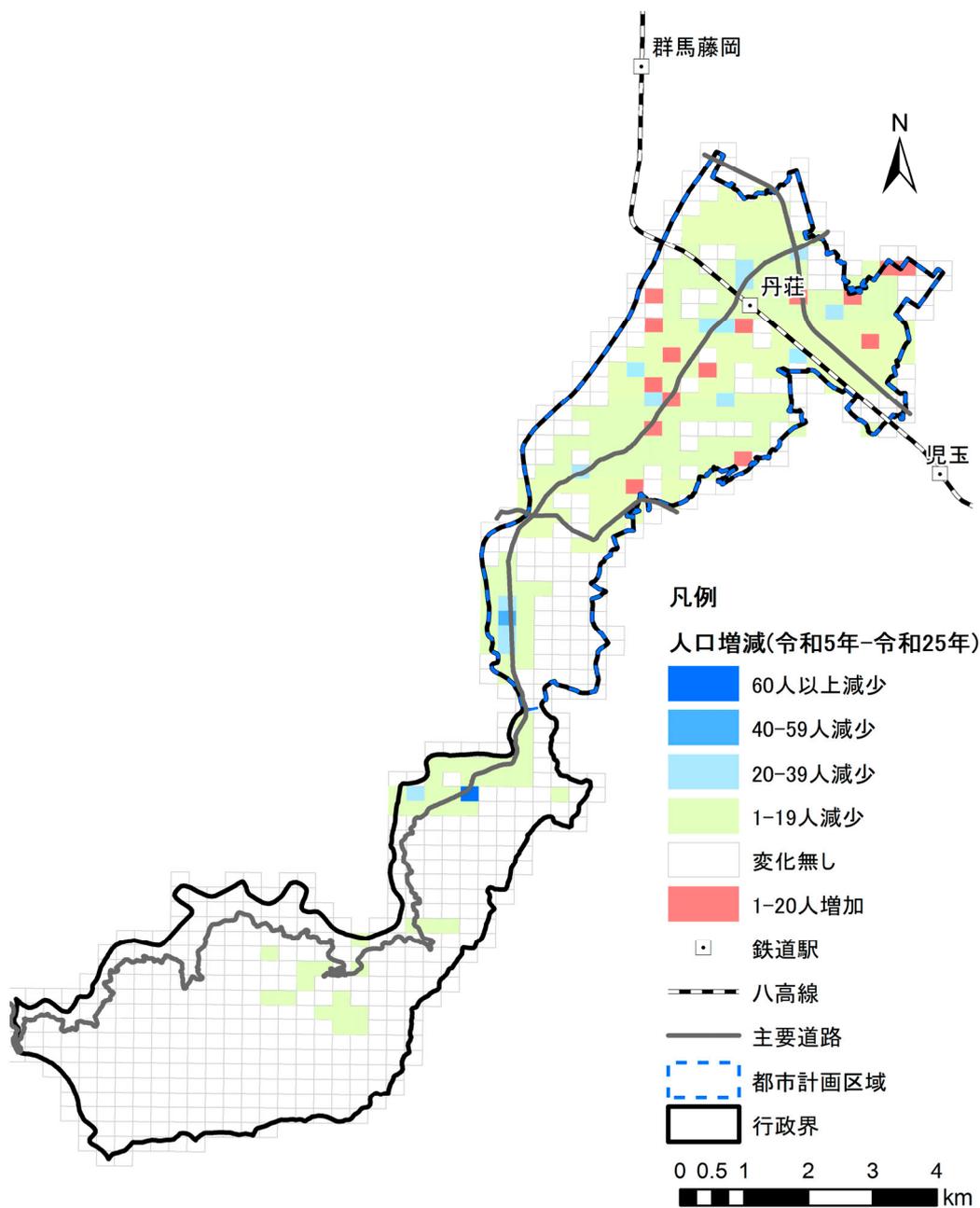
■総人口(住民基本台帳)令和5年 250m メッシュ

出典:住民基本台帳



■総人口(住民基本台帳)令和 25 年 250m メッシュ

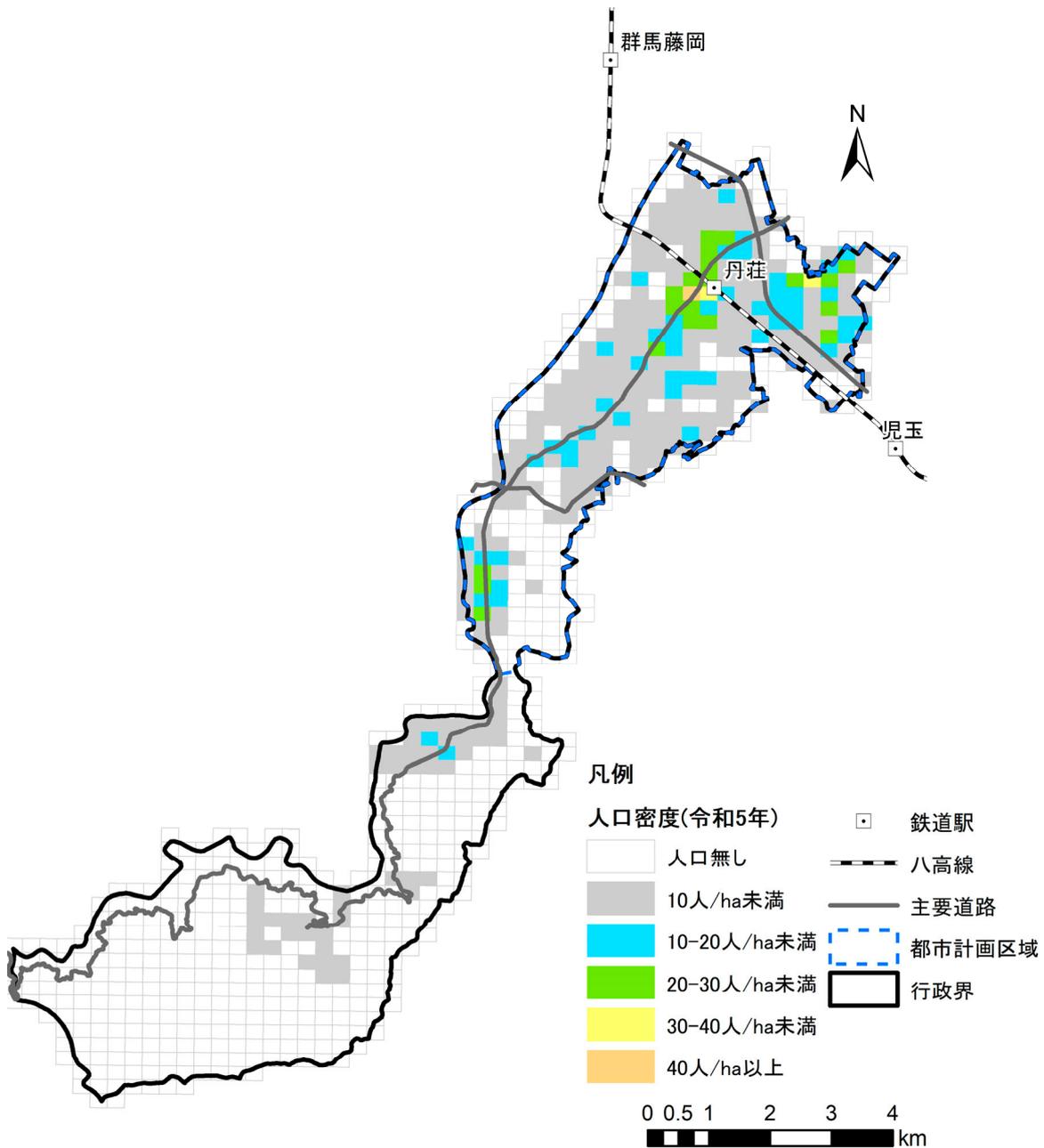
出典:住民基本台帳



■人口増減(令和5年-令和25年) 250mメッシュ

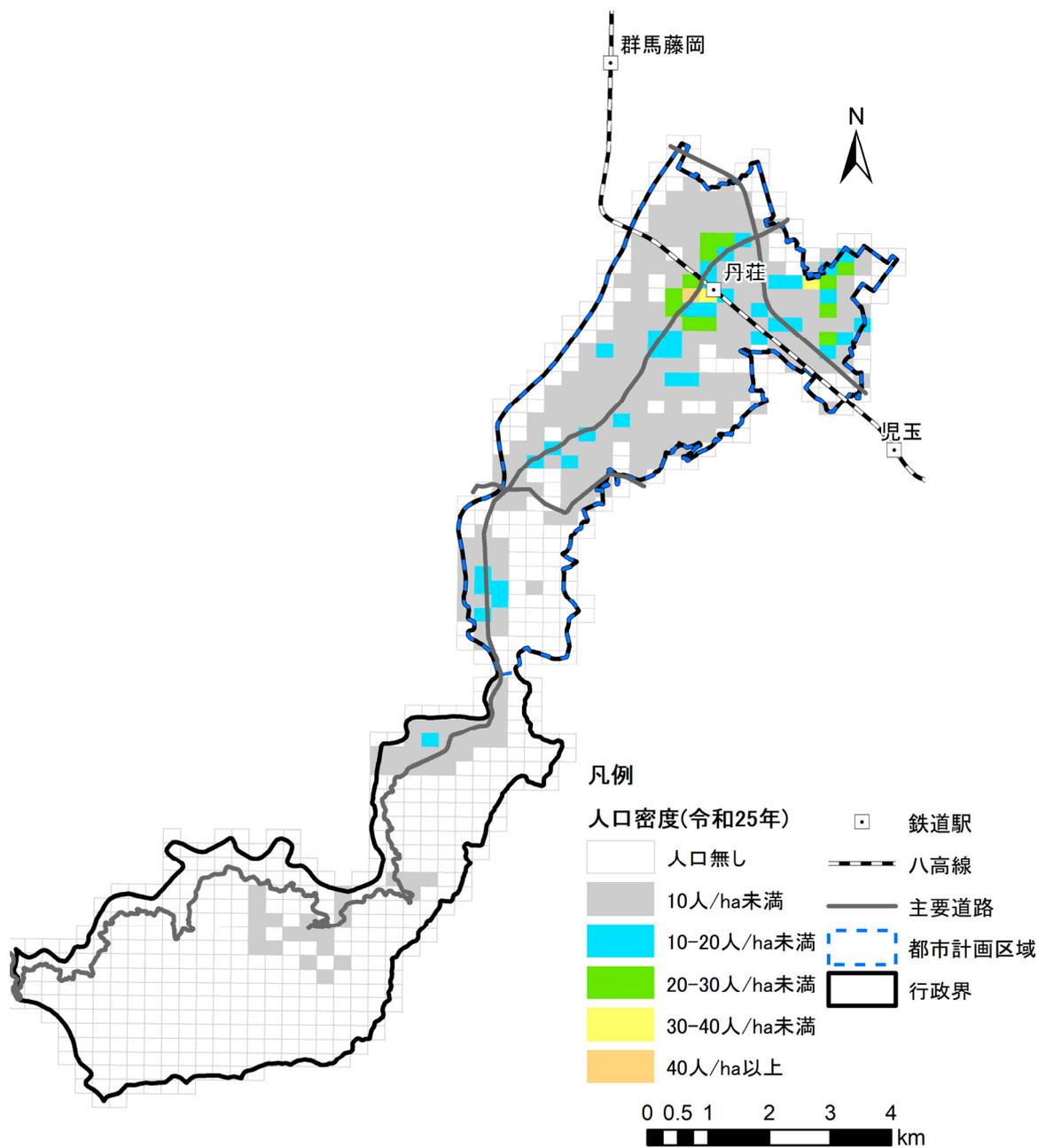
出典:住民基本台帳

- ・住民基本台帳を基にした人口密度を見ると、令和5（2023）年には丹荘駅周辺に40人/ha以上の人口密度が見られ、その周辺に30人/ha以上の人口密度も見られます。児玉工業団地周辺についても30人/ha以上の人口密度が見られます。町全体としては、ほとんどが10人/ha未満となっており、一部10人/ha以上の人口密度となっています。
- ・都市計画区域内に人口が集積しており、都市計画区域外については神泉総合支所周辺に10人/ha以上の人口密度が見られます。
- ・令和25（2043）年には、丹荘駅周辺や児玉工業団地周辺、渡瀬地区の住宅地等の一部地域を除き、ほとんどの地区が10人/ha未満となっています。また、都市計画区域外である神泉地域は、ほとんど10人/ha未満となっています。



■人口密度(令和5年) 250mメッシュ

出典:住民基本台帳

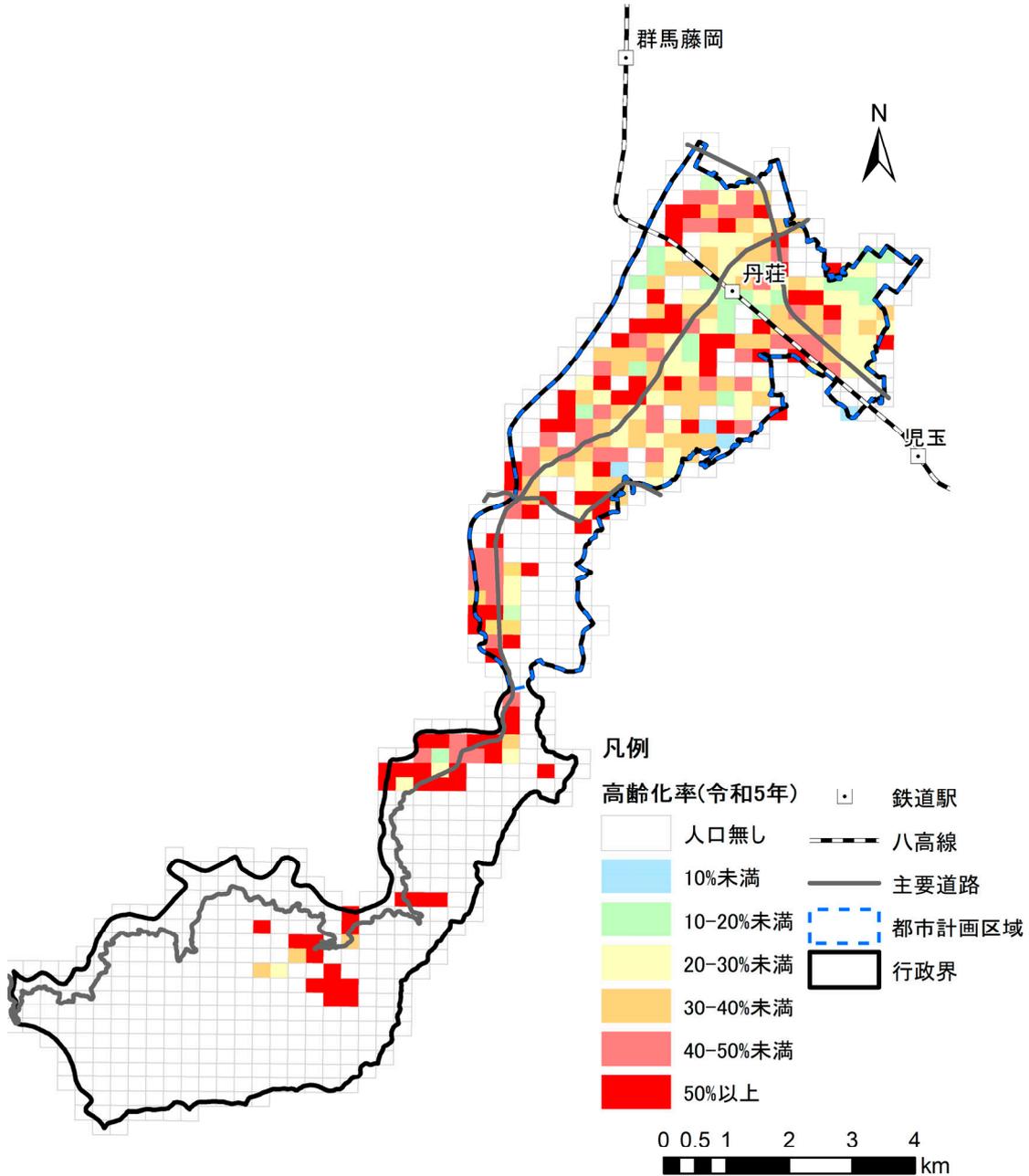


■人口密度(令和25年) 250mメッシュ

出典:住民基本台帳

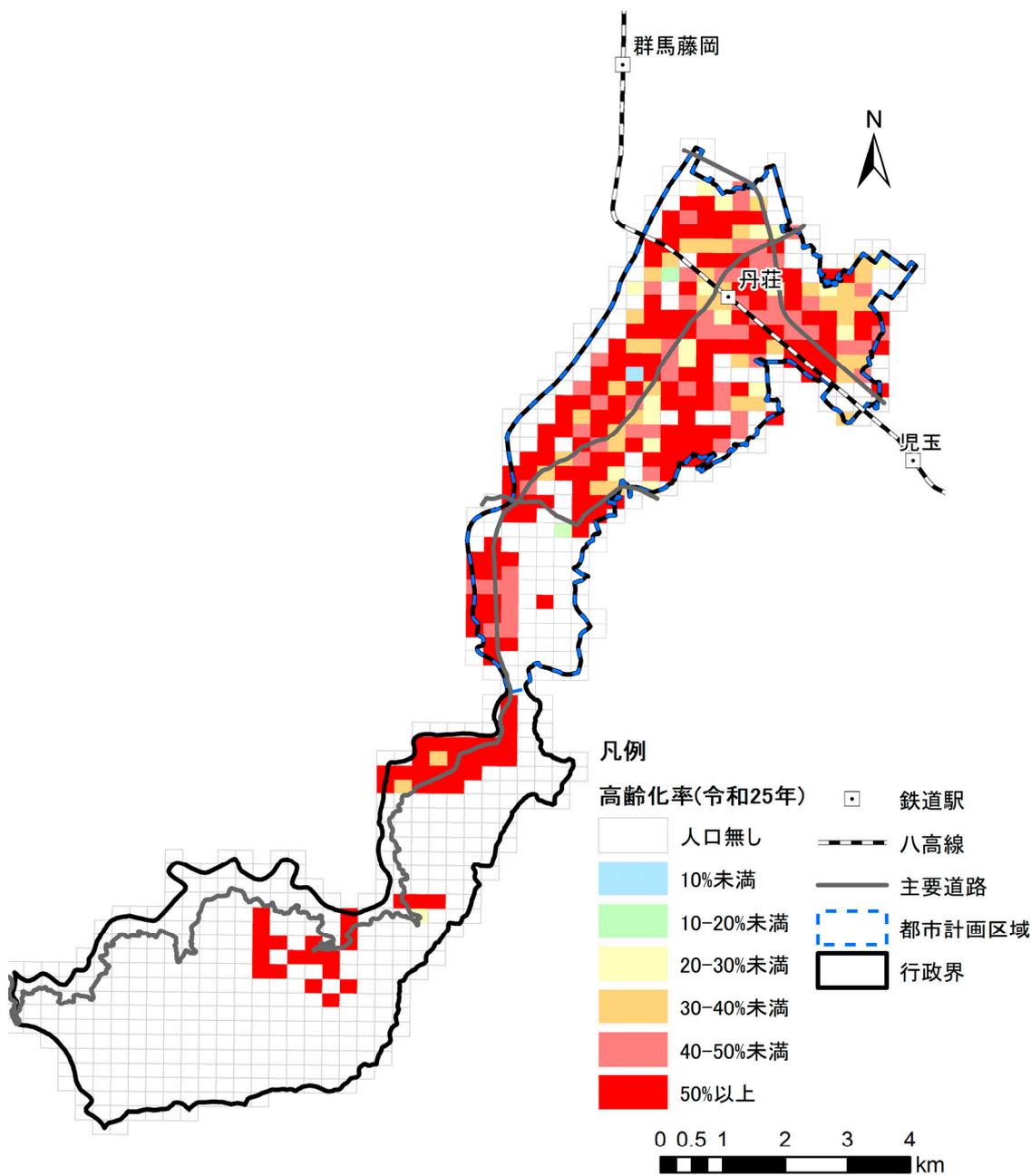
#### ④ 地区別高齢化率の状況と見通し（住民基本台帳ベース）

- ・令和5（2023）年には町の南部を中心に高齢化率50%以上の地区が点在しています。丹荘駅周辺は、周辺地区よりも高齢化率が低く30%未満となっています。
- ・令和25（2043）年の推計では、町のほとんどの地区で高齢化率50%以上の高い値となる見通しであり、高齢化率10%未満の地区はほとんど見られません。



■高齢化率(令和5年) 250mメッシュ

出典:住民基本台帳

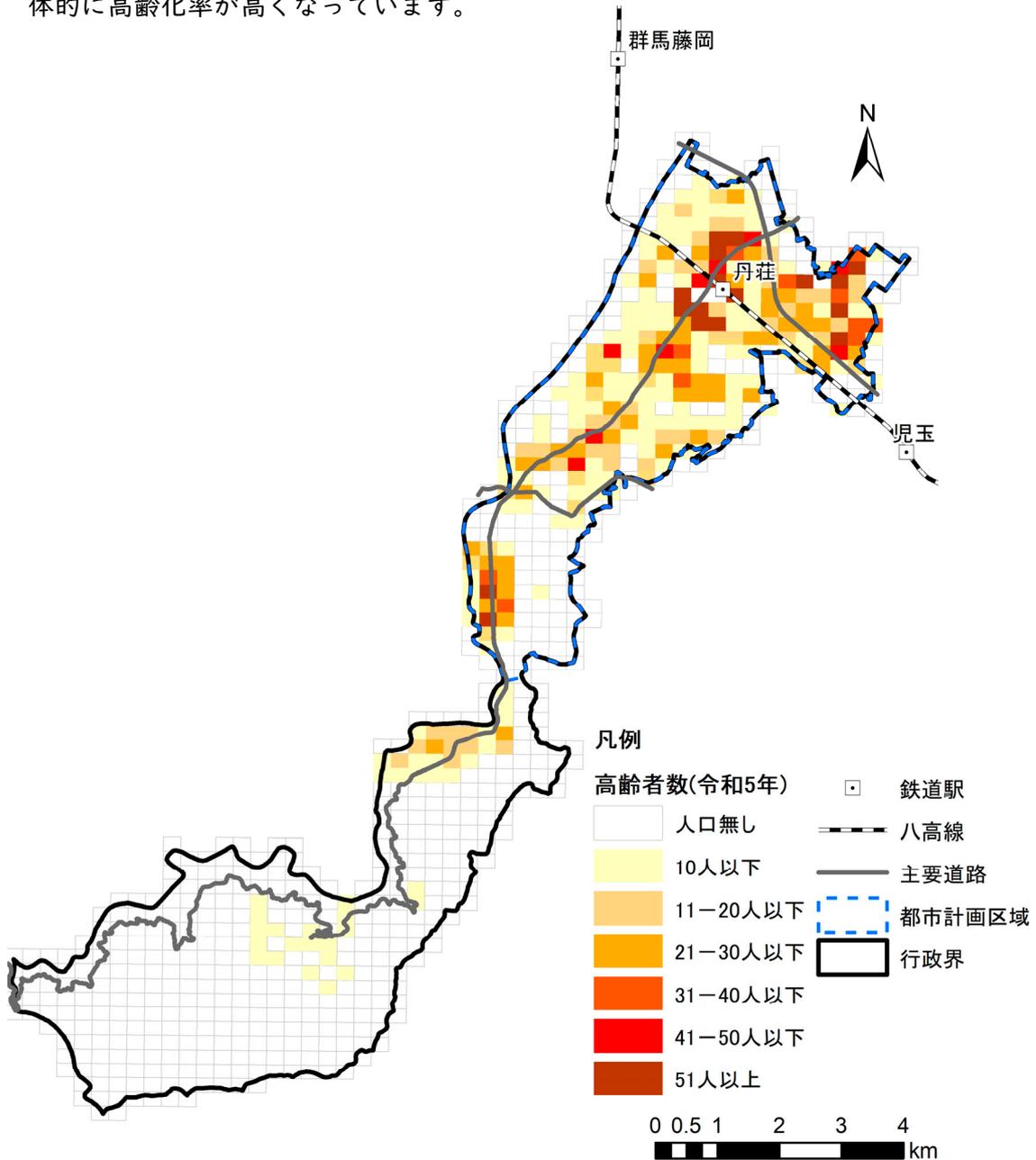


■高齢化率(令和25年) 250mメッシュ

出典:住民基本台帳

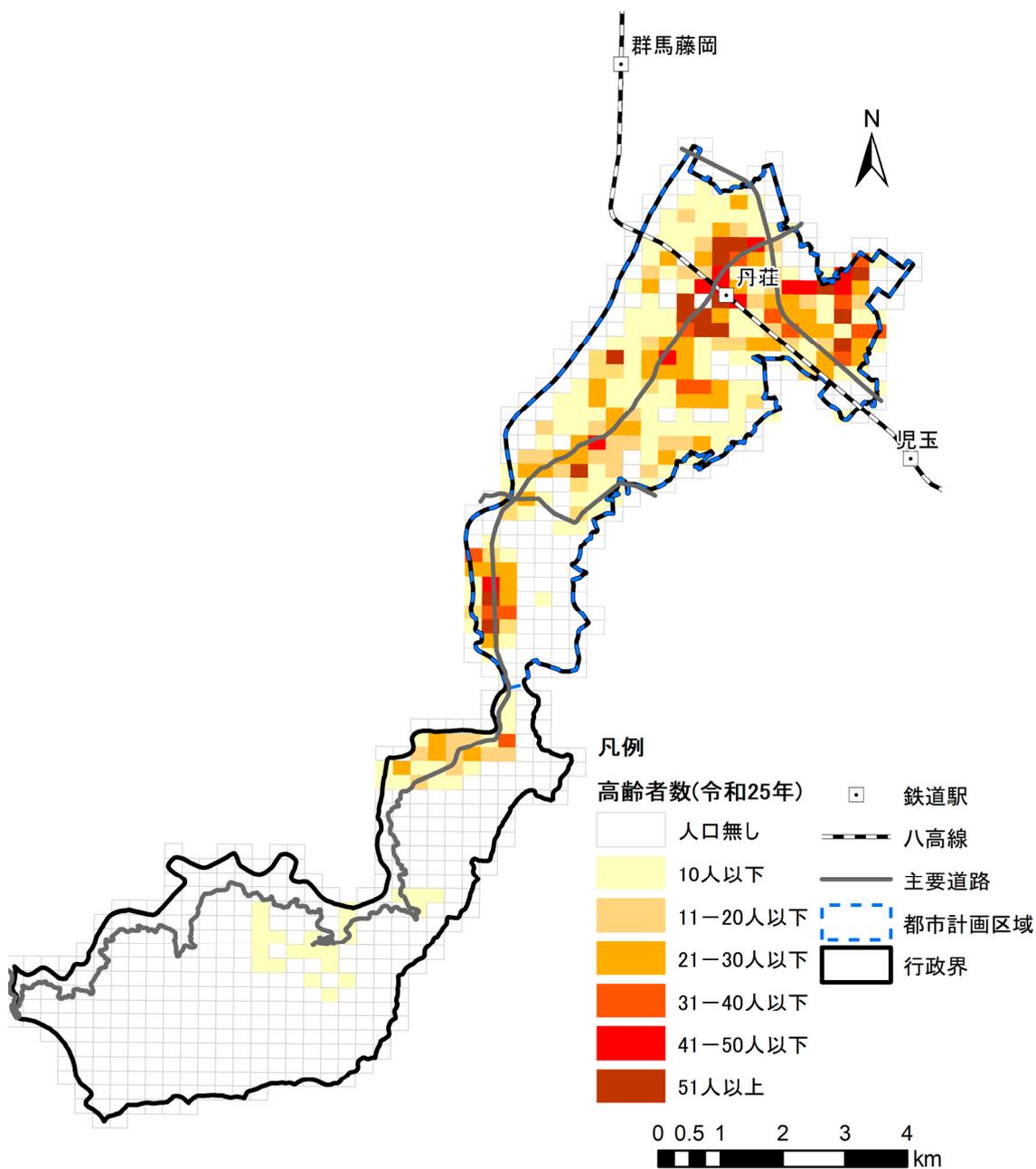
### ⑤ 地区別高齢者人口の状況と見通し（住民基本台帳ベース）

- ・令和5（2023）年では、丹荘駅周辺及び渡瀬地区に高齢者数51人以上の地区が見られます。また、駅や主要地方道上里鬼石線沿い、児玉工業団地周辺等で高齢者数40人以上となっていますが、その周辺ではほとんどの地区が10人以下となっています。
- ・令和25（2043）年の推計では、丹荘駅周辺と児玉工業団地周辺に高齢者数51人以上の地区が見られます。
- ・高齢者数増減を見ると、丹荘駅周辺と児玉工業団地周辺では高齢者数21人以上増加しており、その他地区でも20人以下の増加が見られます。
- ・地区別高齢化率の状況と比較すると、令和5（2023）年時点で高齢者数が多い地区は、高齢化率が低い傾向ではありますが、令和25（2043）年では高齢者数に関わらず、全体的に高齢化率が高くなっています。



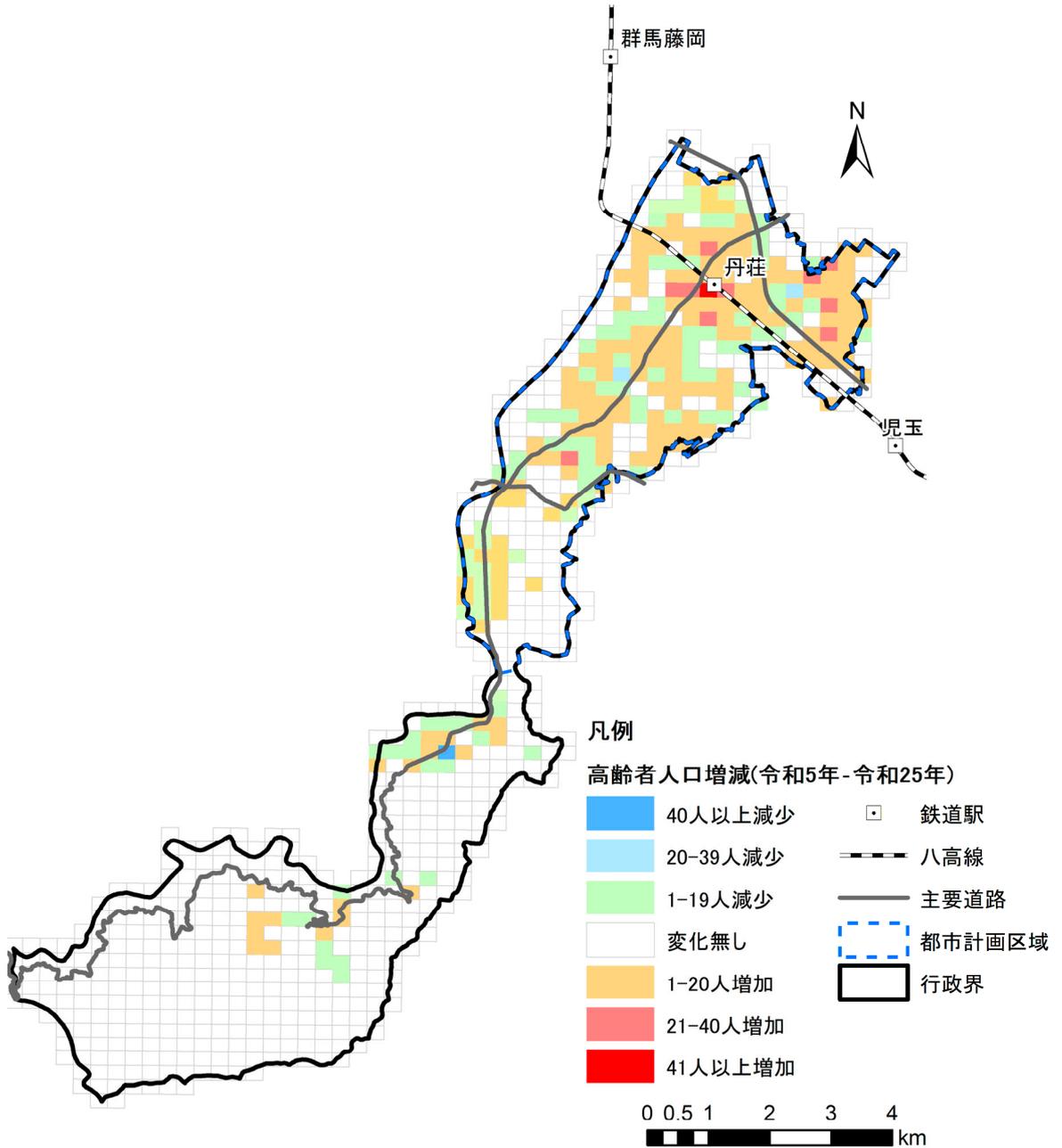
■高齢者数(令和5年) 250mメッシュ

出典:住民基本台帳



■高齢者数(令和25年) 250mメッシュ

出典:住民基本台帳



■高齢者人口増減(令和5年-令和25年) 250mメッシュ

出典:住民基本台帳

## ⑥ 通勤通学人口

### (流出人口)

- ・町内で従業・通学している人は合計で2,580人であり、他の市町で従業・通学している人は、合計で4,276人でした。
- ・流出人口として、本庄市への従業・通学が最も多く1,305人、次いで藤岡市、上里町と隣接する市町への流出が多いことが分かります。

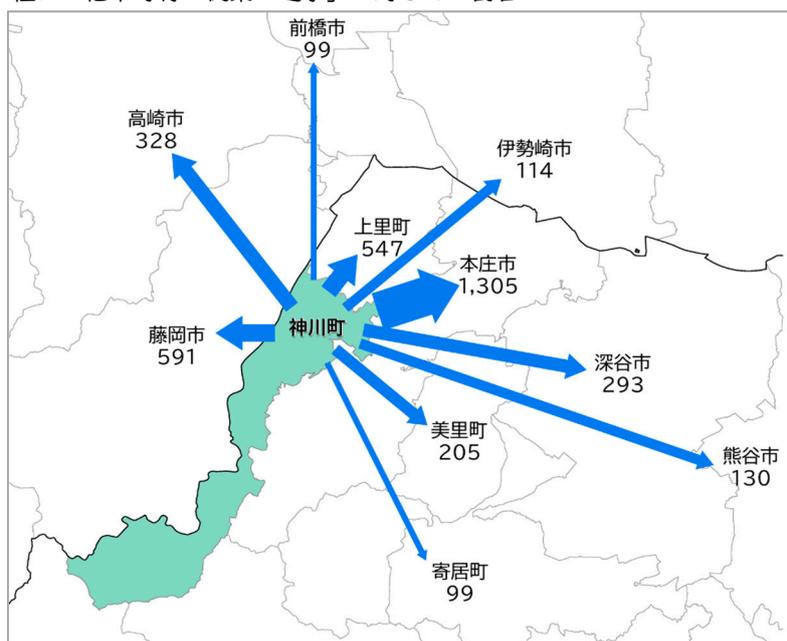
■流出人口(令和2(2020)年)

従業地・通学地	15歳以上 就業者・通学者数 (人)	15歳以上 就業者数 (人)	15歳以上 通学者数 (人)	割合 (%)
当地に常住(従業地・通学地)	7,009	6,523	486	100.0
自市町村に従業・通学	2,580	2,504	76	36.8
自宅	815	815	-	11.6
自宅外	1,765	1,689	76	25.2
他市町村に従業・通学	4,276	3,878	398	61.0
県内	2,787	2,530	257	(65.2)
県外	1,416	1,286	130	(33.1)
従業・通学市区町村 「不詳・外国」	73	62	11	(1.7)
従業地・通学地「不詳」	153	141	12	2.2

上位 10 都市	1	本庄市	1,305	1,174	131	(30.5)
	2	藤岡市	591	575	16	(13.8)
	3	上里町	547	541	6	(12.8)
	4	高崎市	328	282	46	(7.7)
	5	深谷市	293	232	61	(6.9)
	6	美里町	205	205	-	(4.8)
	7	熊谷市	130	112	18	(3.0)
	8	伊勢崎市	114	111	3	(2.7)
	9	寄居町	99	80	19	(2.3)
	10	前橋市	99	87	12	(2.3)

※割合の( )内の値は「他市町村に従業・通学」に対する割合

出典:国勢調査



■流出人口

(流入人口)

- ・他の市町から本町へ従業・通学している人は合計で2,916人であり、流入人口よりも流出人口のほうが上回っていることが分かります。
- ・流入人口として流出人口と同様、本庄市からの従業・通学している人が最も多く924人、次いで藤岡市、上里町となりました。

■流入人口(令和2(2020)年)

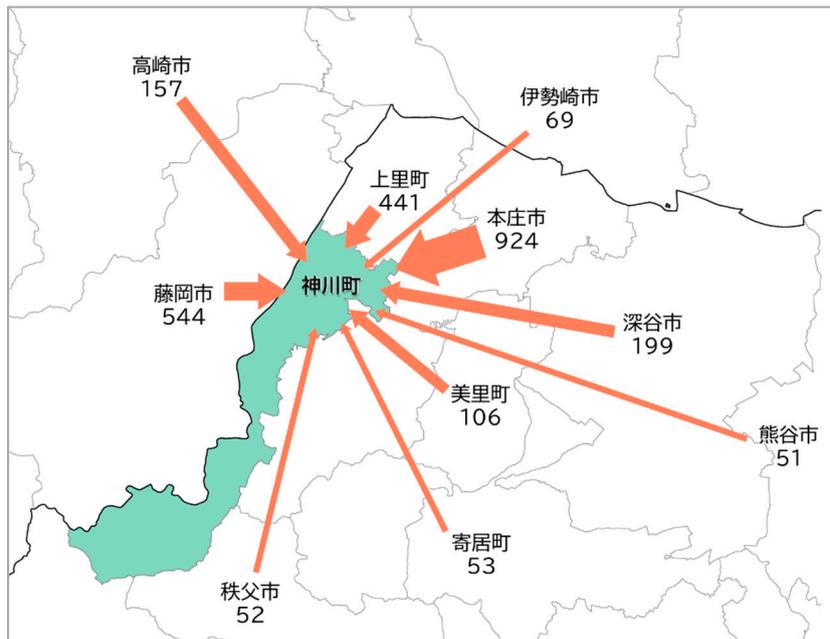
常住地		15歳以上 就業者・通学者数 (人)	15歳以上 就業者数 (人)	15歳以上 通学者数 (人)	割合 (%)
当地で常住(従業地・通学地)		5,722	5,576	146	100.0
自市町村に常住	自宅	2,580	2,504	76	45.1
	自宅外	815	815	-	14.2
	他市町村に常住	1,765	1,689	76	30.8
他市町村に常住	県内	2,916	2,869	47	51.0
	県外	1,963	1,931	32	(100.0)
従業・通学市区町村「不詳・外国」で当地に常住している者		953	938	15	(48.5)
		226	203	23	(11.5)

上位10都市	1	本庄市	924	912	12	(31.7)
	2	藤岡市	544	542	2	(18.7)
	3	上里町	441	436	5	(15.1)
	4	深谷市	199	196	3	(6.8)
	5	高崎市	157	155	2	(5.4)
	6	美里町	106	106	0	(3.6)
	7	伊勢崎市	69	68	1	(2.4)
	8	寄居町	53	50	3	(1.8)
	9	秩父市	52	49	3	(1.8)
	10	熊谷市	51	50	1	(1.7)

※割合の( )内の値は「他市町村に常住」に対する割合

出典:国勢調査



■流入人口

## (2) 土地利用

### ① 土地利用現況

- ・児玉工業団地に指定されている用途地域（工業専用地域）内では、工業用地が約 8 割を占めており、それ以外は公園、緑地等の公共空地や道路用地等となっています。
- ・用途地域外は、畑の割合が最も多く、次いで田、住宅用地の順となり、商業用地の多くが用途地域外です。
- ・都市計画区域外は山林が約 8 割を占めており、住宅用地はわずか約 1%となっています。

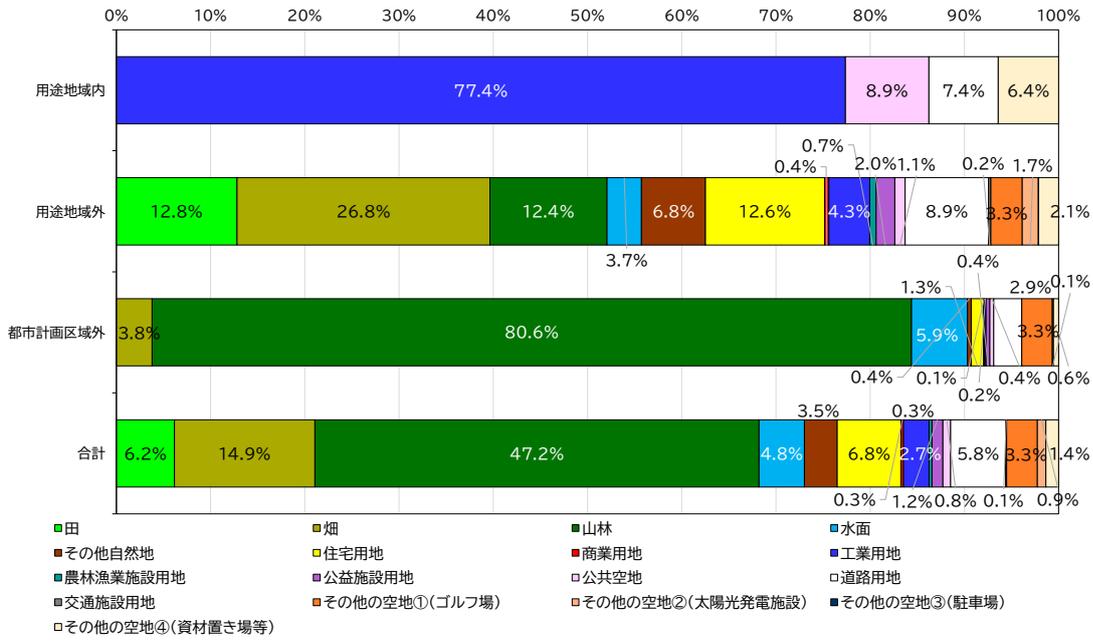
■土地利用別の面積比較

土地利用		用途地域内	用途地域外	都市計画区域外	合計
自然的 土地利用	田	0.00	292.97	0.00	292.97
	畑	0.00	614.19	91.74	705.94
	山林	0.00	284.12	1,951.96	2,236.08
	水面	0.00	84.10	143.67	227.77
	その他自然地	0.00	155.45	9.80	165.25
都市的 土地利用	住宅用地	0.00	289.36	31.80	321.15
	商業用地	0.00	10.09	2.32	12.41
	工業用地	24.85	99.00	4.12	127.97
	農林漁業施設用地	0.00	15.80	0.00	15.80
	公益施設用地	0.00	45.15	9.49	54.64
	公共空地	2.84	25.36	10.37	38.58
	道路用地	2.37	202.78	71.32	276.46
	交通施設用地	0.00	5.34	0.00	5.34
	その他の空地① (ゴルフ場)	0.00	76.31	78.72	155.02
	その他の空地② (太陽光発電施設)	0.00	38.80	2.99	41.79
	その他の空地③ (駐車場)	0.00	0.92	0.00	0.92
	その他の空地④ (資材置き場等)	2.06	48.62	13.44	64.12
	合計	32.12	2,288.35	2,421.74	4,742.21

※公共施設用地：一般公共施設、学校、宗教施設、幼稚園、保育所、病院、診療所、老人ホーム、処理場、浄水場

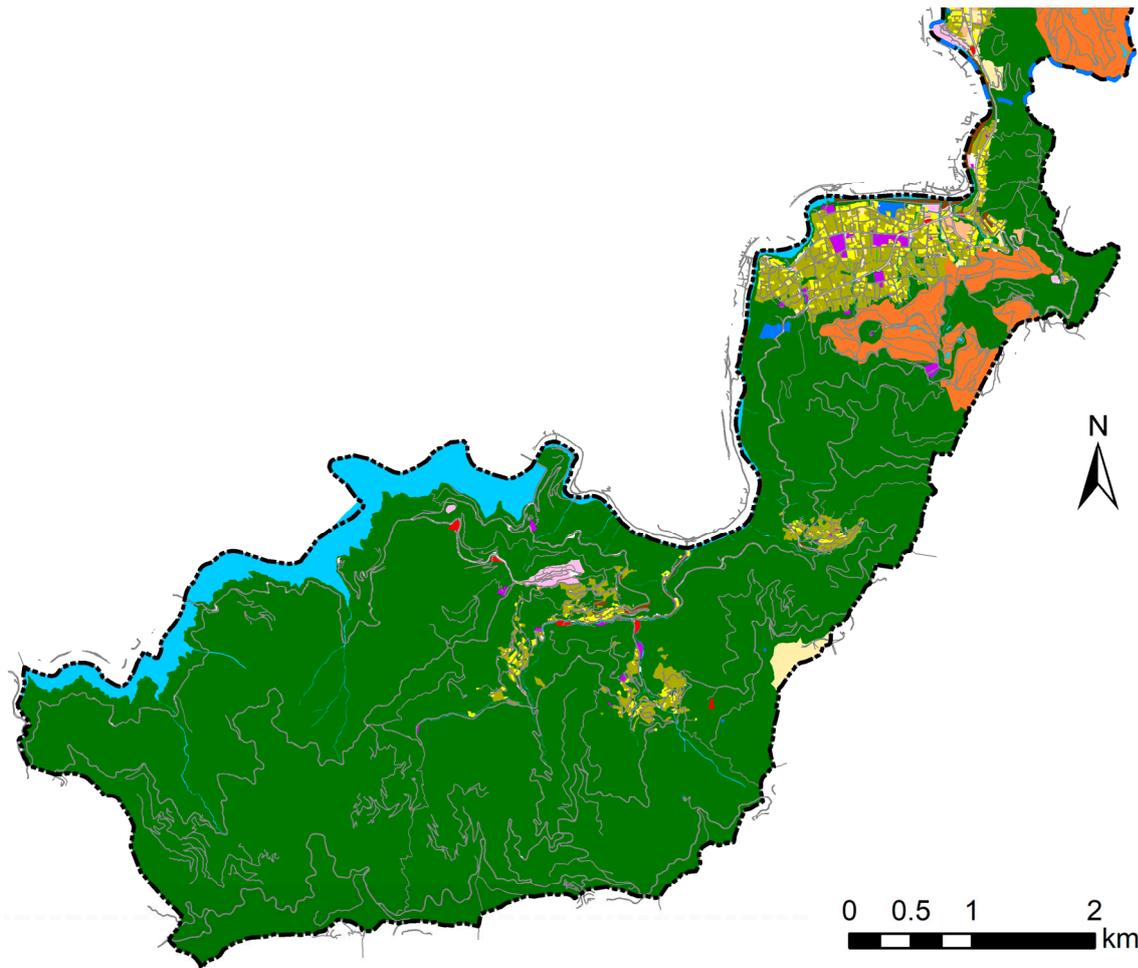
※公共空地：公園・緑地、広場、運動場、墓園

出典：令和 3 年度都市計画基礎調査



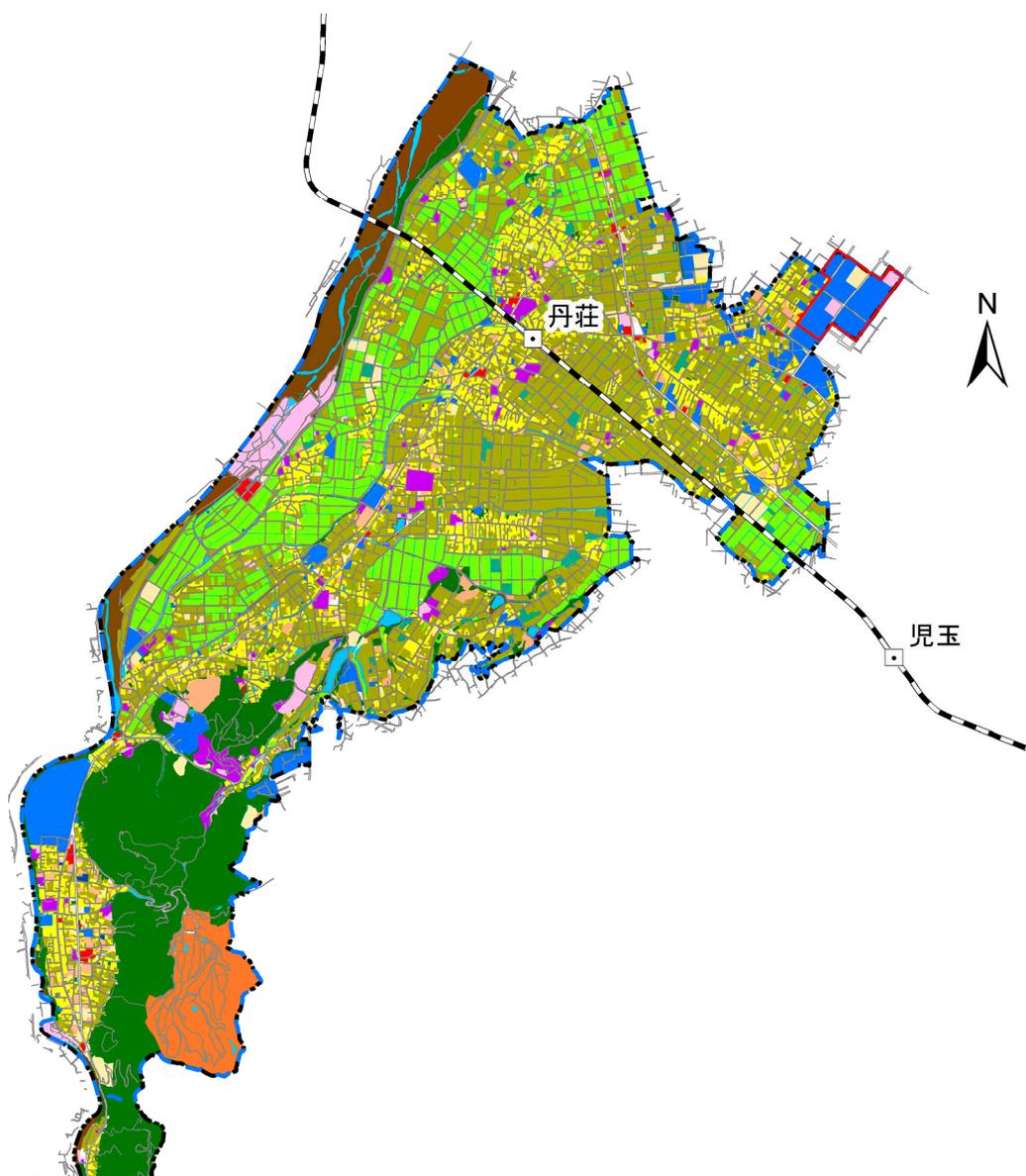
■土地利用構成

出典: 令和3年度都市計画基礎調査



■土地利用現況

出典: 令和3年度都市計画基礎調査



凡例

土地利用現況

- 田
- 畑
- 山林
- 水面
- その他の自然地
- 住宅用地
- 商業用地
- 工業用地

- 農林漁業施設用地
- 公共施設用地
- 公共空地
- 道路用地
- 交通施設用地
- その他の空地①(ゴルフ場)
- その他の空地②(太陽光発電)
- その他の空地③(駐車場)
- その他の空地④(資材置き場)



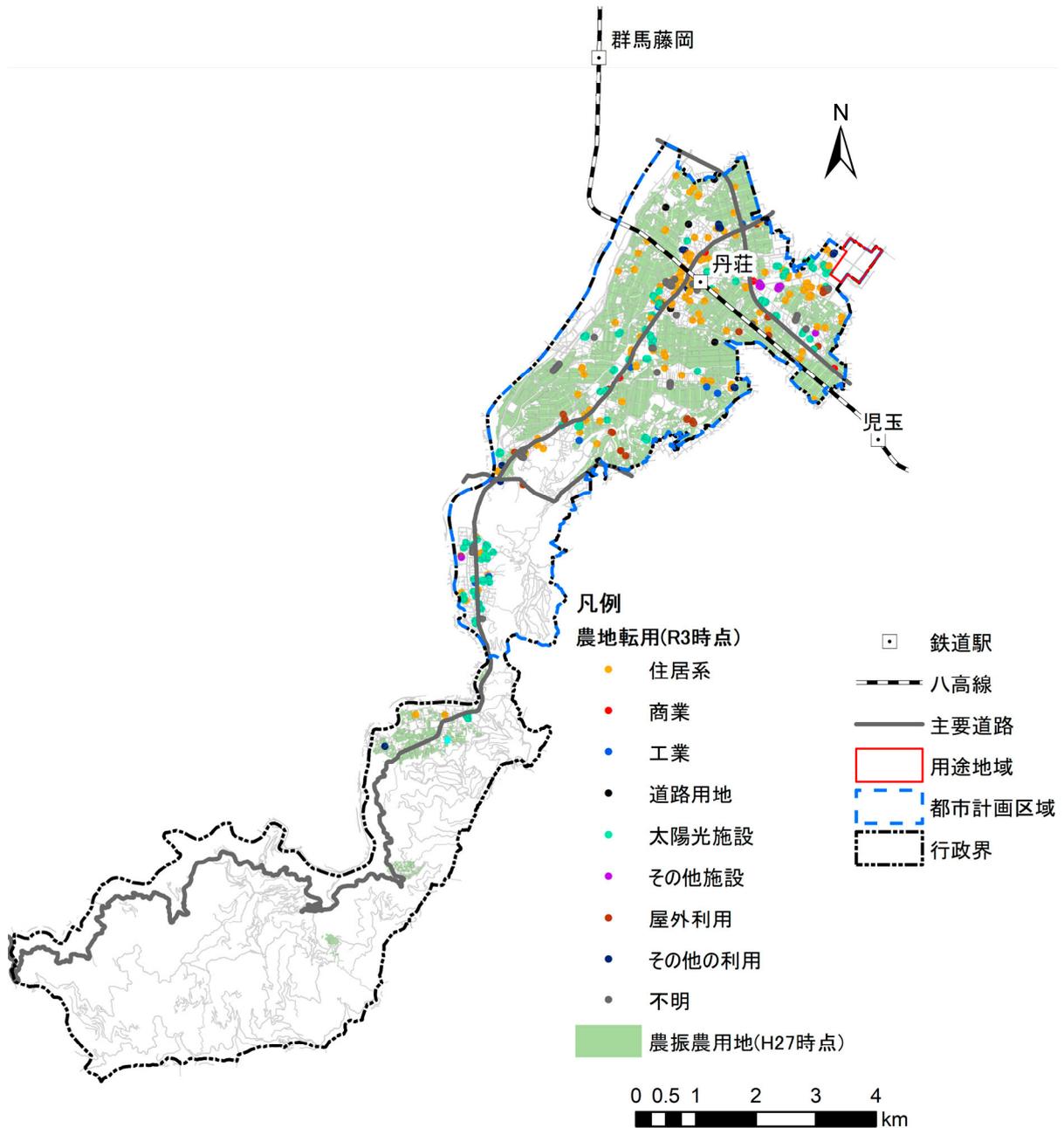
- 鉄道駅
- 八高線
- 用途地域
- 都市計画区域界
- 行政界

■土地利用現況

出典:令和3年度都市計画基礎調査

## ② 農振農用地と農地転用の状況

- ・農業振興地域農用地（以下『農振農用地』という。）は山間部と住宅地を除き、町内全体に指定されています。
- ・目的別に農地転用箇所を示すと、丹荘駅周辺や主要地方道上里鬼石線の周辺に住居系の転換が多く見られます。
- ・特に渡瀬地区は太陽光施設の転用が多く見られます。
- ・農振農用地の一部に農地転用箇所が見られますが、ほとんどは農振農用地外での転用であり、農地の保全がされていると考えられます。



■農振農用地(平成 27 年時点)と農地転用(令和 3 年時点)の状況

出典:神川町資料、令和 3 年度都市計画基礎調査

### ③ 農地転用状況

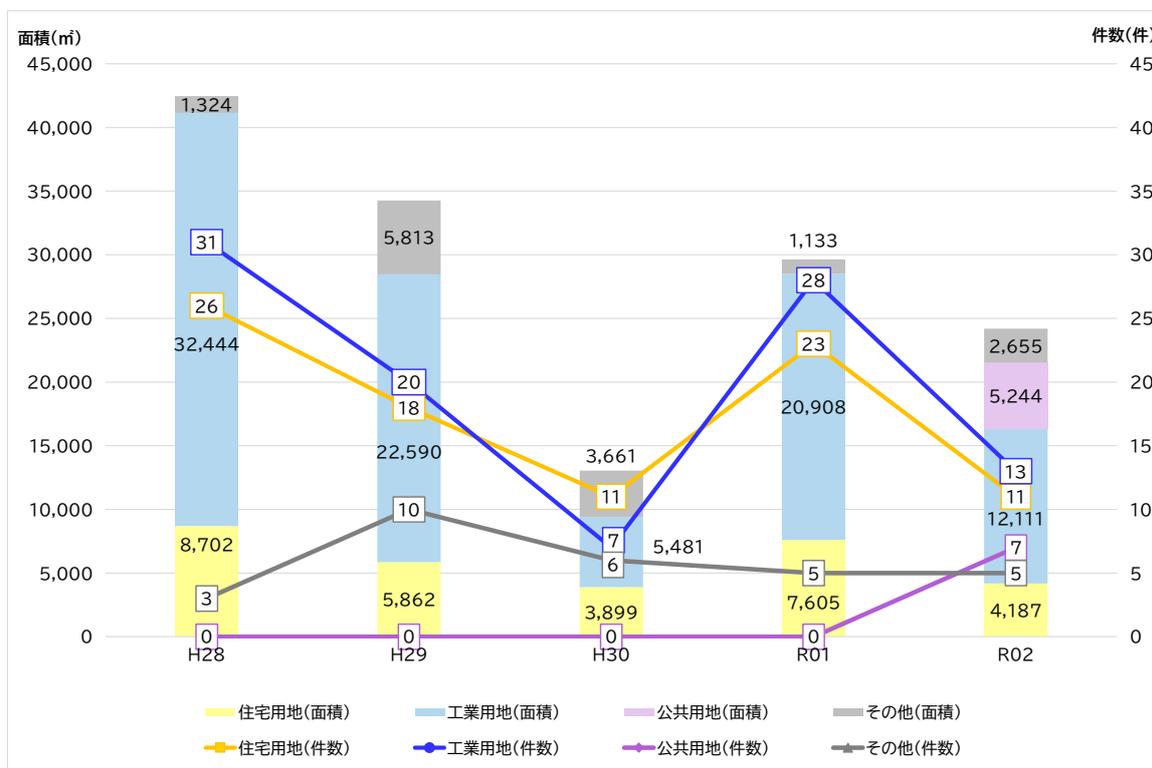
- ・農地転用件数は、平成 28 年度の 60 件が最も多く、平成 30 年度は 24 件と最も少なくなっています。平成 30 年度以外は、用途地域指定のない地域における工業用地の農地転用件数が最も多くなっています。
- ・面積の推移を見ると、減少傾向にあることが分かります。令和元年度と平成 28 年度の件数は、56 件と 60 件であり大差はありませんが、面積は 1ha 以上の差が見られ、小規模な農地転用が増加しています。

■農地転用状況

用途	平成 28 年度		平成 29 年度		平成 30 年度		令和元年度		令和 2 年度	
	件数 (件)	面積 (㎡)								
住宅用地	26	8,702	18	5,862	11	3,899	23	7,605	11	4,187
工業用地	31	32,444	20	22,590	7	5,481	28	20,908	13	12,111
公共用地	0	0	0	0	0	0	0	0	7	5,244
その他	3	1,324	10	5,813	6	3,661	5	1,133	5	2,655
合計	60	42,470	48	34,265	24	13,041	56	29,646	36	24,197

※用途地域内は、工業団地を目的に開発されたため、農地転用はない

出典:令和 3 年度都市計画基礎調査

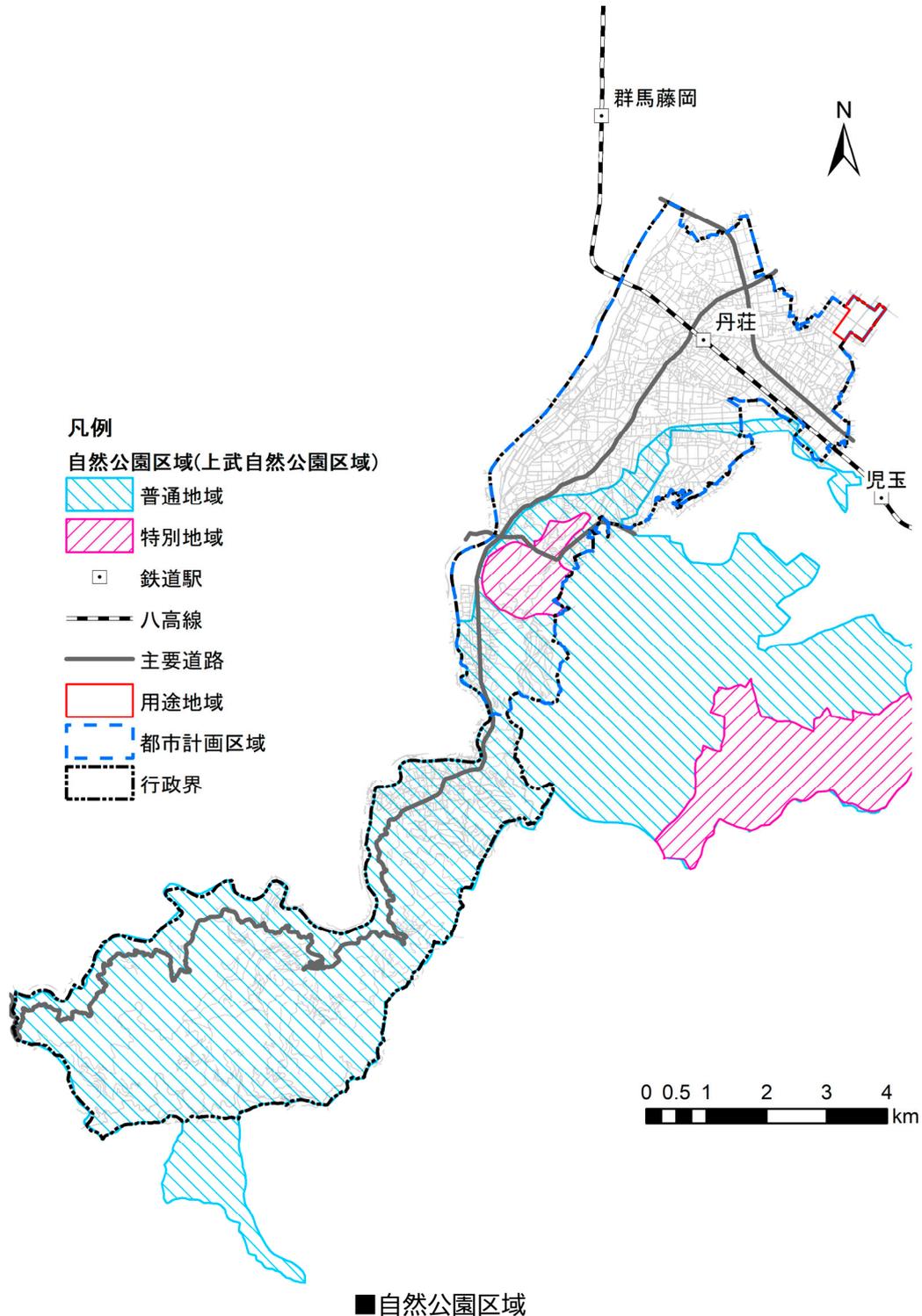


■農地転用面積と件数

出典:令和 3 年度都市計画基礎調査

#### ④ 自然公園区域

- ・ 県立上武自然公園は、上武自然公園区域として指定されており、渡瀬地区から南側は全て普通地域の指定がされています。
- ・ 御嶽山と金鑽地区には特別地域が指定されています。
- ・ 自然公園区域内での建築物等の新築・増築・改築、木竹の討伐、宅地の造成等については、特別地域においては許可、普通地域においては届出が必要です。



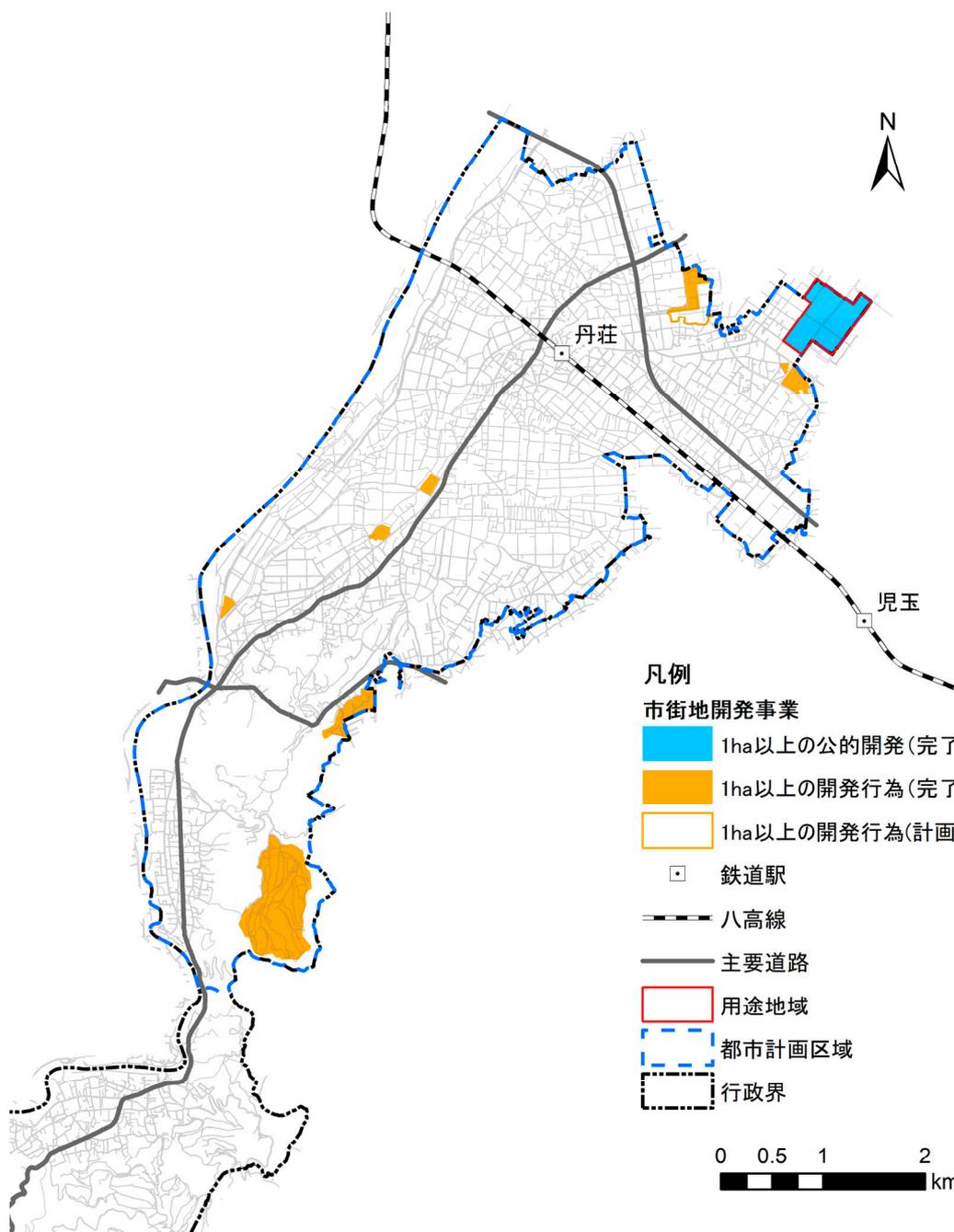
出典:国土数値情報

### ⑤ 開発行為

・開発行為は、公的開発が1件、完了済みのものが9件、計画中のものが1件あり、そのうち住宅系の開発行為はありません。

■開発件数

	件数(件)		面積(ha)	
	用途地域	用途地域外	用途地域	用途地域外
完了	1	9	32.8	143.9
計画	0	1	0	8.2



■開発行為

出典:令和3年度都市計画基礎調査

### ⑥ 埋蔵文化財包蔵地

- ・本町には、古墳時代を中心に縄文時代から中世にかけての遺跡が多く存在し、埋蔵文化財包蔵地の開発には、原則発掘調査を実施する必要があります。
- ・埋蔵文化財包蔵地は、丹荘駅周辺を除いた町内北部に多く広がっています。



■埋蔵文化財包蔵地

出典：神川町資料

### (3) 公共交通

鉄道やバス等の公共交通等の利用者の推移や状況を整理しました。

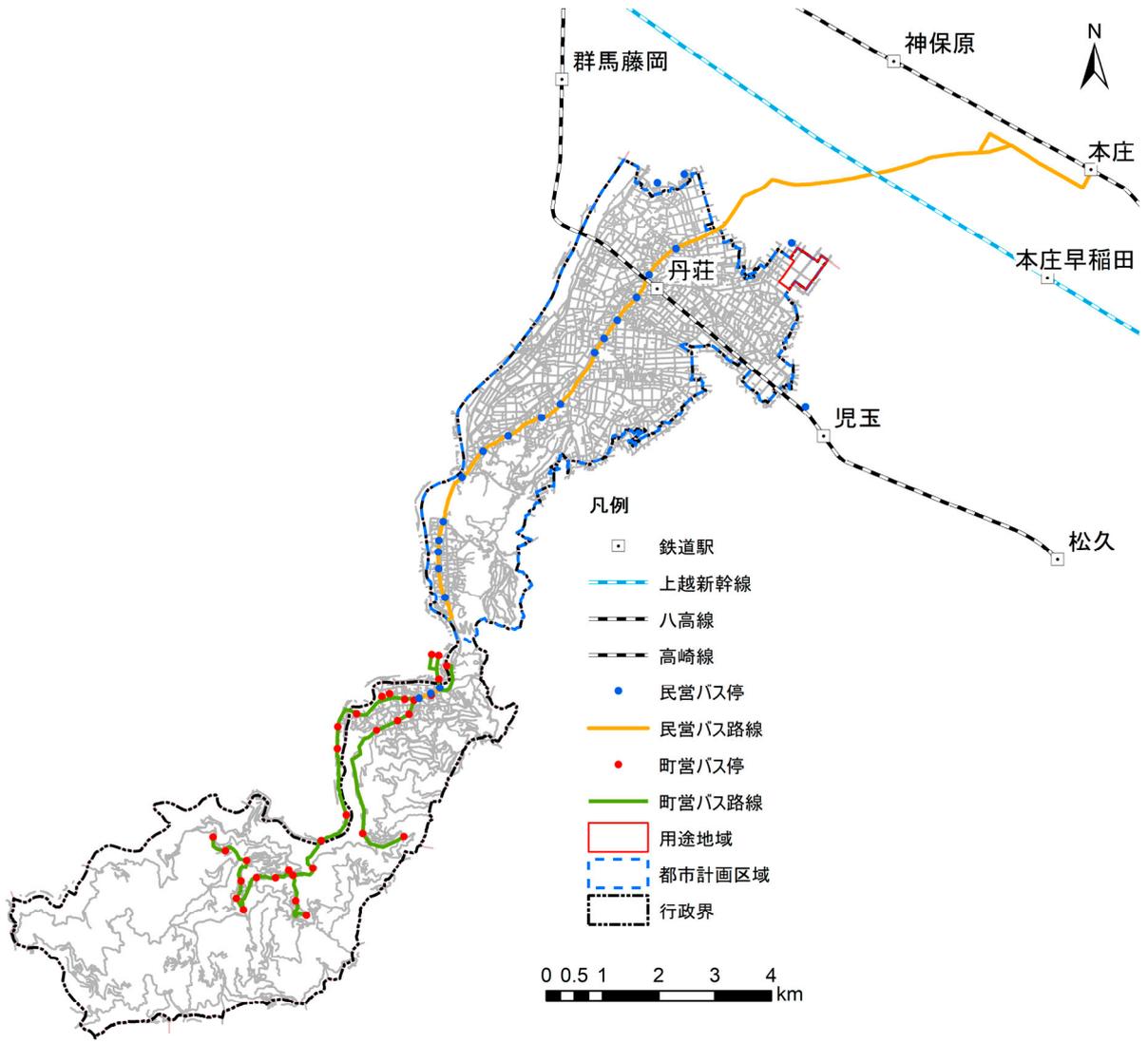
#### ① 鉄道及びバスネットワークの状況

■丹荘駅乗降客数

年度	乗車人数	日平均
平成15年	90,707	249
平成16年	87,663	240
平成17年	84,875	233
平成18年	89,487	245
平成19年	93,617	256
平成20年	98,093	269
平成21年	97,316	267
平成22年	98,462	270
平成23年	95,584	262
平成24年～	無人化のためデータ無し	

出典：埼玉県統計年鑑

- ・丹荘駅は町内唯一の鉄道駅であり、平成24年3月から無人化し、令和元年9月に新駅舎が完成しました。
- ・データが存在する最新年度の平成23年時点は年間95,584人の乗降客数となっています。列車の運行頻度は、上下線ともに概ね1時間に1本で、平日の朝の通勤・通学の時間帯は1時間に2～3本が運行しています。
- ・令和5年に策定した神川町地域公共交通計画にて実施した、公共交通に関する町民アンケートでは、回答者の7割がJR八高線は日常生活に不可欠であると回答していますが、一方で「運行本数が少ない」といった意見もあり、鉄道の利便性が低いと考えられます。
- ・バスは、民営バスと町営バスが走行しています。民営バスは、主要地方道上里鬼石線に沿って旧神川町を縦断し、神泉総合支所から本庄駅につながるバス路線が整備され、町営バスは神泉地域を走行しています。民営バスは、どのバス停も平日15本以上、町営バスは平日5～6本運行しています。
- ・町民アンケートの結果は、民営バスについても鉄道と同様に約7割が日常生活に不可欠であると回答していますが、「運行本数が少ない」や「利用したい時間帯に運行していない」という意見が挙がっています。さらに、「出発地、目的地の近くにバス停がない」という意見もあり、バス路線空白地域の交通手段確保が困難になっていることが分かります。町営バスについては、回答者の約5割が日常生活に不可欠と回答していますが、神泉地域以外の町民は「どこを走っているか分からない」等の意見があり、町内全域に広く知られていないといえます。
- ・このような状況の中、町民の多くが移動手段として車を用いており、高齢化等が進む中での移動手段の確保が求められます。



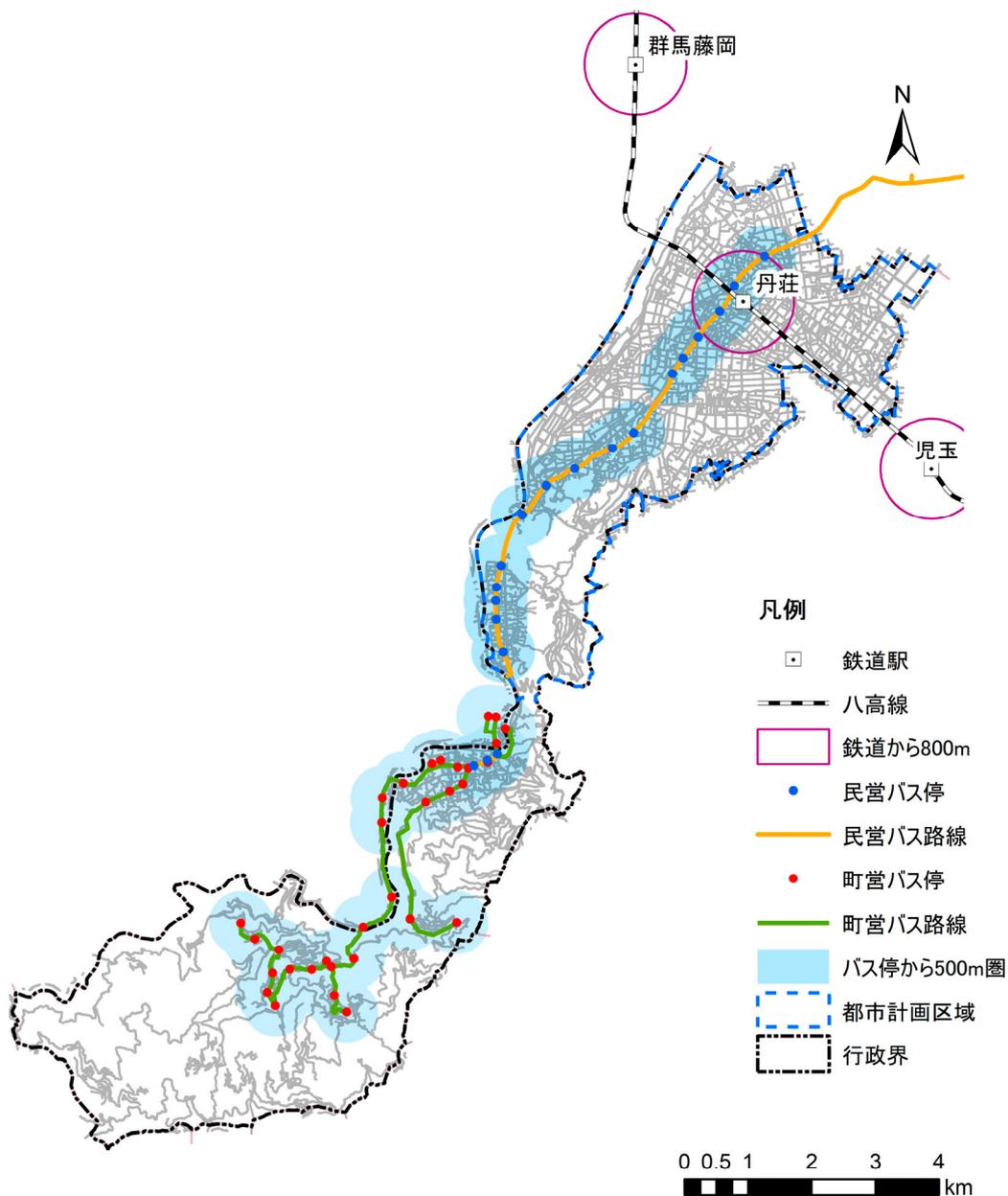
■ 鉄道及びバスネットワークの状況

出典:国土数値情報

## ② 公共交通徒歩圏域の状況

鉄道駅から800m、バス停から500mを徒歩圏域として設定し、公共交通のカバー率の把握を行いました。

- ・公共交通の利便性について、駅及びバス停からの徒歩圏を確認すると、丹荘駅からの徒歩圏は町内の一部のみとなっています。民営バスが主要地方道上里鬼石線を通ることから路線周辺に関しては連続した形で徒歩圏が形成されています。一方で、主要地方道から離れた地域は交通空白地帯となっています。
- ・神泉地域を通る町営バスについては、集落地を網羅する形で徒歩圏が形成されています。



■公共交通徒歩圏域

出典:国土数値情報

### ③ タクシー

- ・タクシー事業者は、以下の2社が運行しています。本町では、「神川町在宅重度心身障害者福祉タクシー利用料金助成事業」や「神川町外出支援タクシー利用料金補助事業」を実施しています。
- ・公共交通に関する町民アンケートでは、回答者の約6割弱がタクシーは町民の日常生活に不可欠であると回答しています。

#### ■町内タクシー事業者

会社名	電話番号
神川交通	0495-77-2007
結ヶアタクシー	090-2337-5533

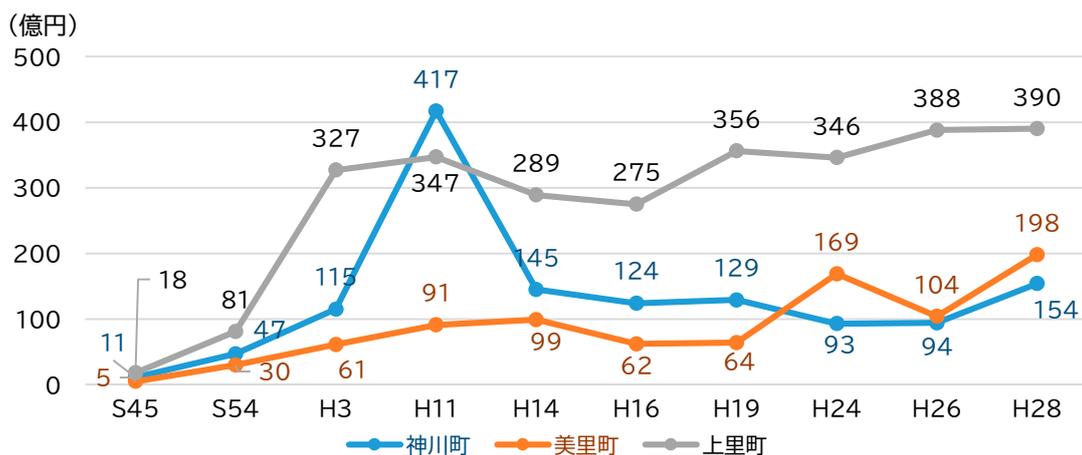
出典：神川町資料

## (4) 経済活動

商品販売額、製造出荷額の推移、業種別の事業所数及び従業員数の整理を行いました。

### ① 商品販売額

- ・本町の商品販売額は、平成11年に美里町、上里町と比較して最も多くなっています。その後、平成14年にかけて商品販売額が大きく減少し、減少傾向となっていました。平成28年に増加し、平成11年に次いで2番目に多くなっています。



■商品販売額の推移

出典:商業統計調査(経済産業省)、経済センサス(総務省)

### ② 製造品出荷額

- ・製造品出荷額は、平成12年までは増加傾向にあり、平成12年に最も多くなっています。その後は、減少傾向が続き、令和元年には美里町や上里町より少なく、715億円となっています。

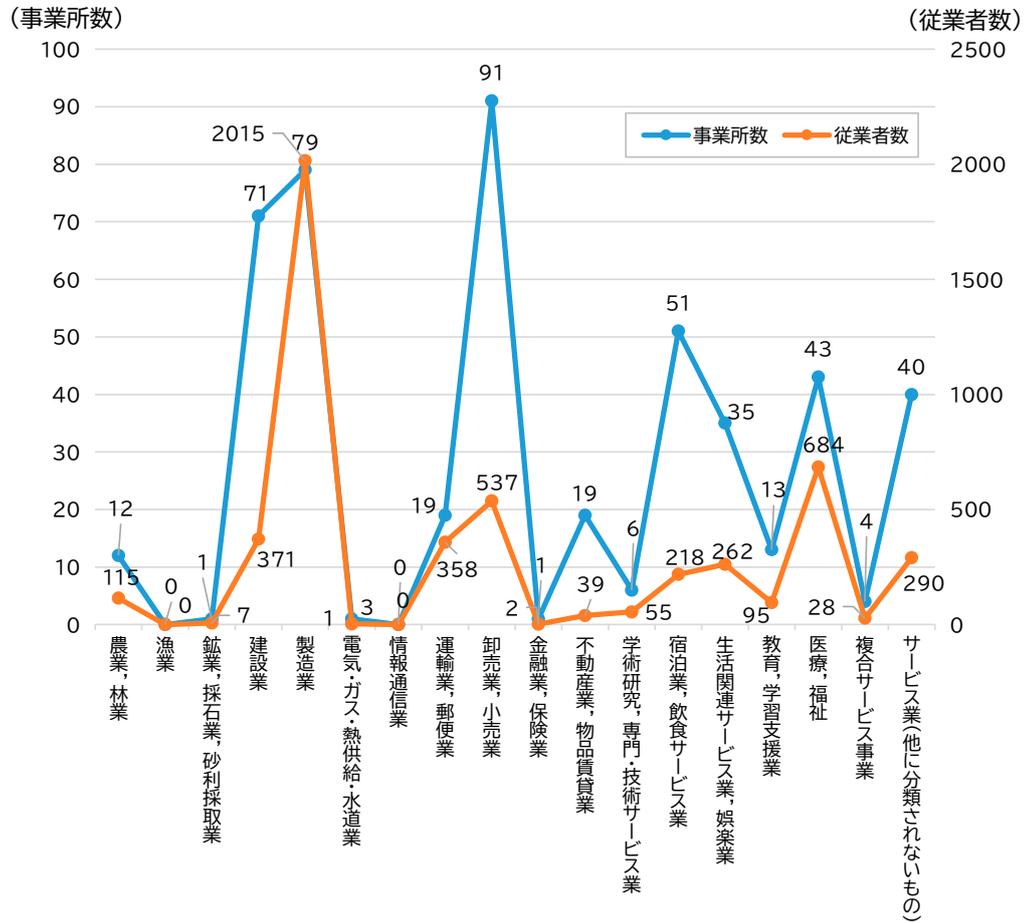


■製造品出荷額の推移

出典:工業統計調査(経済産業省)、経済センサス(総務省)

### ③ 事業所・従業者数

- ・平成28年時点の事業所数は、卸売業・小売業が最も多く、次いで製造業が多くなっています。
- ・従業者数は、製造業が最も多く、次いで医療・福祉、卸売業・小売業の順で多くなっています。

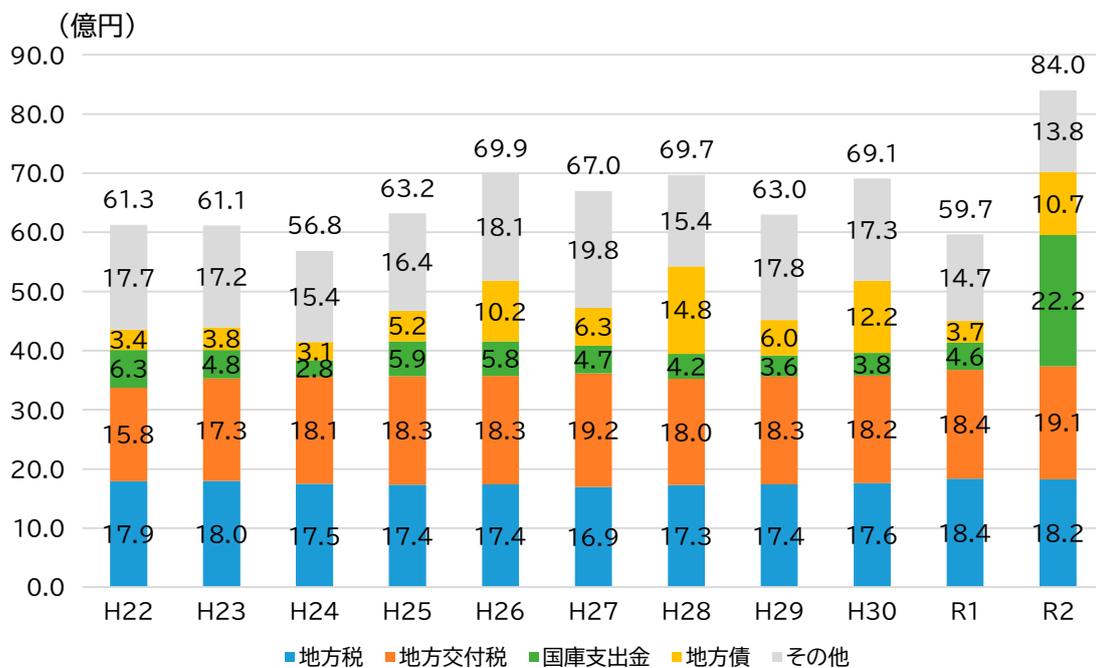


■事業所数・従業者数の推移

出典:平成28年経済センサス(総務省)

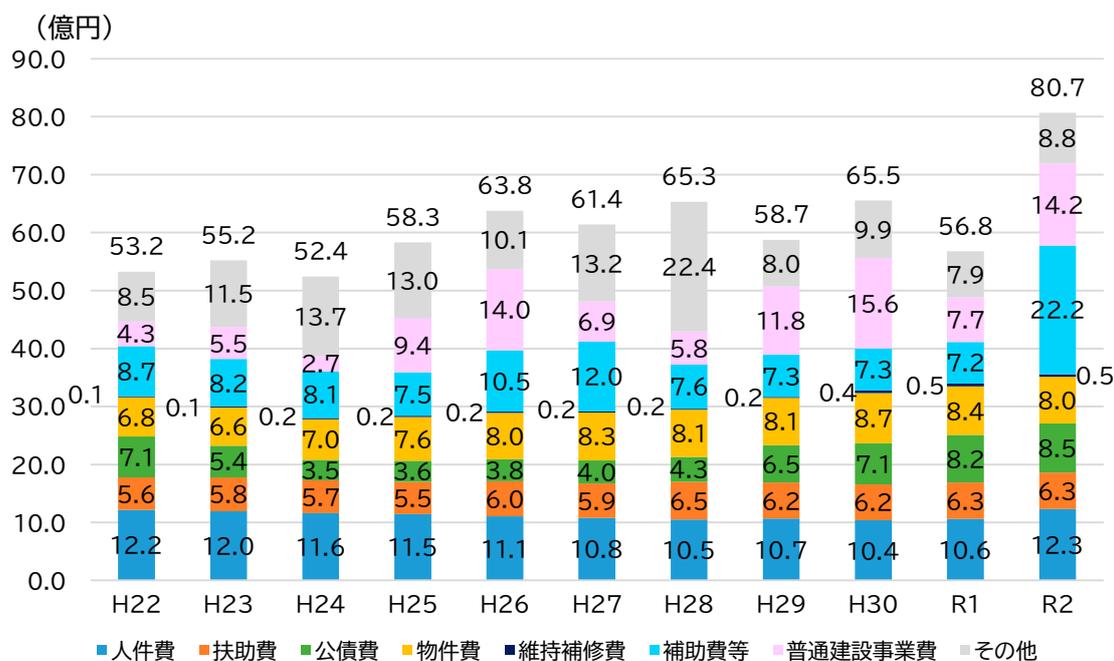
## (5) 財政

- ・歳入は、令和2年度が総額84億円で最も多く、平成24年度が56.8億円で最も少なくなっています。令和2年度は国庫支出金がその他の年度と比較して約5倍増額しています。
- ・歳出は、令和2年度が80.7億円と最も多く、平成24年度が52.4億円と最も少なくなっています。令和2年度に補助費等が多くなっていることが分かります。



■歳入状況の推移

出典:埼玉県統計年鑑

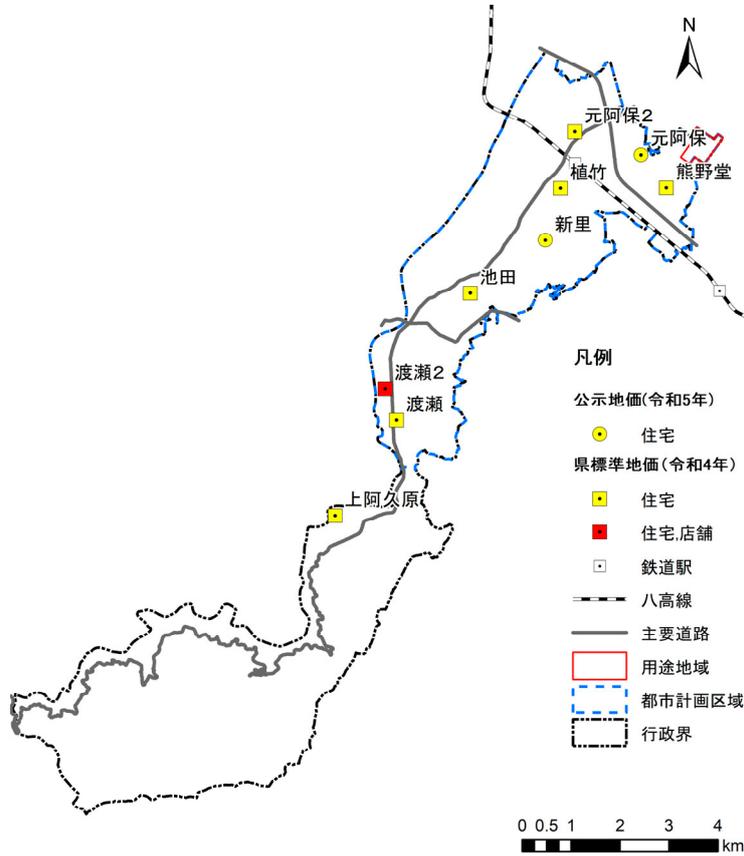


■歳出状況の推移

出典:埼玉県統計年鑑

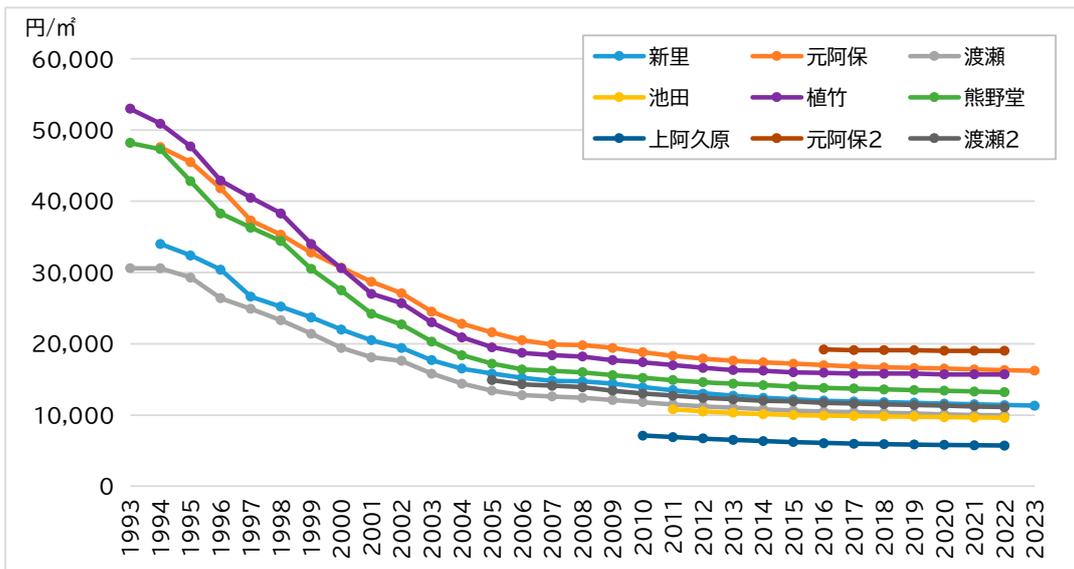
## (6) 地価

- ・地価の調査地点は、公示地価の標準地として2か所、県標準地価の標準地として7か所が設けられています。
- ・地価の推移は、2006年ごろまで大きく減少し、その後は緩やかな減少が続いています。丹荘駅から最も離れている上阿久原が最も低く10,000円/㎡を下回っており、駅周辺の元阿保や植竹は20,000円/㎡弱となっています。



■地価の状況

出典:国土数値情報



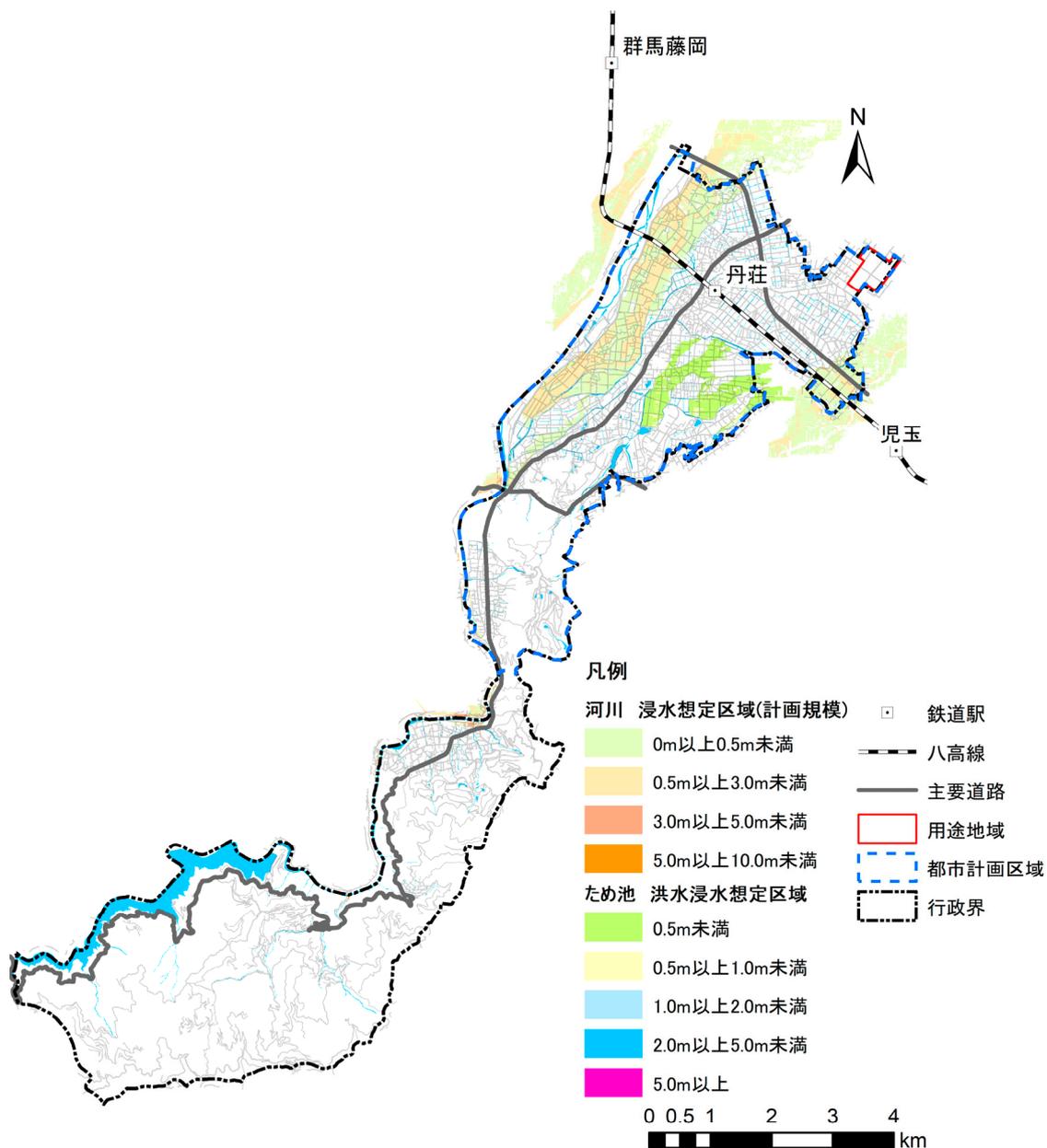
■地価の推移

出典:国土数値情報

## (7) 災害

### ① 浸水想定区域（河川、ため池、計画規模）

- ・計画規模降雨による浸水想定区域は、町内西部は神流川による浸水被害、中央部は羽根倉池や前池による被害が想定されています。
- ・町内中央部に一部 3.0m 以上の浸水想定区域に該当する地区があり、主要地方道上里鬼石線より北西側では 0.5m 以上 3.0m 未満の浸水が想定されています。

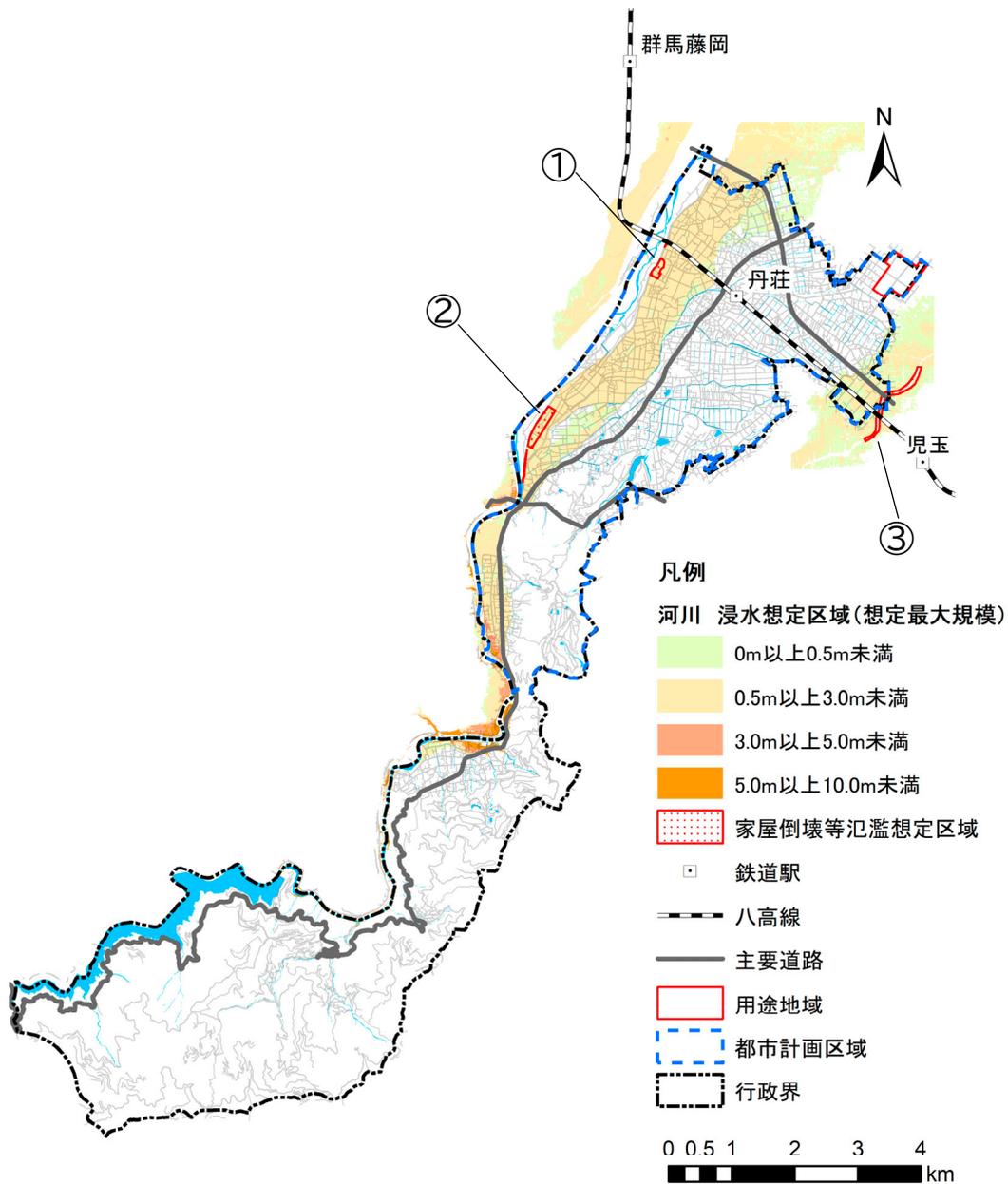


■浸水想定区域(計画規模)とため池洪水浸水想定区域

出典:国土数値情報、神川町資料

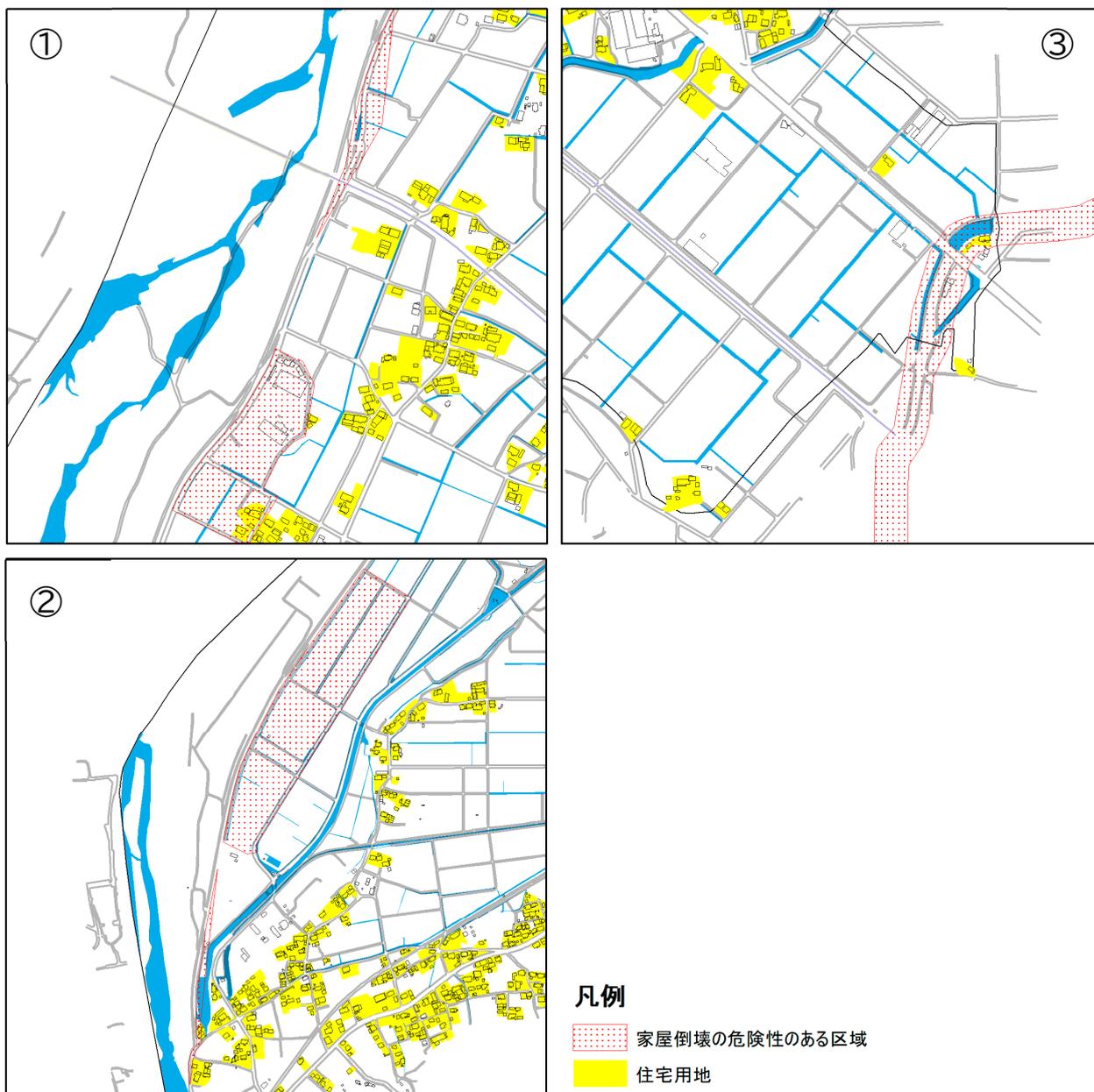
## ② 浸水想定区域（想定最大規模）

- ・ 想定最大規模降雨による浸水想定区域は、神流川及び女堀川周辺に見られ、どちらも0.5m以上3.0m未満となる地区が見られます。
- ・ 都市計画区域内外の境界付近である渡瀬地区、下阿久原地区において、3.0m以上の浸水が想定されています。
- ・ 家屋倒壊の危険性のある地域については、神流川付近の一部と女堀川に沿って見られます。
- ・ 家屋倒壊の危険性のある地域の拡大図を見ると、住宅用地の土地利用が一部重なっている箇所があります。また、区域内には規模の大小はありますが、建物が立地していることが分かります。



### ■浸水想定区域(想定最大規模)

出典:神川町防災ガイドブック ~ハザードマップ~(令和4年3月発行)



■家屋倒壊の危険のある区域拡大図

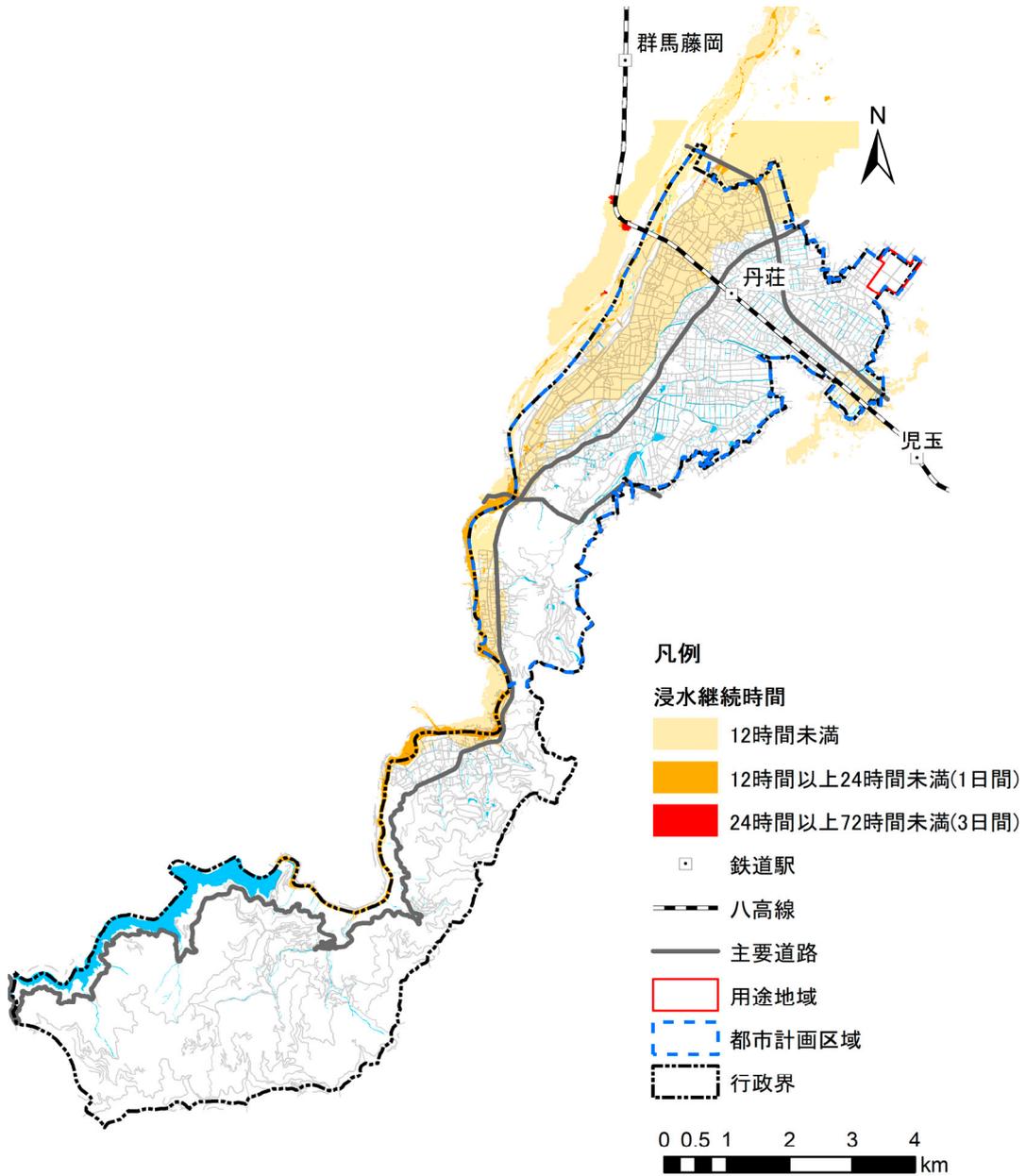
出典:神川町防災ガイドブック ～ハザードマップ～(令和4年3月発行)

令和3年都市計画基礎調査

※住宅用地は令和3年度都市計画基礎調査の土地利用から抽出

### ③ 浸水継続時間（想定最大規模）

- ・浸水継続時間は、神流川、女堀川沿いに、想定最大規模降雨における洪水時等に避難が困難となる一定の浸水深が継続される地区が見られます。
- ・町内北部の神流川の河川敷には、浸水継続時間が3日間となる箇所が見られます。

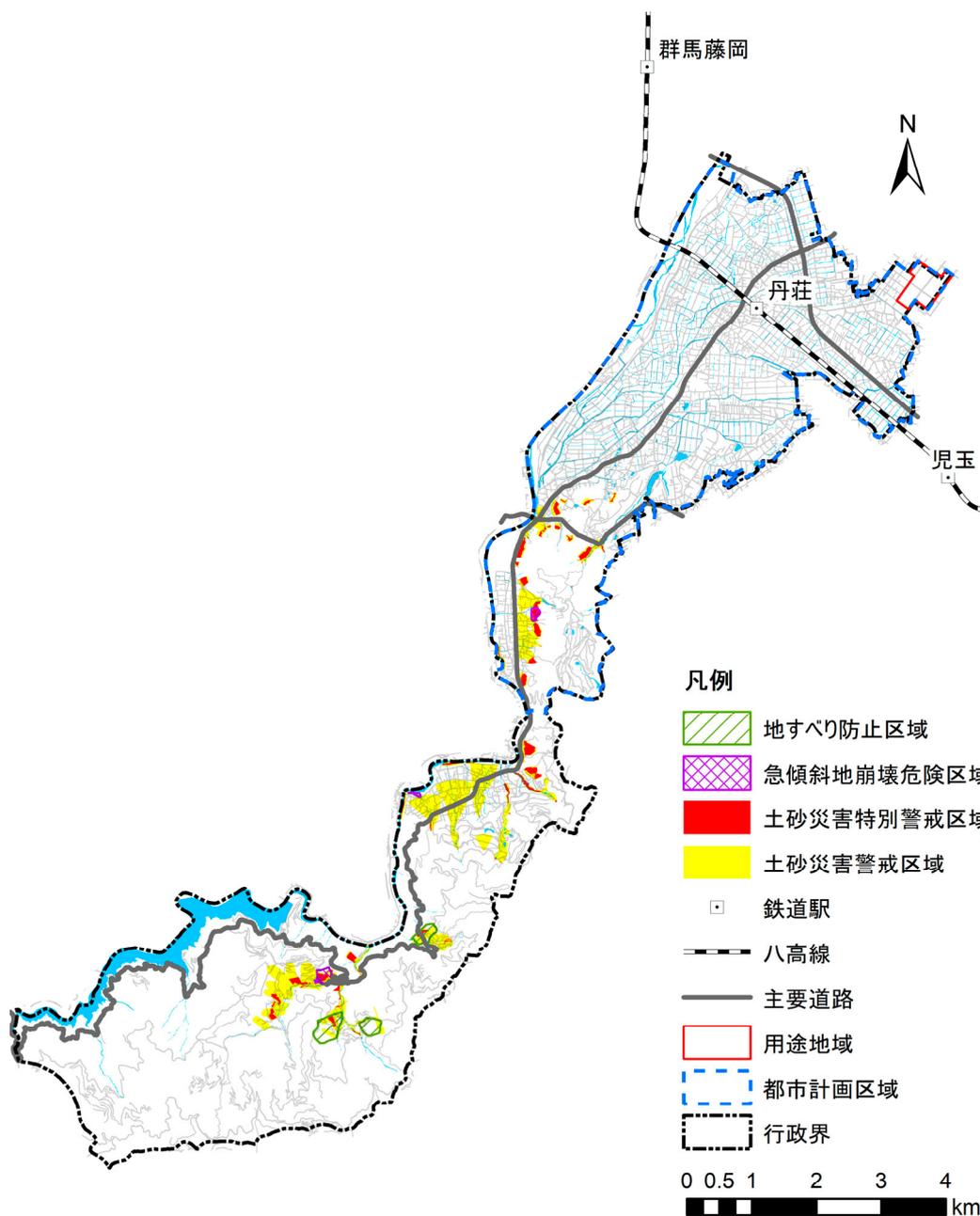


■浸水継続時間

出典：国土数値情報

#### ④ 土砂災害

- ・地すべり防止区域は、住居野、嶽の山、高牛の3か所に指定されています。
- ・急傾斜地崩壊危険区域は、下鳥羽で2か所、寺内で1か所、渡瀬で1か所の計4か所に指定されています。
- ・土砂災害警戒区域（イエローゾーン）は、町内中央部（新宿・ニノ宮の一部、渡瀬地区）から神泉地域にかけて指定され、一部は市街地と重なっています。
- ・土砂災害特別警戒区域（レッドゾーン）は、土砂災害警戒区域と同様に、町内中央部から神泉地域の一部で指定されている箇所が多く見られます。

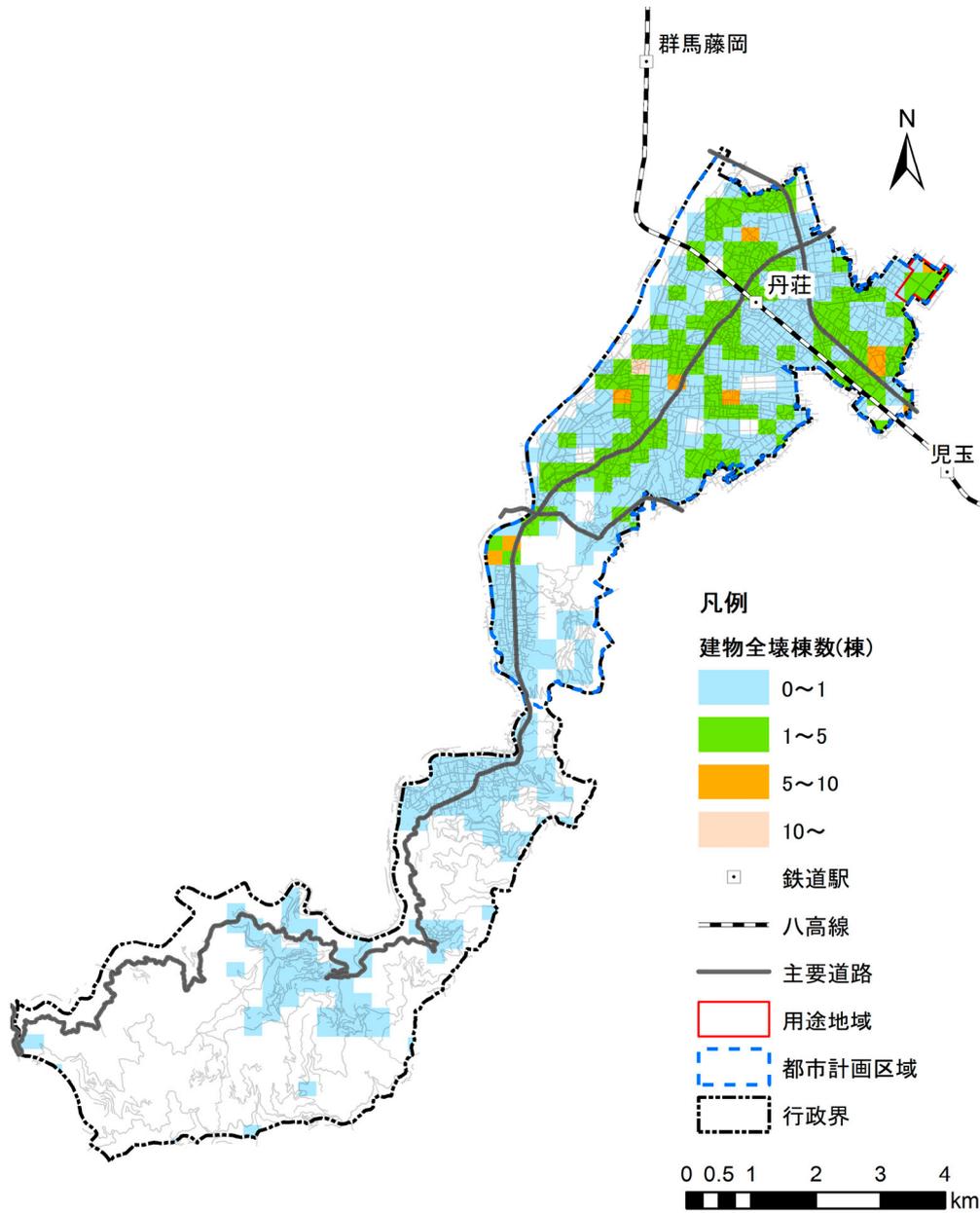


■地すべり防止区域、急傾斜地崩壊危険区域、土砂災害特別警戒区域(レッドゾーン)と土砂災害警戒区域(イエローゾーン)

出典：国土数値情報

### ⑤ 建物全壊棟数

- ・ 関東平野北西縁断層帯地震の発生による建物全壊棟数は、町内のほとんどで5棟以下となっており、神泉地域は1棟以下となっています。
- ・ 都市計画区域内では、部分的に5棟以上となる地区があります。



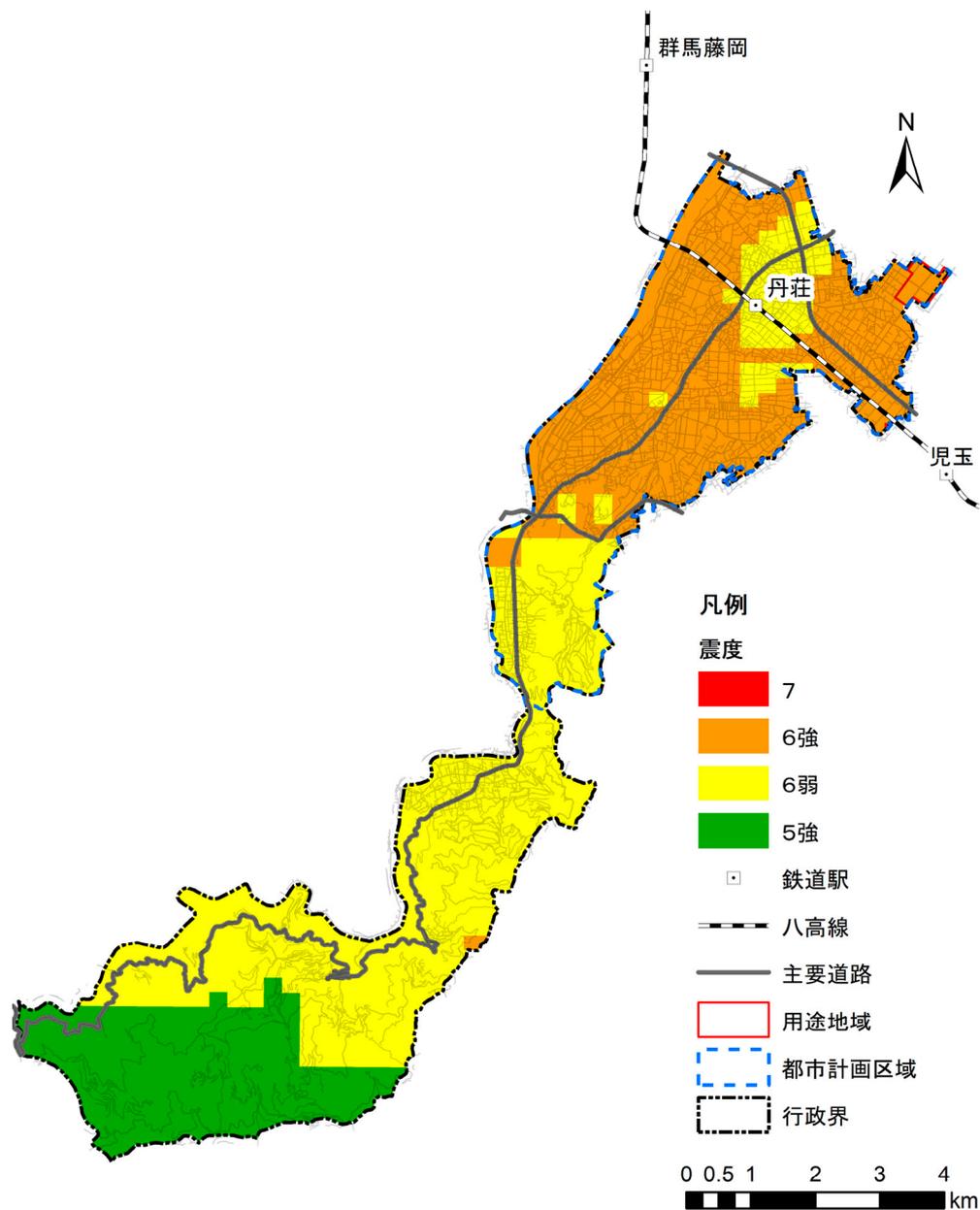
想定地震: 関東平野北西縁断層帯地震 破壊開始点: 北

■ 建物全壊棟数分布図

出典: 神川町防災ガイドブック ~ハザードマップ~ (令和4年3月発行)

## ⑥ 震度分布図

- ・関東平野北西縁断層帯地震発生による震度分布図は、町内南部で5強、中央部で6弱、北部で6強となっており、南部から北部に行くにつれて震度が強くなるのが分かります。



想定地震: 関東平野北西縁断層帯地震 破壊開始点: 北

■ 震度分布図

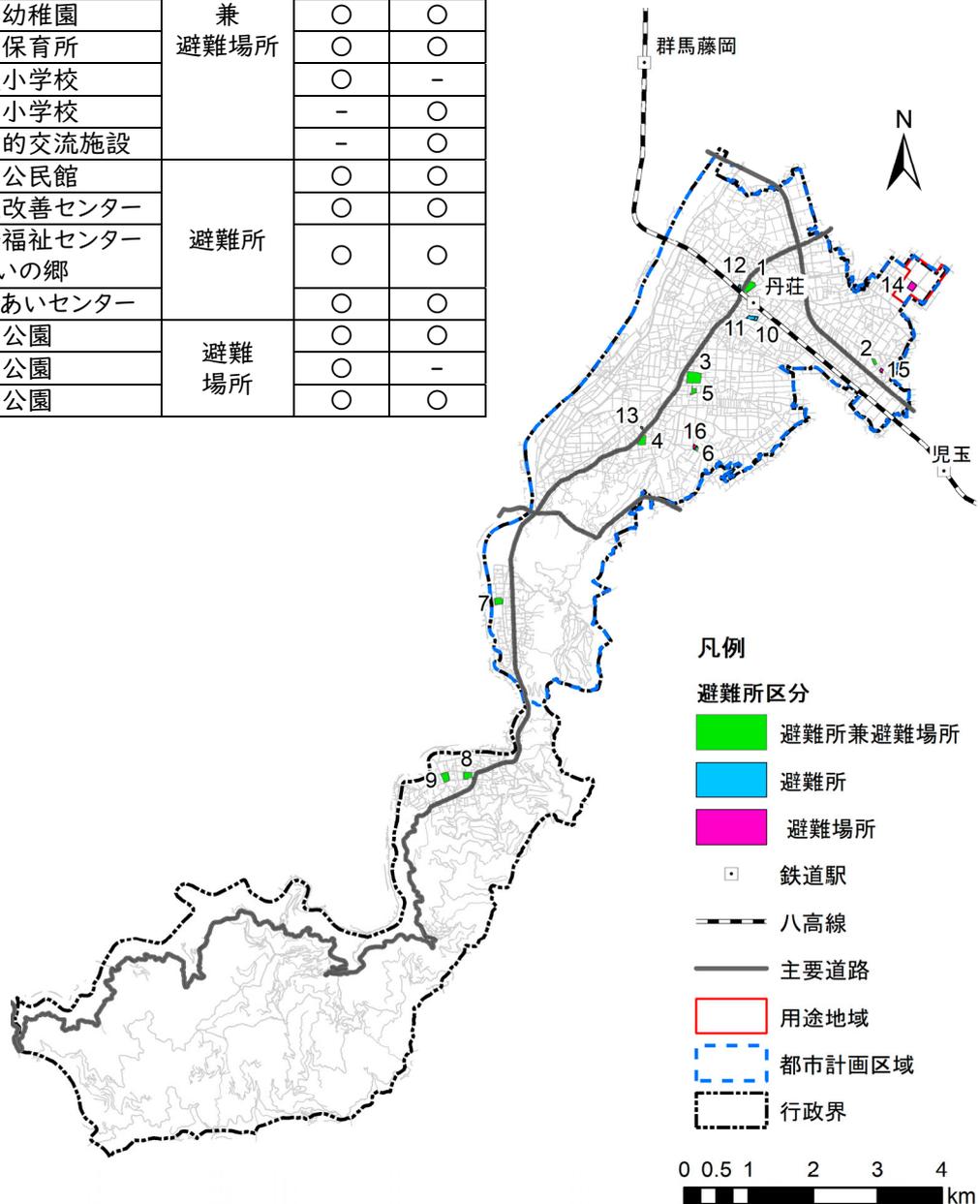
出典: 神川町防災ガイドブック ~ハザードマップ~ (令和4年3月発行)

## ⑦ 避難所・避難場所

- ・避難所・避難場所は16か所指定されており、土砂災害時、洪水浸水時の避難所・避難場所はそれぞれ14か所となっています。
- ・都市計画区域外である神泉地域の避難所兼避難場所は、どちらも土砂災害時の避難には使用できず、災害発生時の避難ルートの確保が必要となります。

■避難所一覧

No.	名称	避難所区分	土砂災害時	洪水浸水時
1	丹荘小学校	避難所兼 避難場所	○	○
2	丹荘保育所		○	○
3	神川中学校		○	○
4	青柳小学校		○	○
5	神川幼稚園		○	○
6	青柳保育所		○	○
7	渡瀬小学校		○	-
8	神泉小学校	避難所	-	○
9	多目的交流施設		-	○
10	中央公民館		○	○
11	就業改善センター		○	○
12	総合福祉センター いこいの郷	避難場所	○	○
13	ふれあいセンター		○	○
14	美原公園		○	-
15	丹荘公園		○	-
16	青柳公園	○	○	



■避難所・避難場所の分布

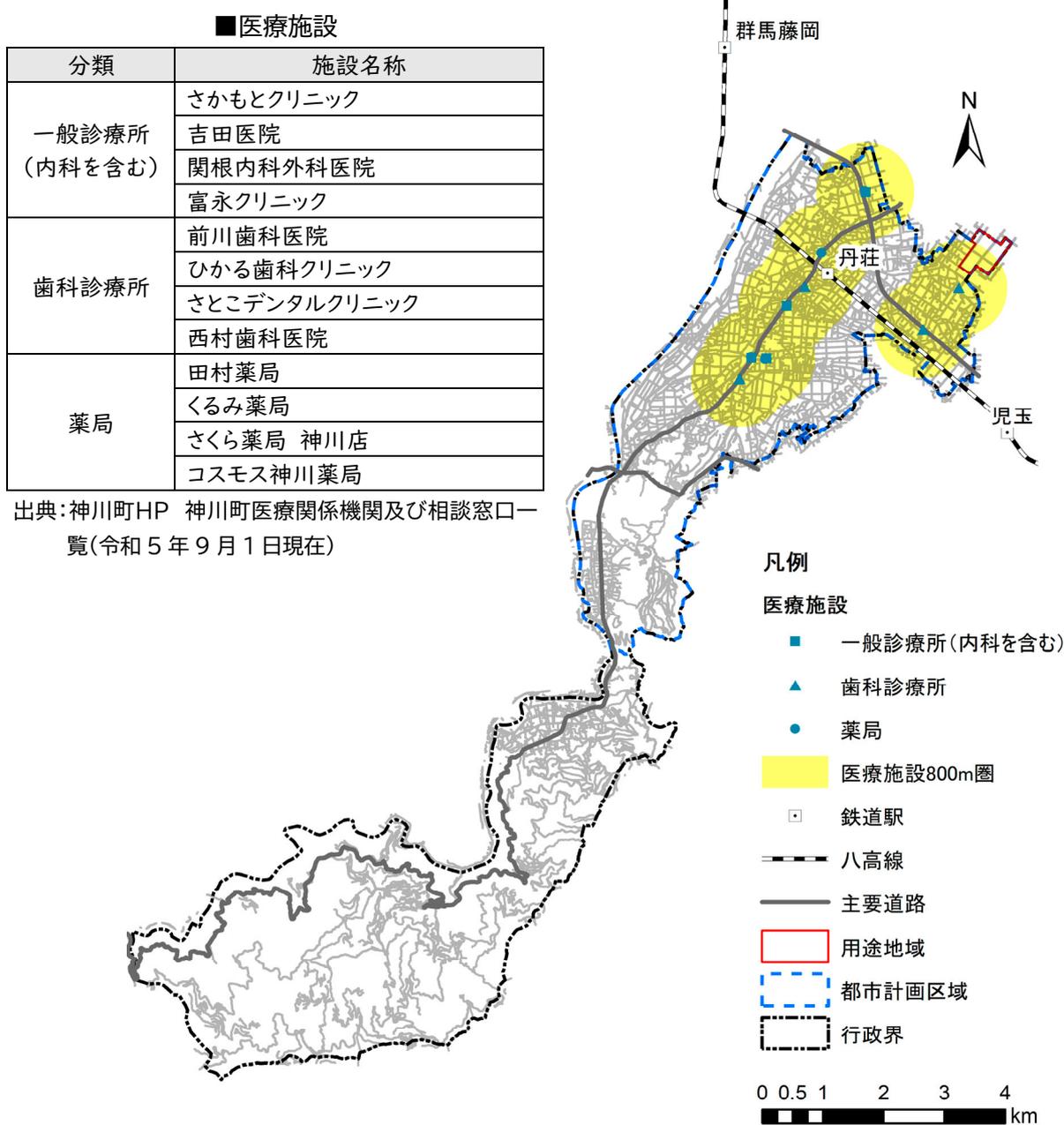
出典:神川町防災ガイドブック ~ハザードマップ~(令和4年3月発行)

## (8) 都市機能

日常生活を支える都市機能の分布状況について整理しました。なお、日常生活を支える都市機能としては、①医療、②福祉、③商業、④金融、⑤子育て支援、⑥公共サービスの6種に区分し、その分布状況と各都市機能から800mを徒歩圏域と設定し、カバー率を把握しました。

### ① 医療施設の分布状況と徒歩圏域

- ・ 医療施設は、病院の立地はなく、診療所が8軒、薬局が4軒立地しており、その分布は都市計画区域のみです。
- ・ 医療施設からの徒歩圏は、町の北部、丹荘駅周辺から神川中学校周辺と児玉工業団地の南側に見られます。



■医療施設の分布と徒歩圏域の状況

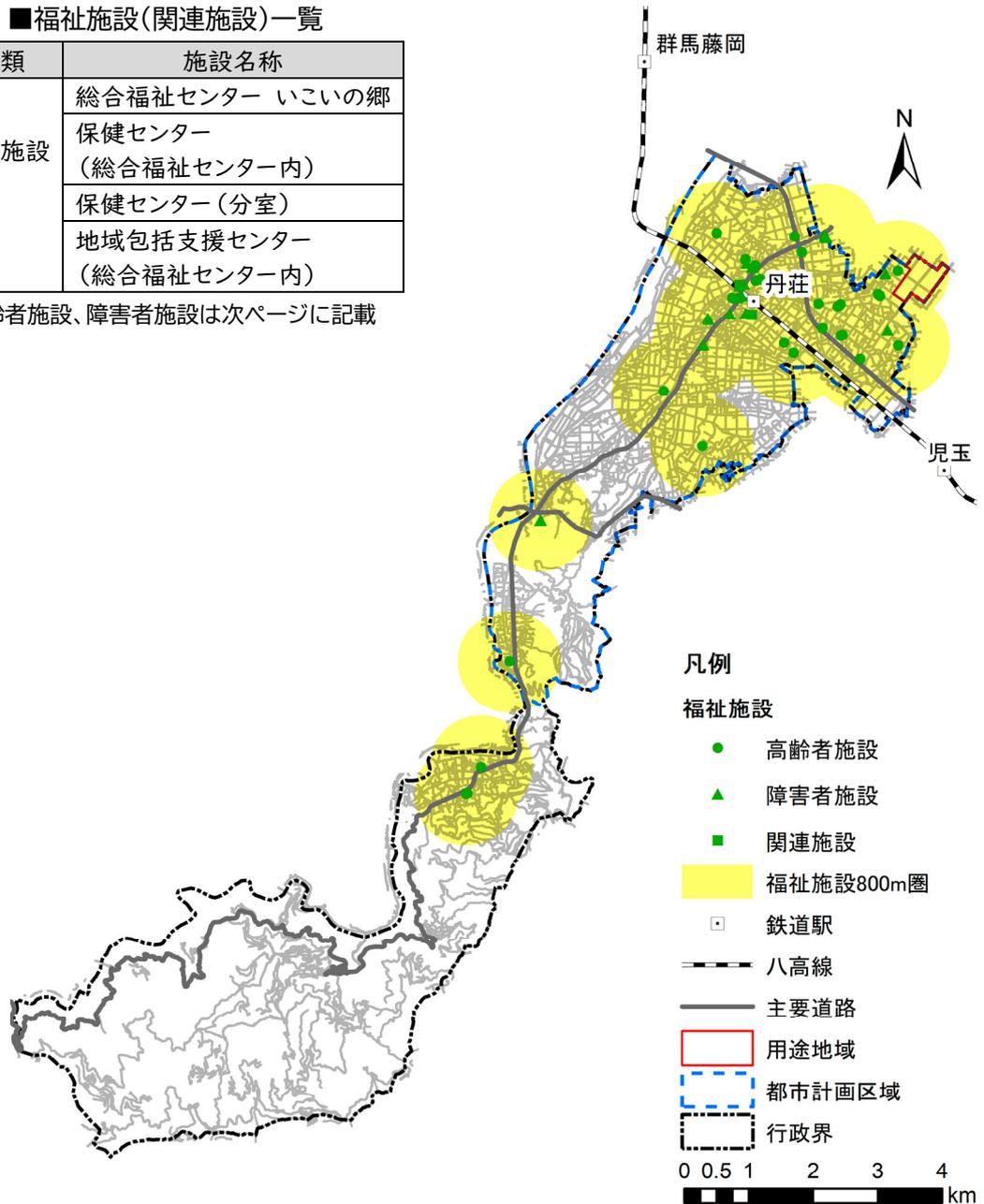
## ② 福祉施設の分布状況と徒歩圏域

- ・福祉施設は、高齢者施設が50軒、障害者施設が28軒、関連施設が4軒立地しています。丹荘駅より北側に多く分布しており、町内中央部や神泉地域にも点在しています。
- ・福祉施設の徒歩圏は、JR八高線周辺を中心にカバーされており、鉄道より北東側については概ねカバーされています。

■福祉施設(関連施設)一覧

分類	施設名称
関連施設	総合福祉センター いこいの郷
	保健センター (総合福祉センター内)
	保健センター(分室)
	地域包括支援センター (総合福祉センター内)

※高齢者施設、障害者施設は次ページに記載



■福祉施設の分布と徒歩圏域の状況

■福祉施設一覧

高齢者施設			
分類	施設名称	分類	施設名称
居宅介護支援	老人保健施設かみかわ	通所リハビリテーション(予防)	老人保健施設かみかわ
	在宅介護支援センター いずみ	短期入所生活介護(予防)	特別養護老人ホーム いろりの友
	神川町社会福祉協議会 ケアプランセンター		特別養護老人ホーム いずみ
	居宅介護支援事業所 こだま		ショートステイ 結いの心
	ケアプラン 結い	短期入所療養介護(予防)	老人保健施設かみかわ
訪問介護	神川町訪問介護ステーション	特定施設入居者生活介護(予防)	ベストケアレジデンス 羽衣
	生活サービス・ステーション かたくり	福祉用具貸与(予防)	はなわ福祉用具事業所
	訪問介護 ペンタス		グループホーム ゆうゆう倶楽部
	訪問介護こむぎ	認知症対応型共同生活介護	グループホーム わたど
訪問看護(予防) アイリス訪問看護	グループホーム さくらプラザ		
訪問リハビリテーション(予防) 老人保健施設かみかわ	グループホーム らんらん倶楽部		
通所介護 ・ 地域密着型 通所介護	特別養護老人ホーム いずみ	介護老人福祉施設	特別養護老人ホーム いろりの友
	デイサービスセンター ガイア		特別養護老人ホーム いずみ
	デイサービスセンター だんだん	介護老人保健施設	老人保健施設 かみかわ
	はなわデイサービス	有料老人ホーム	住宅型有料老人ホーム こしの神川
	デイサービスセンター さくらの郷		住宅型有料老人ホーム ガイア神川
	ケアステーションあさひ 神川		シルバーホーム ペンタス
	デイサービス ペンタス		住宅型有料老人ホーム こしの神川 八日市
	デイサービスセンター こむぎ式番館		住宅型有料老人ホーム 優和の里神川
	デイサービスセンター ゆうわの里神川	住宅型有料老人ホーム 優和の里本館	
	デイサービスセンター ゆうわの里本館	サービス付き 高齢者向け住宅	はなわホーム
	リハビリ特化型デイサービスセンター 八日市		はなわホーム A 棟
	ありの実デイサービス		ふるさとホーム神川
	デイサービス 梨花		さくらの郷
	デイサービス 結いの心		シルバーホーム こむぎ式番館

障害者施設			
分類	施設名称	分類	施設名称
計画相談支援	障害者相談支援センター パレット	短期入所	ルピナス神川ホーム
	指定特定相談支援事業所 ルピナス神川		グループホームハナハナ
就労継続支援 B 型	彩花事務所	共同生活援助	グループホームつばさ
	ステージワン		アイリス
	就労継続支援施設 B 型 こねくと		ケアホーム きずな
	障害福祉サービス事業所 つどい		彩花ホーム
	神川フロンティア		障がい者グループホーム こねくと
生活介護	障害福祉サービス事業所 つどい	児童発達支援	ピース
	デイケアセンターぬくもり		コンパス
	ルピナス神川ホーム	放課後等サービス	ピース
神川フロンティア	コンパス		
居宅介護	神川町訪問介護ステーション	保育所等訪問支援	カラフル かみかわ
重度訪問介護	神川町訪問介護ステーション		コンパス
施設入所支援	ルピナス神川ホーム		
	神川フロンティア		

※一つの施設で複数機能あるものについてはそれぞれの分類で記載

出典:神川町資料

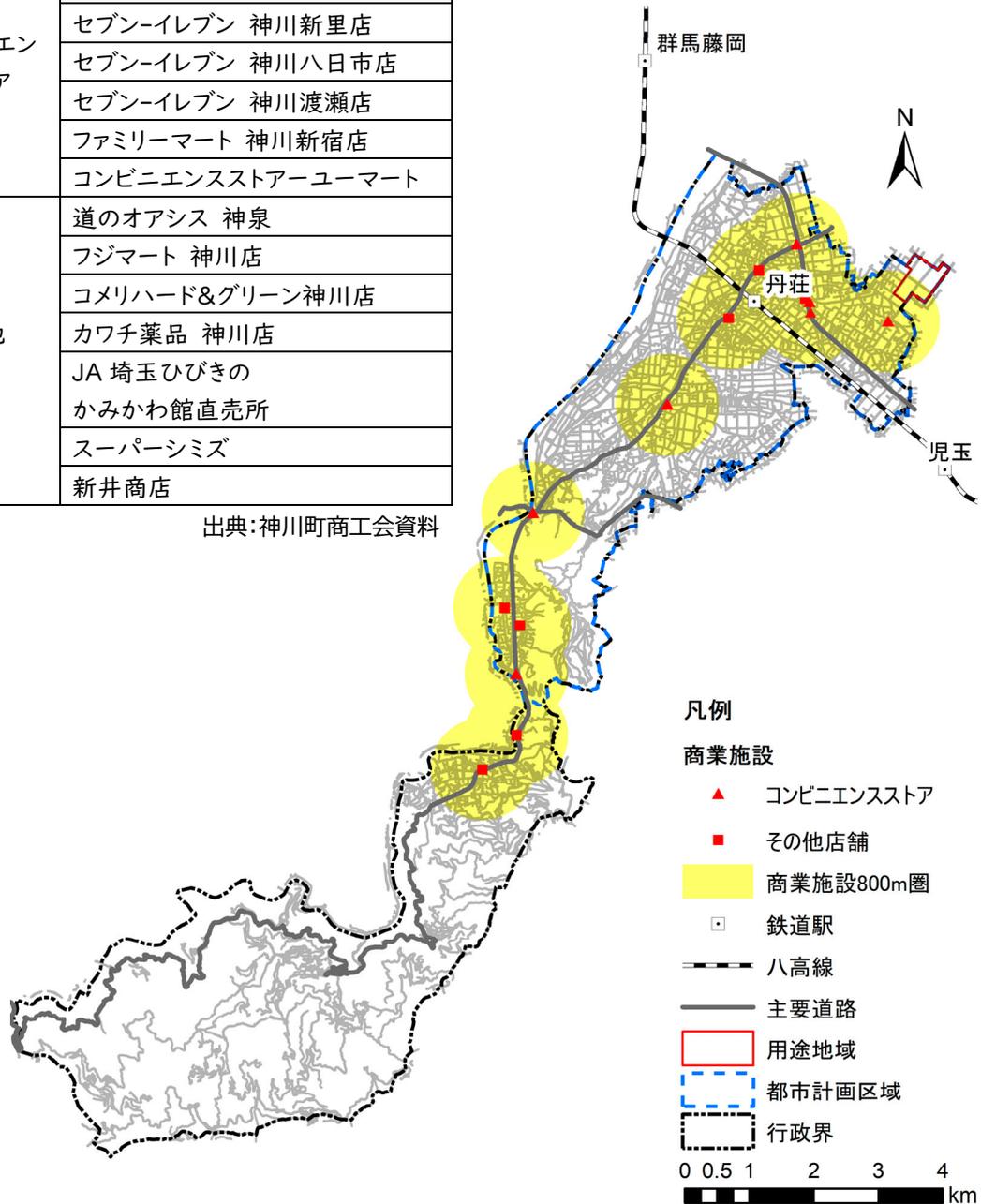
### ③ 商業施設の分布状況と徒歩圏域

- ・商業施設は、コンビニエンスストアが7軒、その他店舗が7軒立地しています。丹荘駅周辺と町内中央部に多く立地していることが分かります。
- ・商業施設の徒歩圏は、丹荘駅周辺と見玉工業団地周辺、渡瀬と下阿久原地区に連続して見られます。

#### ■商業施設

分類	施設名称
コンビニエンスストア	ローソン 神川熊野堂店
	ローソン 神川元阿保店
	セブン-イレブン 神川新里店
	セブン-イレブン 神川八日市店
	セブン-イレブン 神川渡瀬店
	ファミリーマート 神川新宿店
	コンビニエンスストアユーマーケット
その他店舗	道のオアシス 神泉
	フジマート 神川店
	コメリハード&グリーン神川店
	カワチ薬品 神川店
	JA 埼玉ひびきの かみかわ館直売所
	スーパーシミズ
	新井商店

出典:神川町商工会資料



■商業施設の分布と徒歩圏域の状況

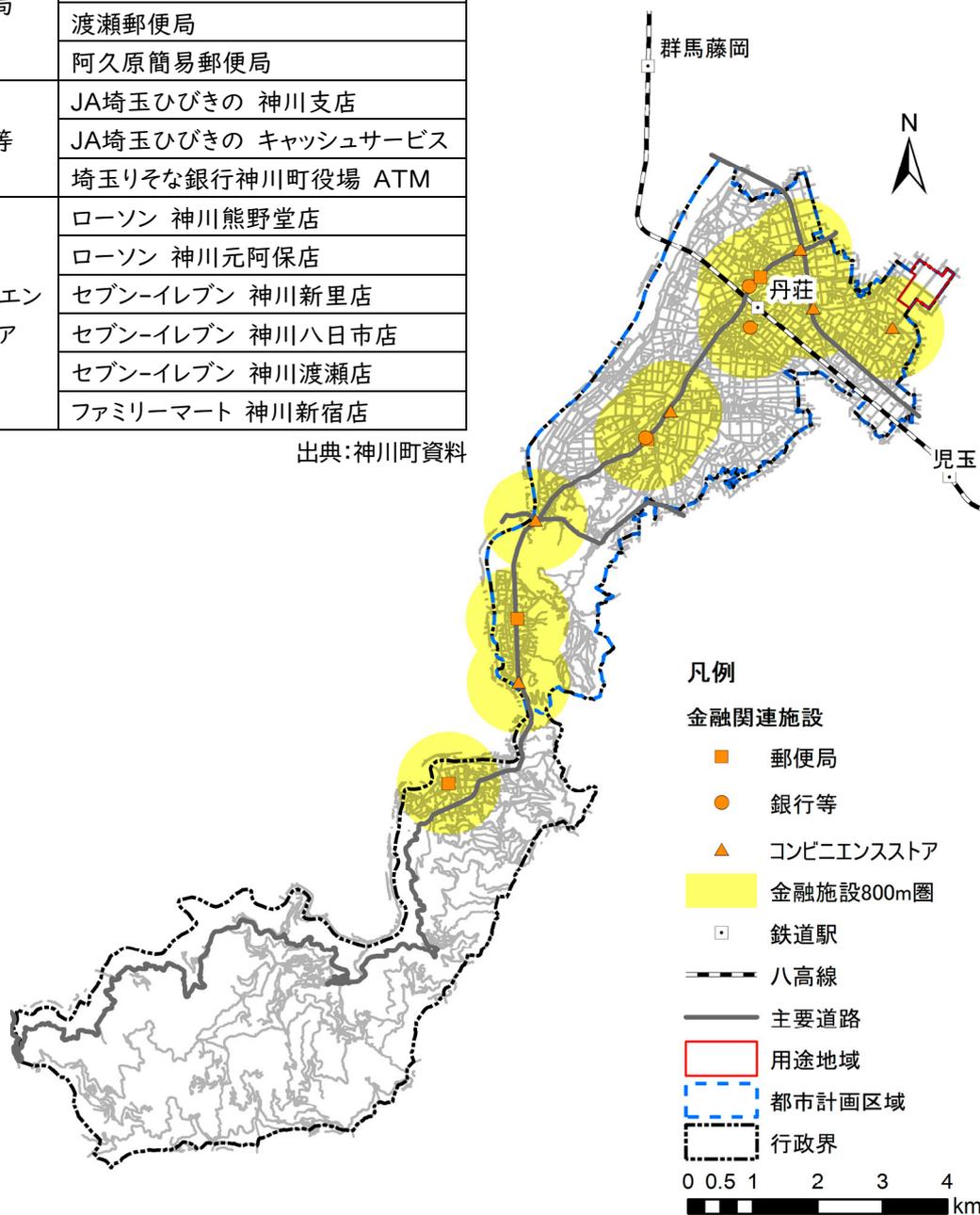
#### ④ 金融関連施設の分布状況

・金融関連施設は、郵便局が4軒、銀行等が3軒、ATMが設置されているコンビニエンスストアが6軒立地しています。施設数は多くはありませんが、立地の偏りは少ないです。

■金融関連施設

分類	施設名称
郵便局	丹荘郵便局
	青柳郵便局
	渡瀬郵便局
	阿久原簡易郵便局
銀行等	JA埼玉ひびきの 神川支店
	JA埼玉ひびきの キャッシュサービス
	埼玉りそな銀行神川町役場 ATM
コンビニエンスストア	ローソン 神川熊野堂店
	ローソン 神川元阿保店
	セブン-イレブン 神川新里店
	セブン-イレブン 神川八日市店
	セブン-イレブン 神川渡瀬店
	ファミリーマート 神川新宿店

出典:神川町資料



■金融関連施設の分布と徒歩圏域の状況

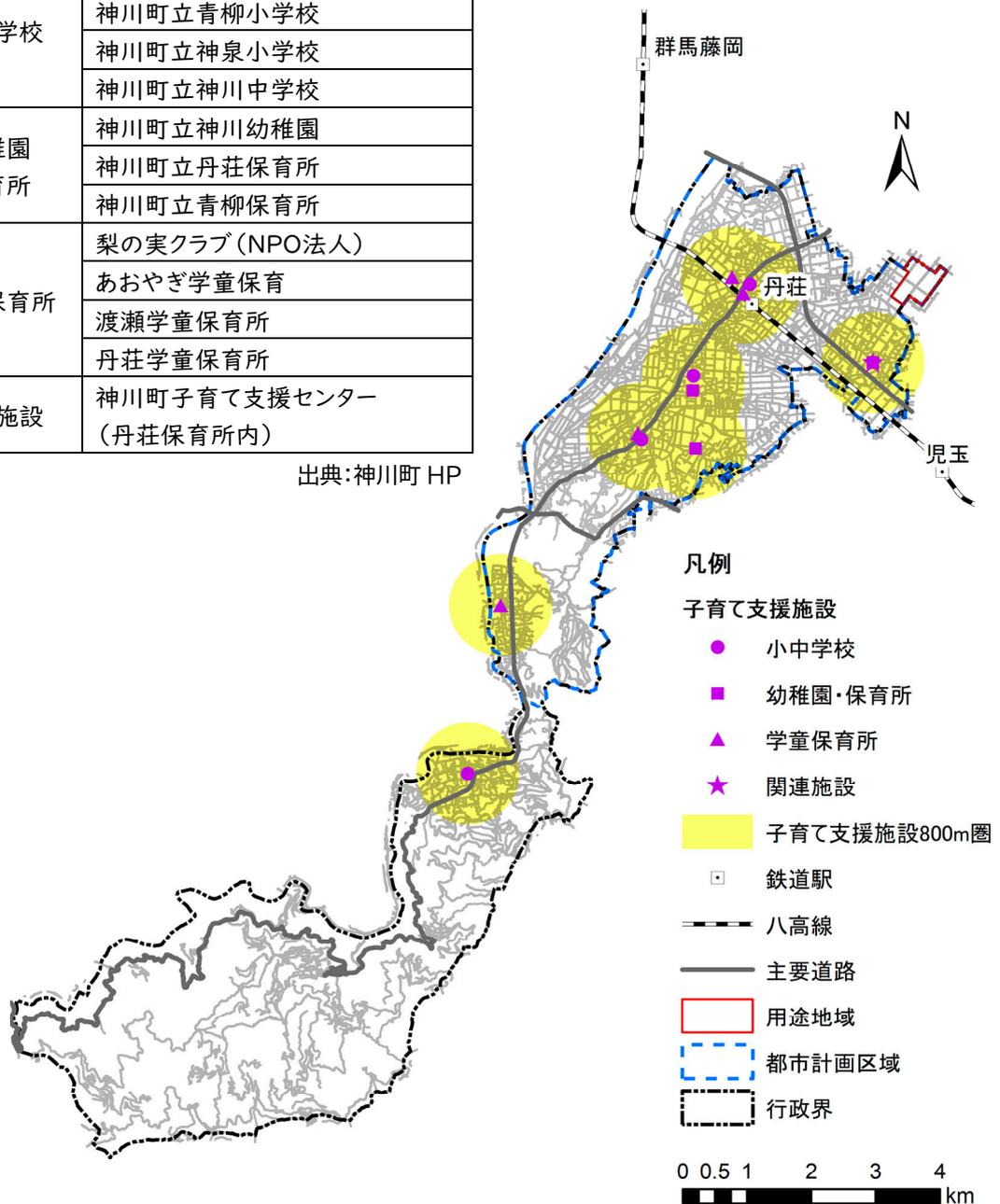
### ⑤ 子育て支援施設の分布状況

- ・子育て支援施設は、小学校が3校、中学校が1校、幼稚園・保育所が3か所、学童保育所が4か所、関連施設が1か所立地しています。
- ・小中学校、幼稚園・保育所、学童施設が町内北側と中央部に立地していますが、神泉地域については小学校のみ立地しています。
- ・各施設の徒歩圏は、丹荘駅から新里、八日市、渡瀬、下阿久原地区の一部をカバーしています。

#### ■子育て支援施設

分類	施設名称
小中学校	神川町立丹荘小学校
	神川町立青柳小学校
	神川町立神泉小学校
	神川町立神川中学校
幼稚園 保育所	神川町立神川幼稚園
	神川町立丹荘保育所
	神川町立青柳保育所
学童保育所	梨の実クラブ(NPO法人)
	あおやぎ学童保育
	渡瀬学童保育所
	丹荘学童保育所
関連施設	神川町子育て支援センター (丹荘保育所内)

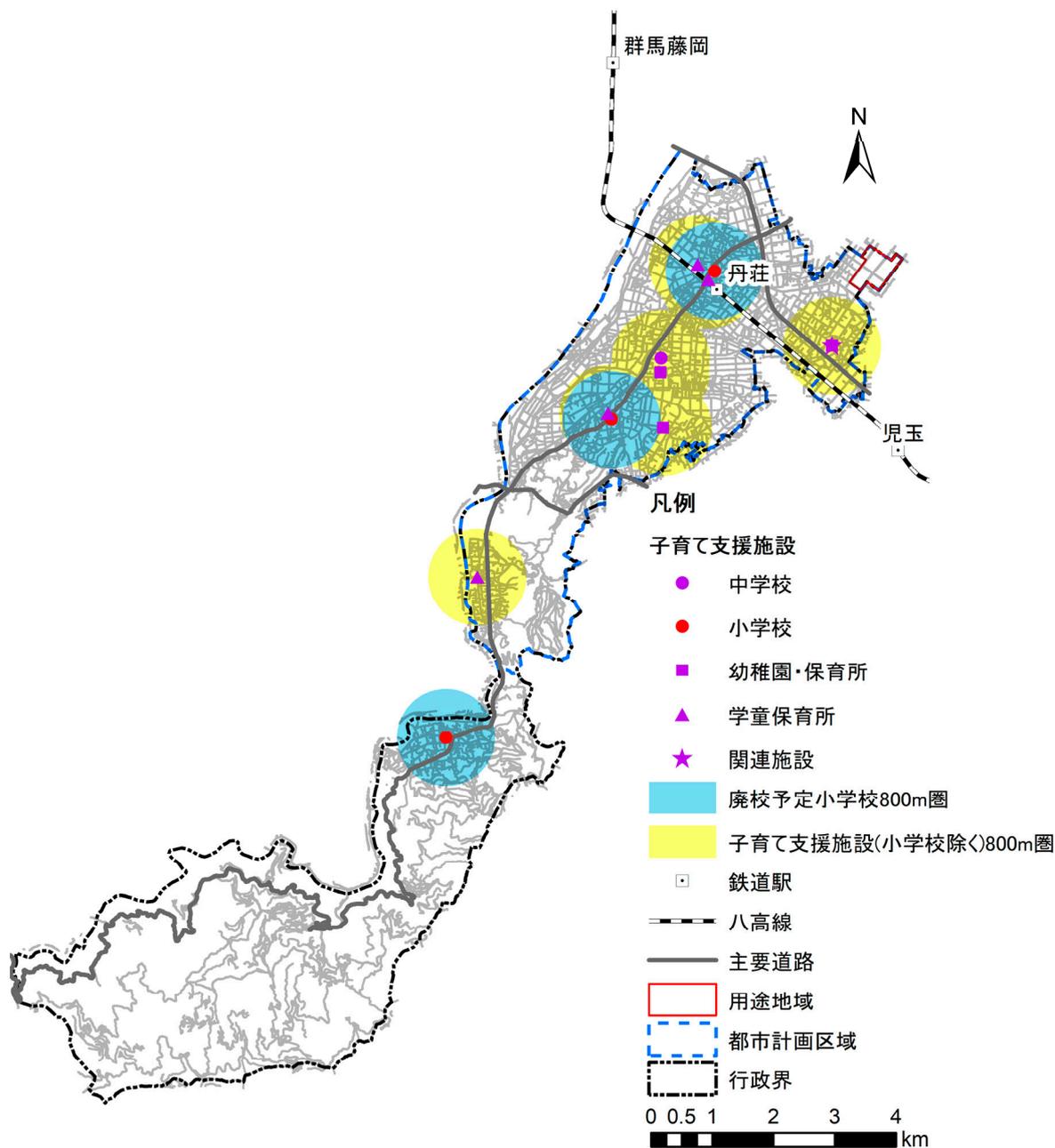
出典:神川町 HP



■子育て支援施設の分布と徒歩圏域の状況

「神川町立小学校適正規模・適正配置に係る基本方針（令和5年3月策定）」では、今後の児童数の減少を想定し、令和15（2033）年を目途に神川中学校の場所に、町内にある小学校全校を1校に統合する方針が示されています。今後廃校予定となる小学校から800m圏を青色の円で示します。また、幼稚園と保育所を統合し、認定こども園とする計画も進められています。

- ・子育て支援施設の徒歩圏は、廃校予定の小学校周辺に幼稚園・保育所、学童保育所があり、神泉地域以外の徒歩圏は保たれています。



■ 子育て支援施設の分布と徒歩圏域の状況

## ⑥ 公共施設の分布状況

### 1) 行政機能

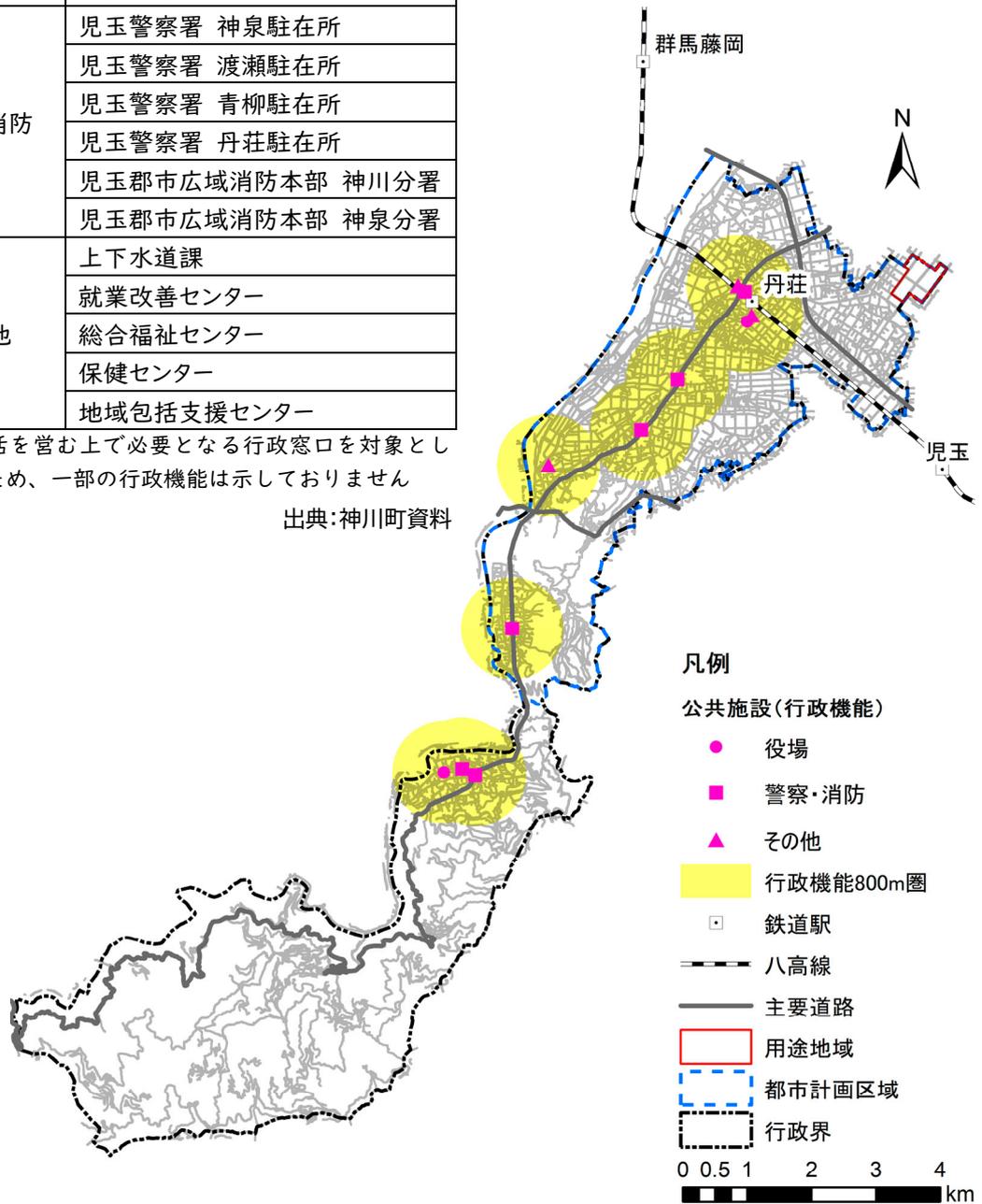
- ・行政機能を有する公共施設は、町役場、駐在所、上下水道関連施設等が立地しています。
- ・町内を南北にわたって偏りなく点在していることが分かります。

#### ■公共施設(行政機能)

分類	施設名称
役場	神川町役場
	神泉総合支所
警察・消防	児玉警察署 神泉駐在所
	児玉警察署 渡瀬駐在所
	児玉警察署 青柳駐在所
	児玉警察署 丹荘駐在所
	児玉郡市広域消防本部 神川分署
	児玉郡市広域消防本部 神泉分署
その他	上下水道課
	就業改善センター
	総合福祉センター
	保健センター
	地域包括支援センター

※日常生活を営む上で必要となる行政窓口を対象としているため、一部の行政機能は示しておりません

出典:神川町資料



■公共施設(行政機能)の分布と徒歩圏域の状況

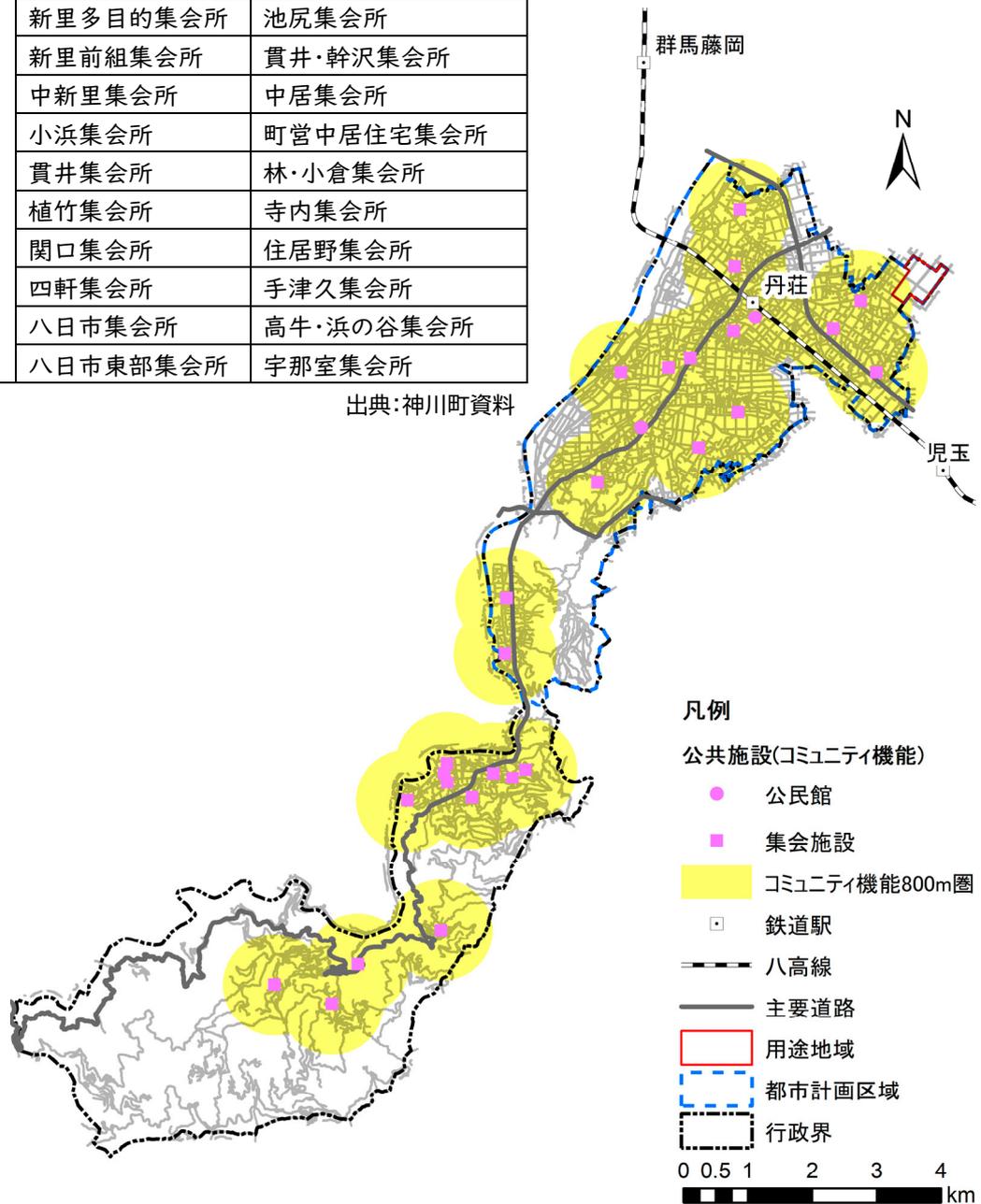
## 2) コミュニティ機能

- ・コミュニティ機能を有する公共施設は、28施設が立地しています。
- ・都市計画区域内に16施設、都市計画区域外に12施設立地しており、町内を広くカバーしていることが分かります。

### ■公共施設(コミュニティ機能)

分類	施設名称	
公民館 集会施設	神川町中央公民館	三原集会所
	ふれあいセンター	渡瀬コミュニティ集会所
	多目的交流施設	渡瀬21区集会所
	池田集会所	桜城集会所
	新里多目的集会所	池尻集会所
	新里前組集会所	貫井・幹沢集会所
	中新里集会所	中居集会所
	小浜集会所	町営中居住宅集会所
	貫井集会所	林・小倉集会所
	植竹集会所	寺内集会所
	関口集会所	住居野集会所
	四軒集会所	手津久集会所
	八日市集会所	高牛・浜の谷集会所
	八日市東部集会所	宇那室集会所

出典: 神川町資料



### ■公共施設(コミュニティ機能)の分布と徒歩圏域の状況

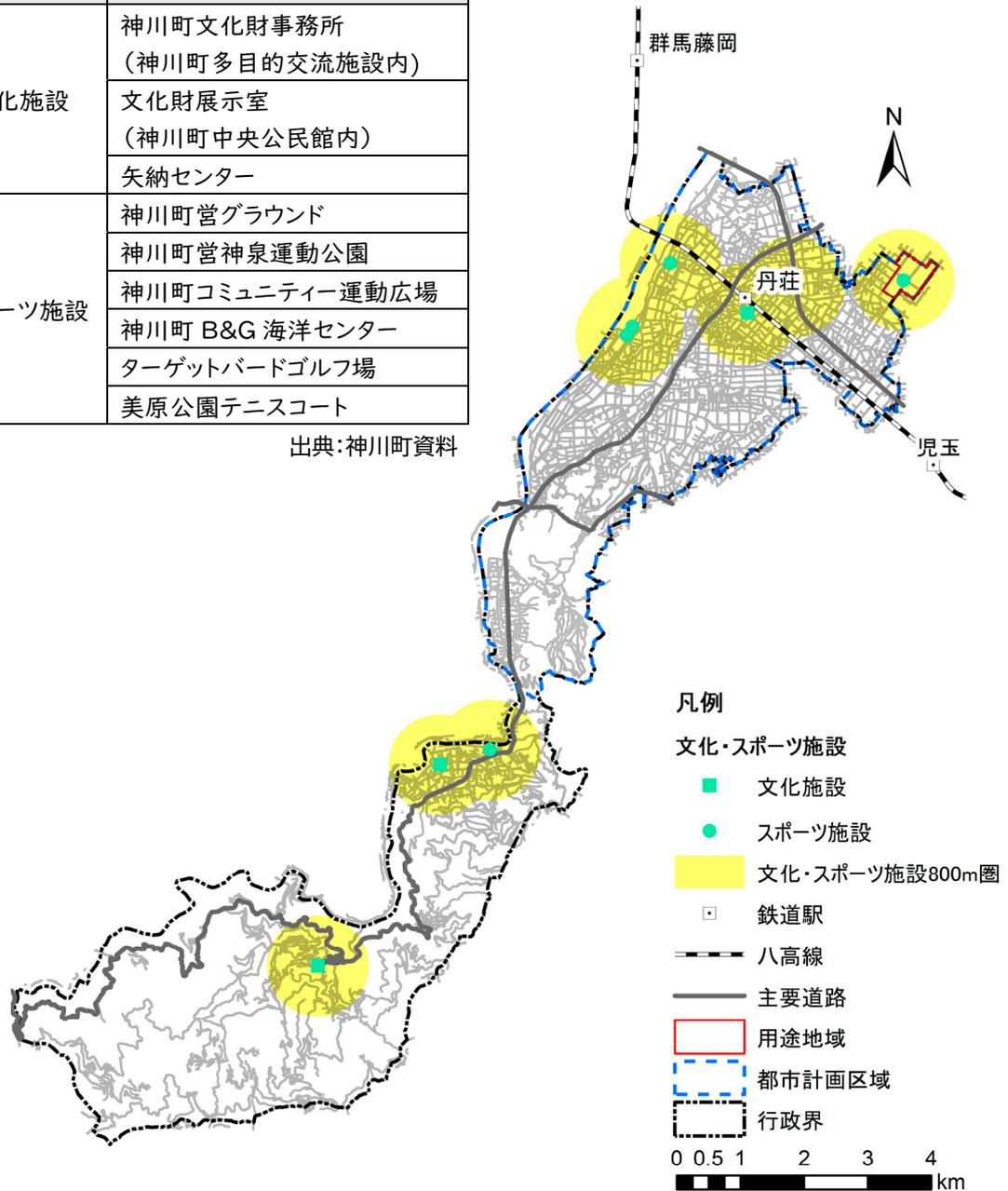
### 3) 文化・スポーツ機能

- ・文化・スポーツ機能を有する公共施設は、文化施設が3施設、スポーツ施設が6施設立地しています。
- ・運動場等は神流川沿いに立地し、用途地域内にスポーツ施設が1施設立地しています。
- ・各施設からの徒歩圏は、町の一部のみとなっており、丹荘駅より南西の役場周辺はカバーされていません。

■公共施設(文化・スポーツ施設)

分類	施設名称
文化施設	神川町文化財事務所 (神川町多目的交流施設内)
	文化財展示室 (神川町中央公民館内)
	矢納センター
スポーツ施設	神川町営グラウンド
	神川町営神泉運動公園
	神川町コミュニティ運動広場
	神川町 B&G 海洋センター
	ターゲットバードゴルフ場
	美原公園テニスコート

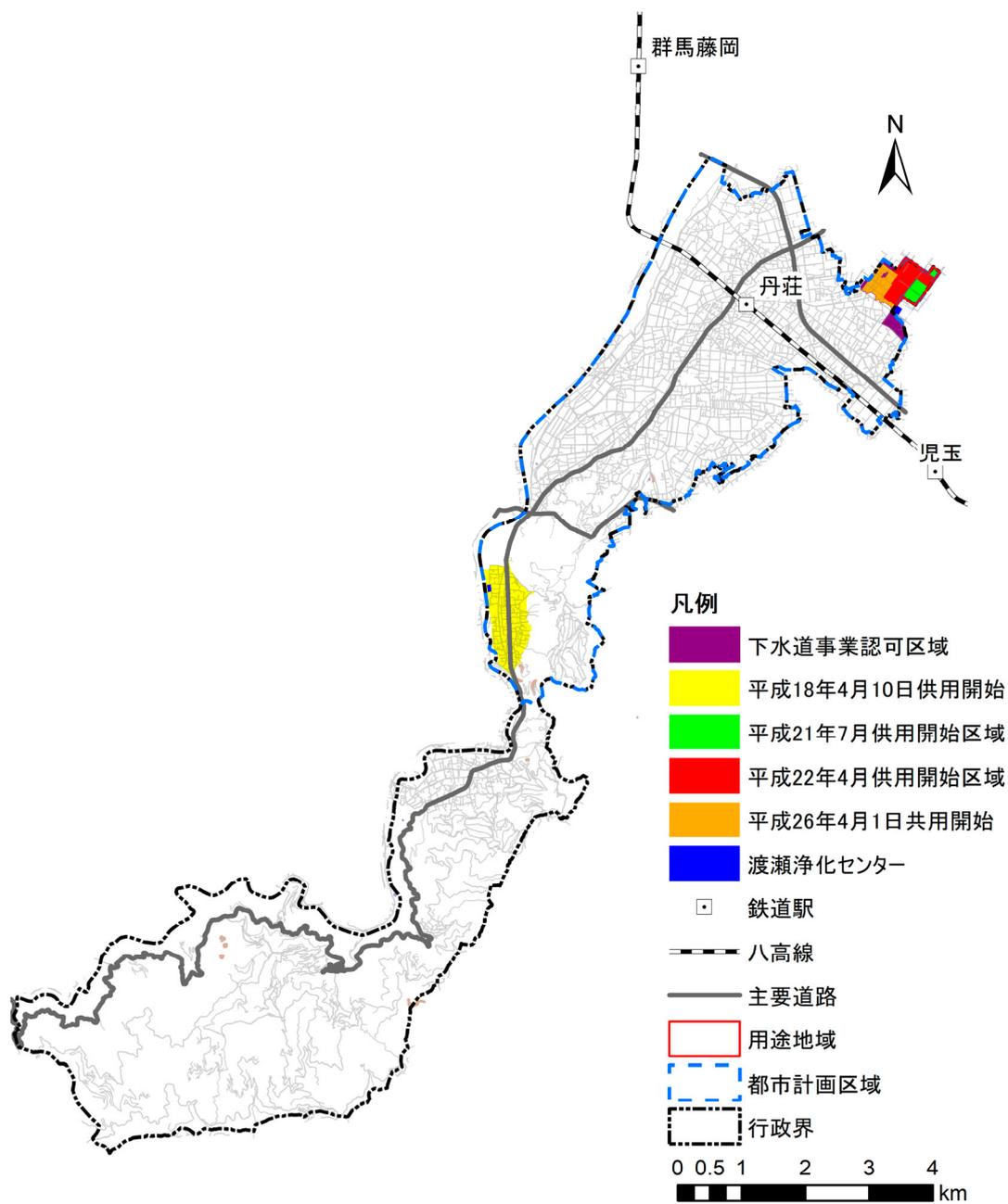
出典:神川町資料



■公共施設(文化・スポーツ機能)の分布と徒歩圏域の状況

## (9) 下水道事業

- ・本町は、下水道事業により一部地域で下水道整備を行っています。
- ・下水道は児玉工業団地の一部と渡瀬地区が供用開始となっており、事業認可区域として、児玉工業団地の周辺が指定されています。

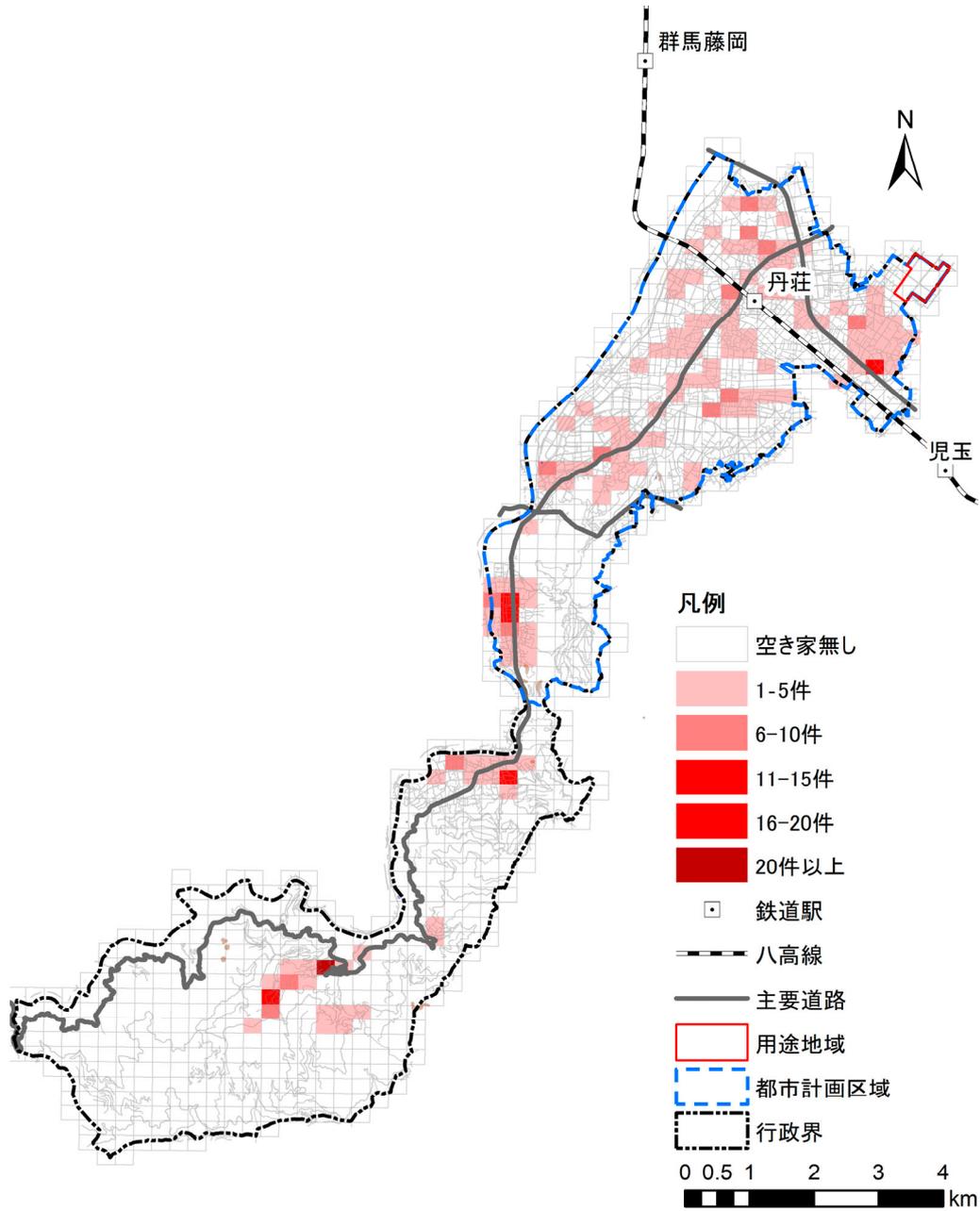


■ 下水道の整備状況

出典：神川町資料

## (10) 空き家

- ・ 空き家は、町内に満遍なく点在しており、都市計画区域内では渡瀬地区と八日市地区の一部でまとまった分布状況となっています。



■ 空き家分布状況

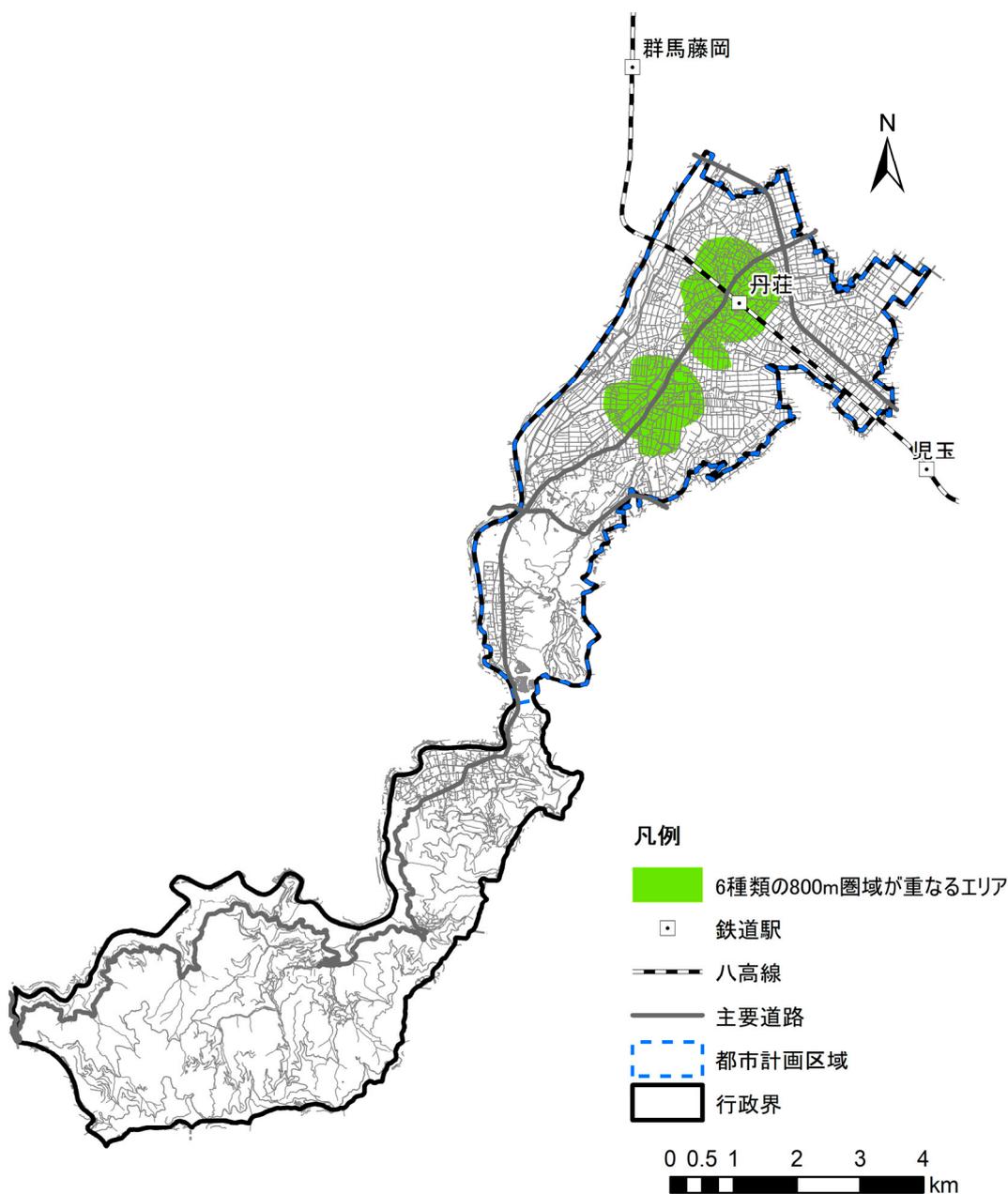
出典：神川町資料(平成28年時点)

## 2. 都市構造の分析と整理

都市機能（医療、福祉、商業、金融、子育て支援、公共施設）や居住機能の立地動向について把握し、現況を踏まえた上で、集約型都市づくりに向けた都市構造の分析を行います。子育て支援施設については、廃校予定の小学校を除いた圏域で整理しました。

### (1) 6種の都市機能集積状況と徒歩圏域

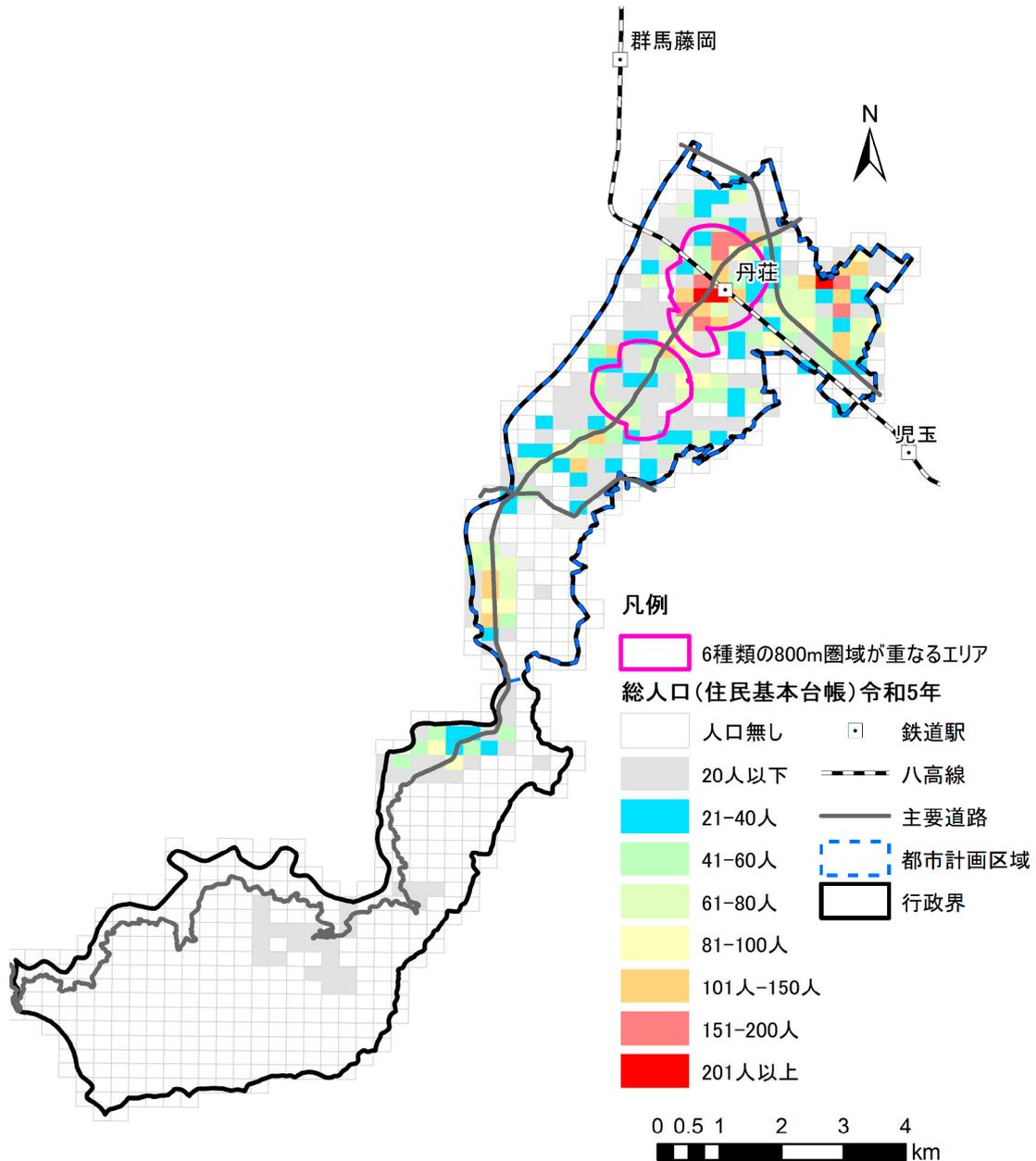
- ・日常生活を支える医療、福祉、商業、金融、子育て支援、公共施設（行政機能のみ）の6種の都市機能の集積状況を見ると、丹荘駅と神川中学校周辺にかけて徒歩による利便性の高いエリアが広がっていることが分かります。
- ・町内全域で見ると都市構造としては、都市機能が集積している北部にエリアがまとまっていることが分かります。



■ 6種の都市機能の徒歩圏域の重なり状況

## (2) 6種の都市機能集積状況と徒歩圏域×人口分布

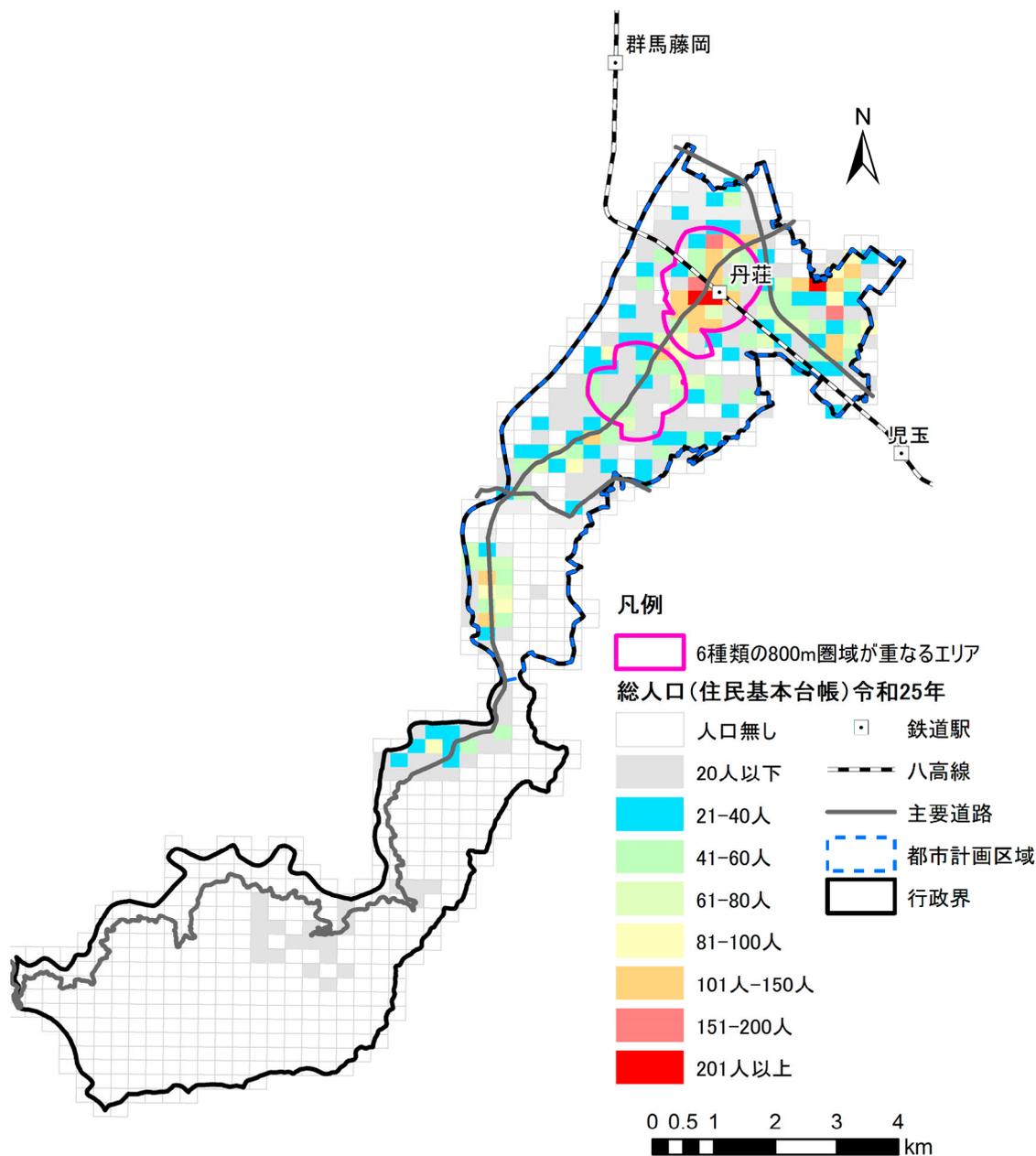
- ・令和5（2023）年の総人口の分布と6種の都市機能の集積状況から見た徒歩圏は、丹荘駅周辺の人口が多い地区と重なっています。
- ・一方で、児玉工業団地や渡瀬地区等の人口100人以上が集積している地区は、都市機能の徒歩圏域外となっており、児玉工業団地周辺では消防や警察等を含む行政機能が、渡瀬地区では医療施設がなく、生活サービス施設の一部が整っていない状況です。



■総人口(令和5年)×6種の都市機能の徒歩圏域の重なり状況

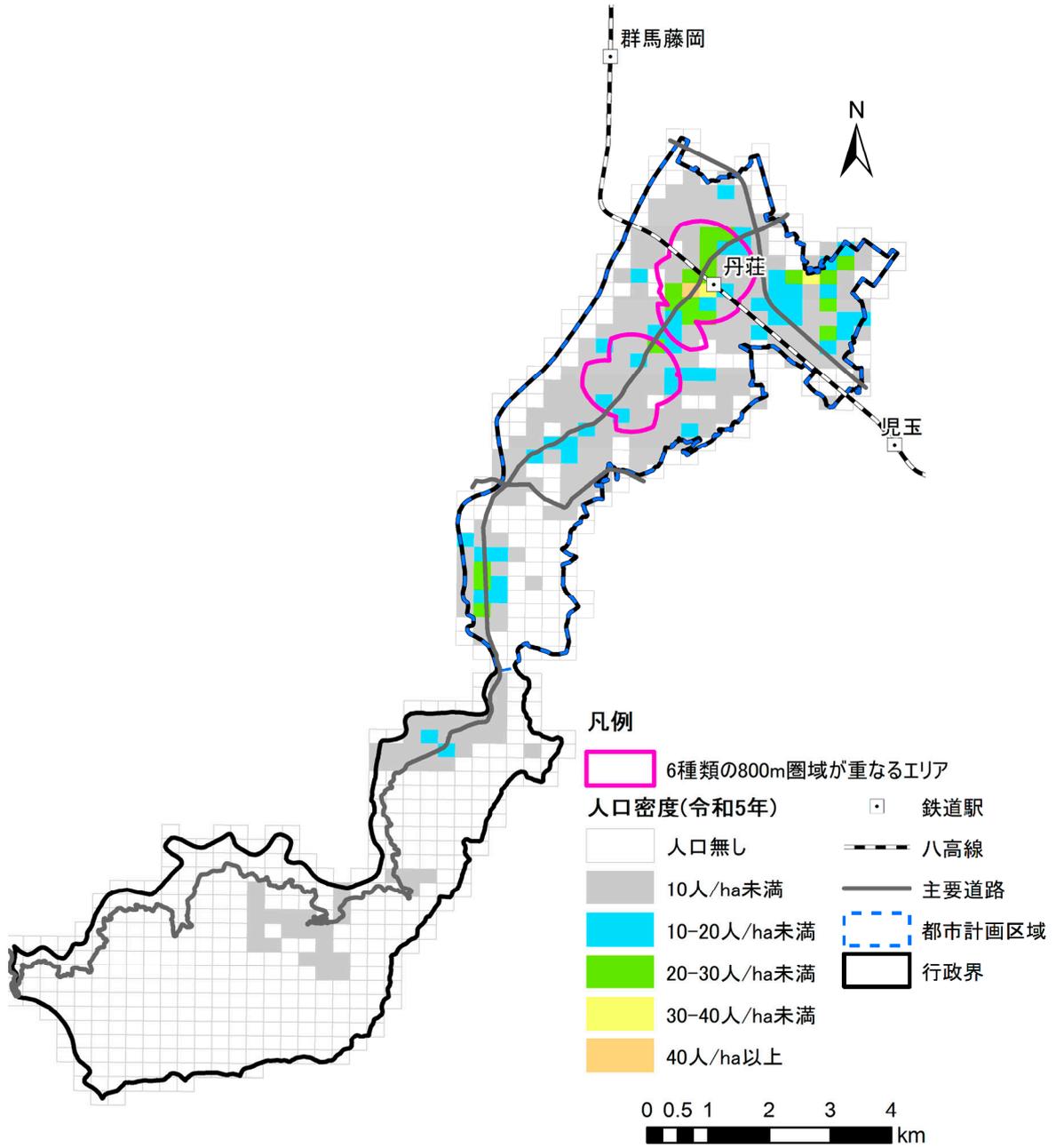
出典:住民基本台帳、神川町資料

- ・令和 25（2043）年の総人口と 6 種の都市機能の集積状況から見た徒歩圏は、神川中学校周辺では人口 40 人以下の地区が多く、今後都市機能の維持が困難になる可能性があります。



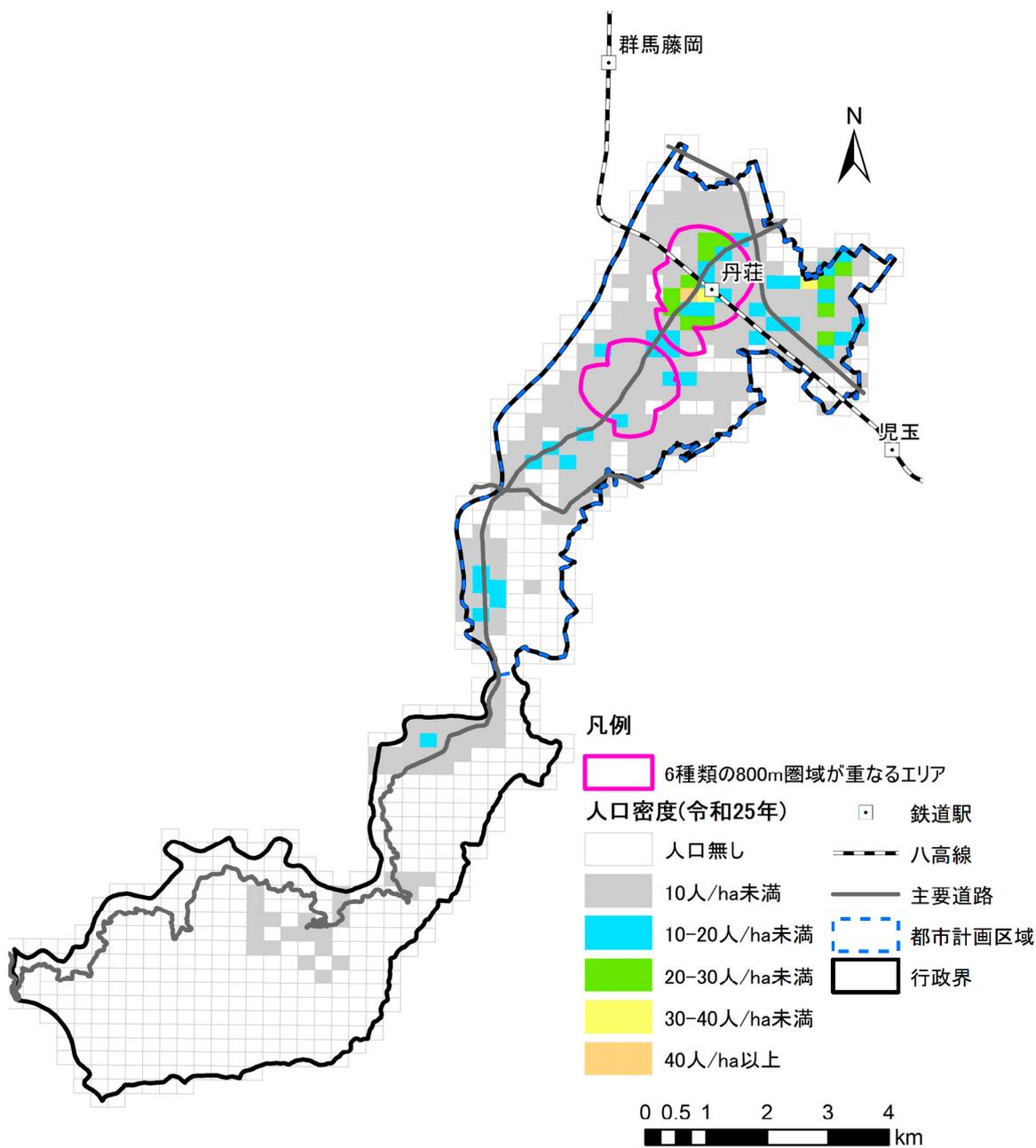
■総人口(令和 25 年)×6 種の都市機能の徒歩圏域の重なり状況

出典:住民基本台帳、神川町資料



■人口密度(令和5年)×6種の都市機能の徒歩圏域の重なり状況

出典:住民基本台帳、神川町資料



■推計人口密度(令和25年)×6種の都市機能の徒歩圏域の重なり状況

出典:住民基本台帳、神川町資料

### (3) 神川町のまちづくりの問題

第2章で整理した現況から以下のような問題が考えられます。

#### 人口

- ・平成12年をピークに人口減少し、少子高齢化が進行。人口推計により、約20年後に高齢化率が約5割となる。
- ・若年層や子育て世帯の人口の減少により、少子高齢化がより深刻化する可能性。
- ・人口密度の低下により、行政機能や生活サービス等の都市機能の維持困難、生活利便性の低下。
- ・人口減少による経済・産業活動の縮小により税収が低下する恐れがある一方で、高齢化の進行による社会保障費等の増加等の問題が考えられる。

#### 土地利用

- ・住宅、太陽光発電施設等への土地利用転換により、農地が減少している。
- ・太陽光発電施設等が増加し、農地等の自然的土地利用が減少している。
- ・空き家が町内に点在しており、今後も人口減少に伴い空き家の増加が予想される。一方で、農地転用による住宅が増加している。
- ・地価の緩やかな減少により、固定資産税の減少、市街地の活力低下する可能性がある。

#### 公共交通

- ・鉄道やバス等の公共交通は、町民アンケートにより日常不可欠とされつつも、通勤通学時間の本数が少ないなど利便性が低い状況である。
- ・町民の多くが移動手段として車を用いており、高齢者や学生等の交通弱者の移動手段が少ない。
- ・丹荘駅の近隣に民営バスが通っているが、鉄道を含めて本数が少なく交通利便性が低い。

#### 防災

- ・渡瀬地区は、土砂災害特別警戒区域に近接し、土砂災害警戒区域内にも市街地が形成されている。
- ・神流川に近い地域では浸水想定区域が広がり、災害リスクの高い地域での居住が見られる。

#### 都市機能

- ・丹荘駅周辺や神川中学校周辺に6種の都市機能が集積しているが、小規模な施設が多く、拠点性が低い。
- ・今後、小学校の統廃合による旧校舎の利用について検討を進めていくことが考えられる。